

三重県南海トラフ地震被害想定 (本編)



令和 8 年 3 月 30 日
三重県防災対策部

目次

1. はじめに	(1) 南海トラフ地震について	P 1
	(2) 三重県の地形及び地震災害リスク	P 2
	(3) 被害想定について	P 3
2. ハザード評価	(1) ハザード評価項目の一覧	P 6
	(2) ハザード評価の目的及び手法について	P 7
	(3) ハザード評価結果	P 34
3. リスク評価 (※1)	(1) リスク評価項目の一覧	P 64
	(2) リスク評価結果【人的被害】	P 65
	(3) リスク評価結果【建物被害】	P 91
	(4) リスク評価結果【火災被害】	P 106
4. 半割れケース	(1) 今回想定する半割れケースについて	P 115
	(2) 半割れケースの評価結果【ハザード】	P 117
	(3) 半割れケースの評価結果【リスク】	P 123
(巻末) 用語集 (※2)		P 131

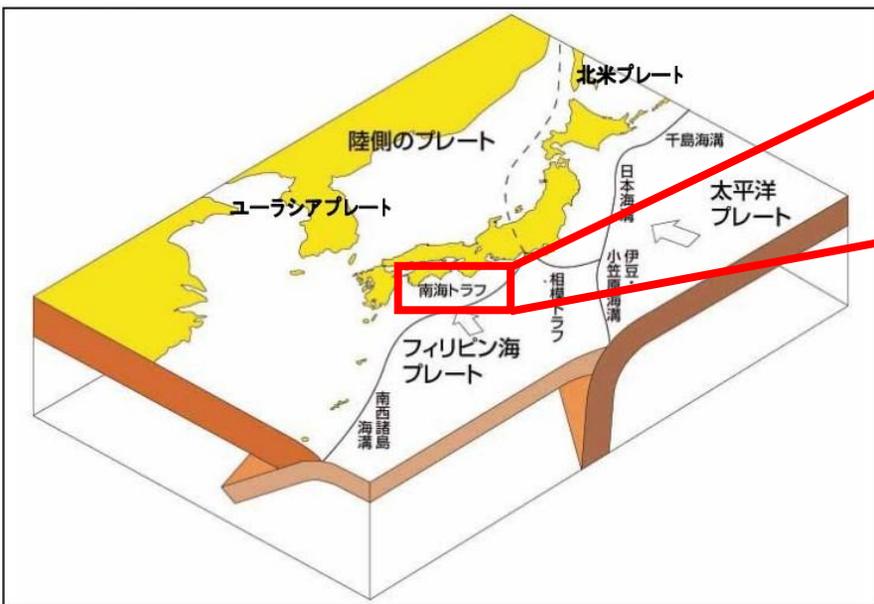
(※1) 上記以外のリスク評価結果は令和8年度の公表を予定しています。

(※2) 専門的な用語について、巻末の用語集で解説しています。該当する用語には「*」を付けています。

1. はじめに (1) 南海トラフ地震について

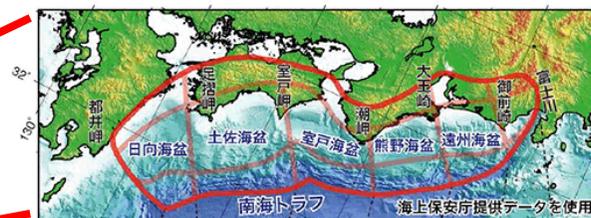
- 「南海トラフ*」とは、駿河湾から日向灘沖にかけての海底の溝状の地形を指します。
- 南海トラフ沿いで発生する、陸側のプレート*が引きずり込みに耐えられなくなり跳ね上がることで発生する地震のことを「南海トラフ地震」と呼んでいます。
- 南海トラフ地震は**概ね100~150年間隔で繰り返し発生**しており、1944年、熊野灘を震源に発生した昭和東南海地震においては、**三重県でも甚大な被害**をおよぼしました。

日本周辺のプレート

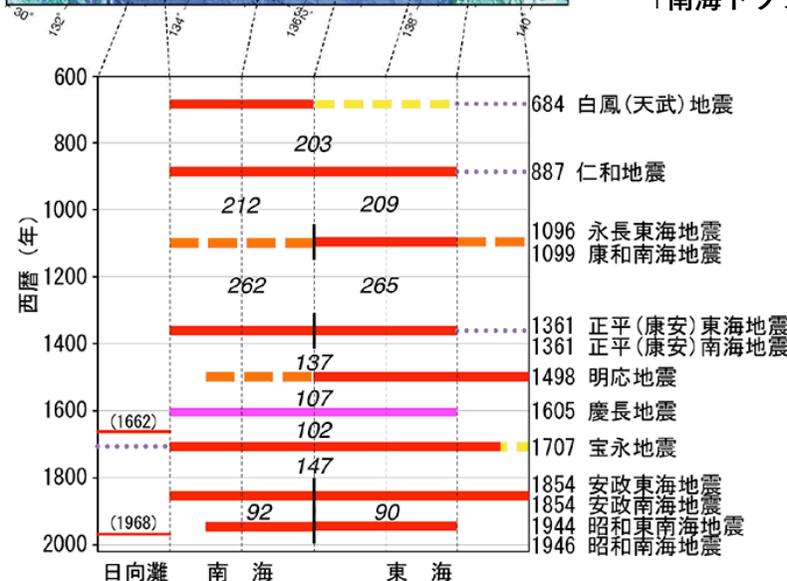


出典：内閣府HP「我が国で発生する地震」

過去の地震の発生状況



出典：地震調査研究推進本部HP
「南海トラフで発生する地震」



- 確実な震源域
- 確実視されている震源域
- 可能性のある震源域
- 説がある震源域
- 津波地震の可能性が高い地震
- 日向灘のプレート間地震(M7クラス)

1944年昭和東南海地震の津波で変わり果てた町のすがた (現在の尾鷲市)



出典：
三重県防災ガイドブック
(写真提供/太田金典氏)

1. はじめに (2) 三重県の地形及び地震災害リスク

① 位置・面積

- 三重県は、日本列島のほぼ中央、太平洋側に位置し、**東西約80 km、南北約170 kmの南北に細長い県土**を有しています。
- 総面積約57万8千haのうち、森林が約37万3千haで64%を占めます。
- 海岸線の長さは1,105 kmで全国8位となっています。

② 地形

- 北中部には、伊勢湾に沿って伊勢平野と呼ばれる低地が広がり、その西側に海拔700 mから1,200 mの鈴鹿山脈や布引山地などが南北に連なっています。
- 南部の熊野灘沿岸地域**は、屈曲に富む**リアス海岸***が発達しています。
- 紀伊半島の東部**に位置し、**志摩半島**を有しています。

③ 地震災害リスク

- 北中部**の伊勢平野は、**木曾三川下流の海拔ゼロメートル地帯***をはじめ、河川が運搬した土砂が堆積した沖積平野であり、**地盤高が低く、液状化しやすい地形**となっています。
- 南部**の熊野灘沿岸地域は屈曲に富む**リアス海岸**が発達し、平野部が少なく、**南海トラフ地震の震源域***に面していることから、地震発生から**津波到達までの時間が極めて短く、津波高も高くなる傾向**があります。
- また、**南部**は急峻な紀伊山地からのアクセスが極めて難しいため、**アクセス経路が海岸線沿い**に限られ、志摩半島を含めて**孤立リスクが高**くなります。



1. はじめに (3) 被害想定について

① 被害想定作成の趣旨・目的

- 三重県では、平成25年度に作成した南海トラフ地震被害想定をふまえ、地震・津波対策を推進してきたところです。
- 前回想定から10年余が経過した中で、この間の社会状況の変化や大規模な地震災害の教訓をふまえ、右記の**3つの基本的な考え方**に基づき、三重県における新たな南海トラフ地震被害想定を作成しました。
- 今回作成した被害想定を基に、南海トラフ地震によって発生する被害を**正しく理解し、適切な行動につなげる**ことが重要です。
- 県民の皆さんの**生命・財産、地域を守る**ため、**あらゆる主体が総力を挙げて備えていく**必要があります。

新たな南海トラフ地震被害想定作成における3つの基本的な考え方

- 1** 大規模地震災害の教訓等から新たに明らかとなった**リスクやニーズに対応**
- 2** 地域特性をふまえたきめ細かなリスク分析により、**地域の災害リスクを明確化**
- 3** 迅速に復旧活動を進めるため、災害対応に必要な**リソースを定量的に把握**

② 被害想定の対象とする地震の種類

想定地震	震源規模	説明
理論上最大クラスの南海トラフ地震 (L2) ※ L2 (レベル2) 南海トラフ地震の規模を段階的に示したものの、レベル1よりも規模が1段階大きいことを示す。	地震動： $M_w 9.0^*$ 津波： $M_w 9.1$	<ul style="list-style-type: none">● 内閣府が設置する「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会」で議論された、あらゆる可能性を科学的見地から考慮し、発生する確率は極めて低いものの理論上は起こり得る最大クラスの南海トラフ地震
過去最大クラスの南海トラフ地震 (L1) ※ L1 (レベル1) 南海トラフ地震の規模を段階的に示したものの。	地震動： $M_w 8.8$ 津波： $M_w 8.9$	<ul style="list-style-type: none">● 過去概ね100年から150年間隔でこの地域を襲い、揺れと津波により三重県に甚大な被害をもたらしてきた、歴史的にこの地域で起こり得ることが実証されている、発生頻度の高い南海トラフ地震
半割れケース 新	後述 (116ページ)	<ul style="list-style-type: none">● 南海トラフの想定震源域内の領域の一部で大規模地震が発生し、残りの領域で大規模地震発生の可能性が高まったと評価された場合を想定したケース。● 上記「過去最大クラスの南海トラフ地震」及び「理論上最大クラスの南海トラフ地震」に対する半割れ地震を想定する。

1. はじめに (3) 被害想定について

③ 被害想定全体の全体像

三重県南海トラフ地震被害想定は、**ハザード（5項目）**、**リスク（35項目）**、**被災シナリオ（3種類）**の3点で作成しています。



④ 被害想定のポイント (H25からの変更点や拡充点)

最新データを活用し、**被害想定の精度を向上**

- ボーリングデータを大幅に追加し、地盤データに反映
(12,000本⇒24,800本)
- 最新の測量成果を地形データに反映
(R4 航空レーザー測量*)

想定項目を追加し、**新たに明らかとなったリスクに対応**

- 【ハザード】
長周期地震動など**2項目を追加**
- 【リスク】
災害関連死など**17項目を追加**

新たに被災シナリオを作成し、**「分かりやすく」**
県民、企業・事業者が地震による被害を自分事としてイメージするためのツール

1. はじめに (2) 三重県南海トラフ地震被害想定について

⑤ 被害想定的前提条件・留意事項

今回の被害想定における季節・時間帯の条件

今回の被害想定では、過去の大規模地震災害の事例を参考に、人的被害が最も多い**冬の深夜**、帰宅困難者が最も多い**夏の昼**、火災被害が最も多い**冬の夕方**の3種類の季節・時間帯を設定しました。

季節・時間帯

想定される被害の特徴

冬・深夜

- ・ 自宅で就寝中に被災する住民が多いため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難にも時間を要する。
- ・ オフィスや繁華街の滞留者や、鉄道・道路利用者が少ない。

夏・昼

- ・ オフィス、繁華街に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災するが多い。
- ・ 木造建物内滞留人口は、1日の中で少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者数は冬・深夜と比較して少ない。

冬・夕方

- ・ 住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。
- ・ オフィスや繁華街のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。
- ・ 鉄道、道路も帰宅ラッシュ時に近い状況であり、交通被害による人的被害や交通機能支障による影響が大きい。

<留意事項>

- ・ 本被害想定は、最新の科学的知見や利用可能なデータに基づいて作成しています。しかしながら、被害想定はあくまで「想定」であり、実際には想定を上回る規模で南海トラフ地震が発生する可能性があります。
- ・ 小規模河川の津波遡上など、技術的に反映できない自然現象については、被害想定項目ごとに留意事項として記載していますので、必ず参照してください。
- ・ 想定される津波は様々なパターンが存在し、パターンごとに被害量が異なります。三重県全体で被害が最大となるパターンが、必ずしも各市町で被害が最大となるとは限りません。

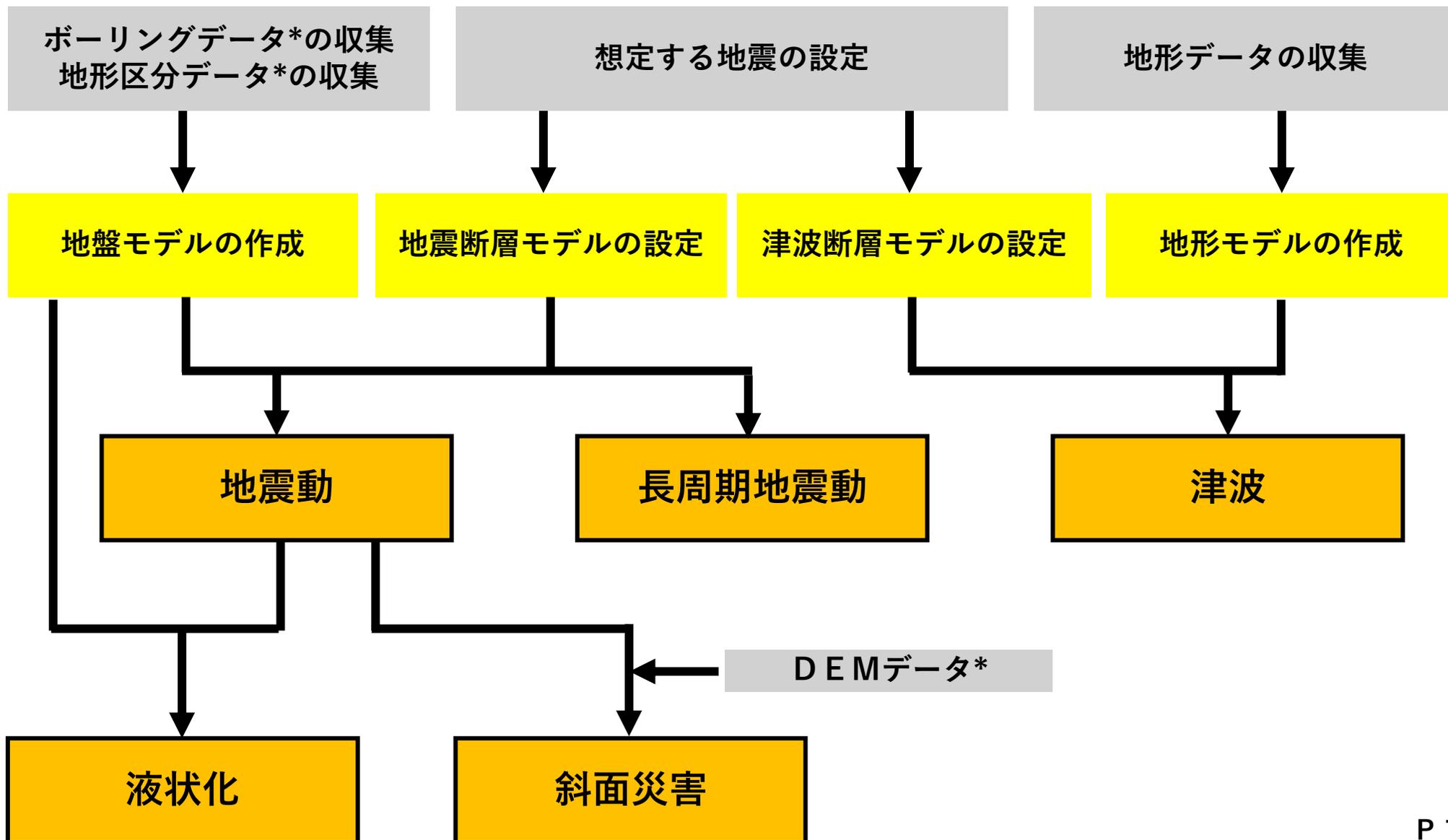
2. ハザード評価 (1) ハザード評価項目の一覧

評価項目		内容
地震動		地震による揺れの強さを予測し、その結果を震度階級により示しています。
長周期地震動 新		地震の揺れのうち、特に長周期地震動の強さを予測し、その結果を長周期地震動階級により示しています。
液状化		地震の揺れにより液状化が発生する可能性を予測し、その結果を液状化の危険度として示しています。
斜面災害 新		地震の揺れにより、がけ崩れや地すべりといった斜面災害が発生する可能性を予測しています。
津波	沿岸最大津波高	沿岸における津波の高さ（海面を基準）を予測しています。
	沿岸津波到達時間	沿岸において津波が到達する時間を予測しています。
	津波浸水面積	陸上に津波が浸水する面積を予測しています。
	津波浸水深	津波により浸水する範囲と浸水の深さを予測しています。
	津波浸水深到達時間	陸上で津波が到達するまでの時間を予測しています。
	津波浸水継続区域 新	陸上において津波が自然排水されることなく浸水が継続する範囲を予測しています。
	海域の津波影響開始時間 新	沿岸よりも沖合で津波の影響が現れるまでの時間を予測しています。

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

① ハザード評価手法の概要 (全体像)

ハザード評価項目 (5項目) の想定手法の全体像は以下のとおりです。
地震断層モデル*・津波断層モデル*と、各種データから作成する地盤モデル・地形モデルをもとに想定します。



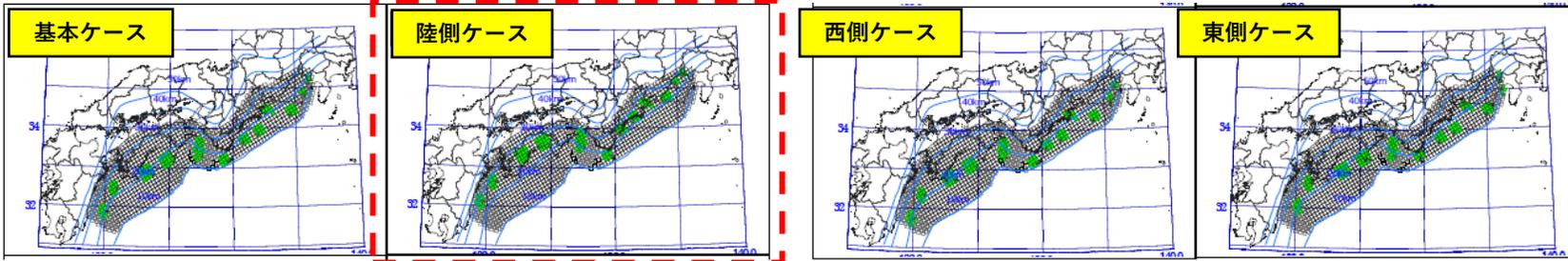
2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

② 地震断層モデル及び津波断層モデル

【L2】理論上最大クラスの南海トラフ地震に係る地震断層モデル及び津波断層モデル

地震断層モデル

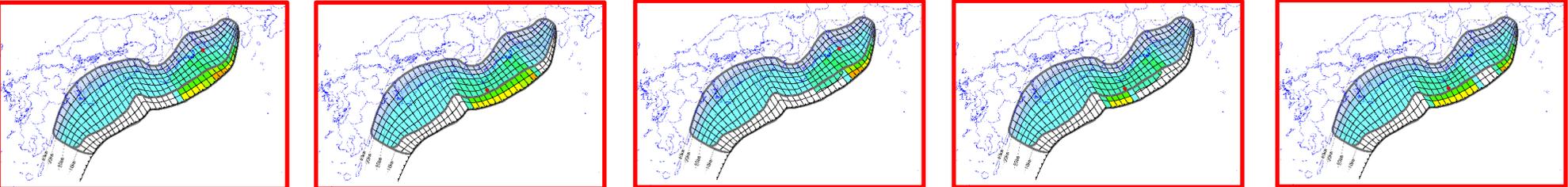
地震断層モデルは、どの程度の地震動が生じるのかを数値計算で求めるため、断層の位置や形状等を設定したものです。今回の想定では、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会*」で示された4つのケース（基本ケース・東側ケース・西側ケース・陸側ケース）のうち、三重県に最も被害が大きいと考えられる「**陸側ケース**」を採用しました。



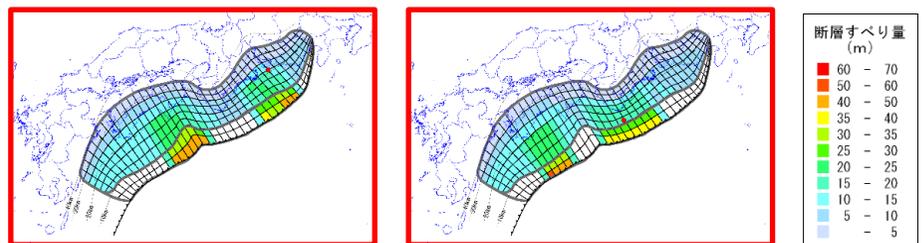
※網目部分が南海トラフ地震の想定震源域を示す。緑色のメッシュは強震動生成域*を示し、「陸側ケース」はこれを最も陸側に設置したケース

津波断層モデル

津波断層モデルは、どの程度の津波が生じるのかを数値計算で求めるため、断層の位置や形状等を設定したものです。今回の想定では、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で示された11のケースのうち、三重県に影響が大きいと考えられる7つのケース（①、②、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩）を採用しました。



【ケース①「駿河湾～紀伊半島沖」】 【ケース②「紀伊半島沖」】 【ケース⑥「駿河湾～紀伊半島沖」】 【ケース⑦「紀伊半島沖」】 【ケース⑧「駿河湾～愛知県東部沖」と「三重県南部沖～徳島県沖」】



【ケース⑨「愛知県沖～三重県沖」と「室戸岬沖」】 【ケース⑩「三重県南部沖～徳島県沖」と「足摺岬沖」】

※大すべり域*（大きな津波を発生させる断層）の場所をケースごとに示した図

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

② 地震断層モデル及び津波断層モデル

【L1】 過去最大クラスの南海トラフ地震に係る地震断層モデル及び津波断層モデル

歴史的に起こり得ることが実証されている、発生頻度の高い南海トラフ地震として、1707年宝永地震*、1854年安政東海地震*、1854年安政南海地震*、1944年昭和東南海地震*、1946年昭和南海地震*の5例の地震をもとに作成した地震断層モデル及び津波断層モデルを採用しました。

地震断層モデル

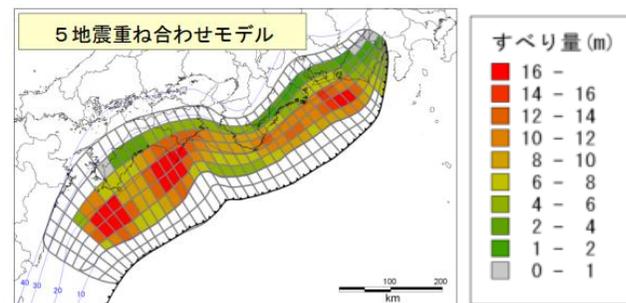
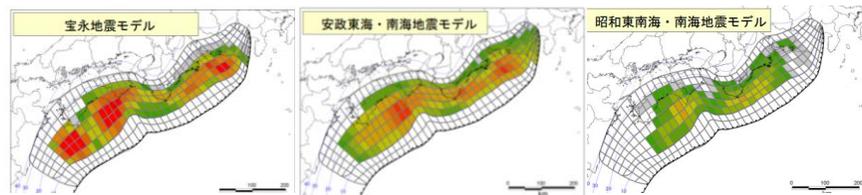
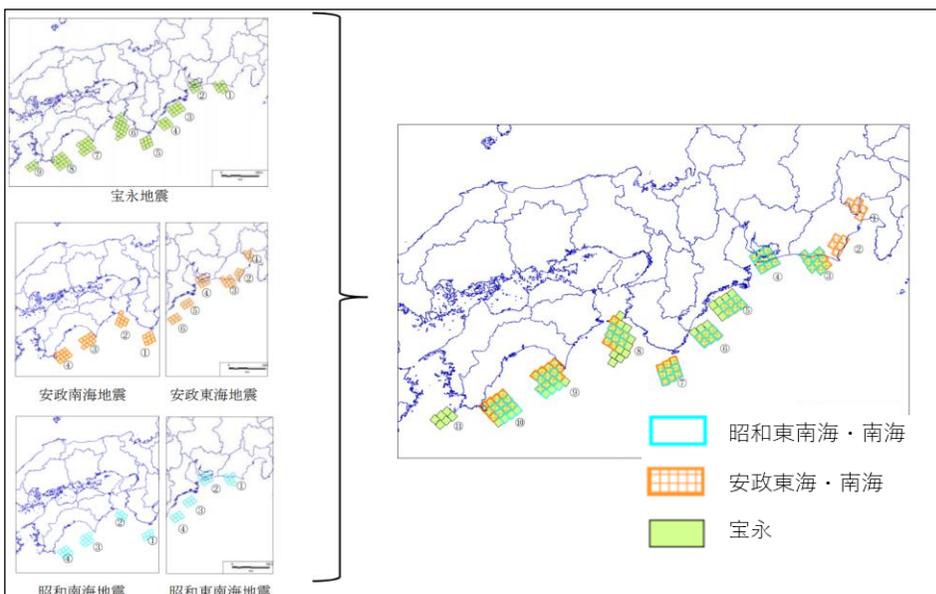
5例の地震で実際に観測された震度を再現し、最も被害が大きいケースを想定するため、各地震の強振動生成域を重ね合わせて地震断層モデルを作成しています。

この地震断層モデルで設定したすべての強振動生成域で地震動が発生するケースを、過去最大クラスと想定します。

津波断層モデル

5例の地震で実際に観測された津波の高さを再現し、最も被害が大きいケースを想定するため、各地震の大すべり域の場所とすべり量*を重ね合わせて津波断層モデルを作成しています。

この津波断層モデルで設定した、すべての大すべり域におけるすべり量をもとに津波が発生するケースを、過去最大クラスと想定します。



※網目部分が南海トラフ地震の想定震源域を示す。図上で着色されたメッシュはすべり量が大きく、大すべり域に相当。

今回の津波断層モデルでは、着色のないメッシュでは津波が起こらない設定となっている。

※図上のメッシュは強振動生成域を示しています。

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

③ 地盤モデル

地盤モデルとは、地下の地層構造をモデル化したものであり、地震動や液状化を予測する際に使用します。

<地盤モデルの作成イメージ>

地盤モデル

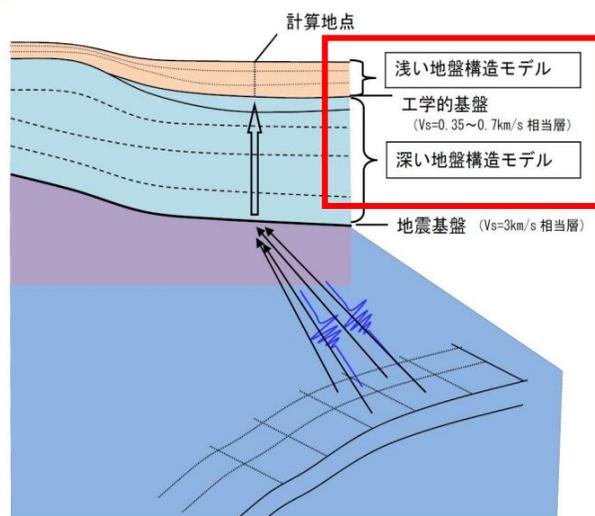
浅部地盤モデル (浅い地盤構造モデル)

浅い地盤の構造をモデル化したもので、ボーリングデータや地形区分データをもとに作成しています。

深部地盤モデル (深い地盤構造モデル)

深い地盤の構造をモデル化したもので、今回の調査では、防災科学技術研究所が作成した最新のデータを使用しています。

<地盤モデルのイメージ>



浅い地盤と深い地盤の境界は一律ではなく、場所によって異なりますが、地震調査研究推進本部の資料によると、0～数十メートルを浅部地盤、数十～3000m程度を深部地盤を目安とする考え方が示されています。浅い地盤では地震波が増幅されるため、浅い地盤の層が厚い地域では、層の薄い地域に比べて強い揺れが予測されます。

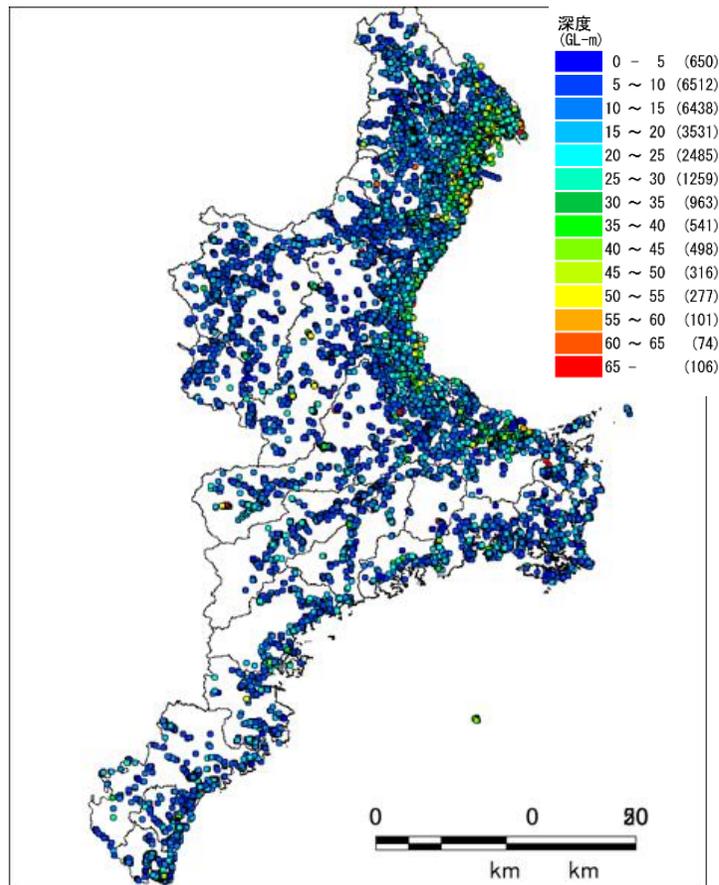
2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

③ 地盤モデル

<ボーリングデータ>

前回想定で収集した約12,000本のボーリングデータに加えて、国土地盤情報センター、県、民間企業からの提供データを収集し、合計約23,800本のボーリングデータを採用することで、地形や地盤の特徴をより詳細に反映しています。

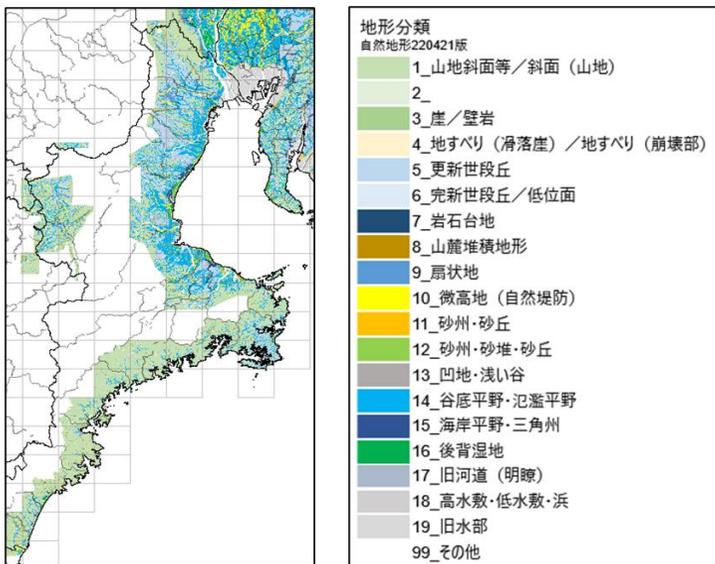
【ボーリングデータ分布図】



<地形区分データ>

ボーリングデータのないメッシュ (※) の情報を補完 (※) するため、地形区分データ (国土地理院が作成するベクトルタイル地形区分データ*) を活用しています。

【ベクトルタイル地形分類 (国土地理院)】



※メッシュ

地図上の地域を一定の大きさで格子状に区切ったもの。メッシュ単位で地震動や津波等の想定を行っている。

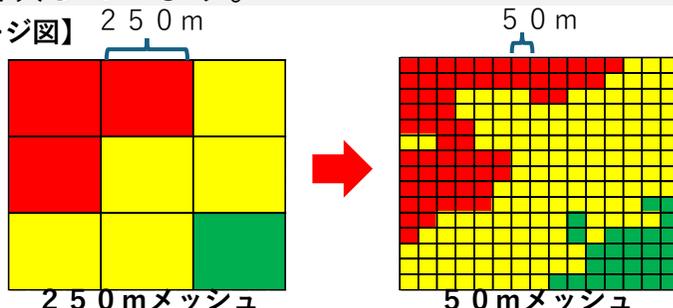
※地形区分データによる補完

地盤モデルはメッシュごとのボーリングデータをもとに作成し、ボーリングデータがないメッシュについては、同じ地形で最も近い場所のボーリングデータにより代用する。

<メッシュの大きさの変更>

メッシュの大きさを前回想定の250mメッシュから50mメッシュに変更することで、地形や地盤の解像度が25倍となり、地形や地盤の状況をより詳細に反映しています。

【メッシュイメージ図】



※50mメッシュの採用範囲

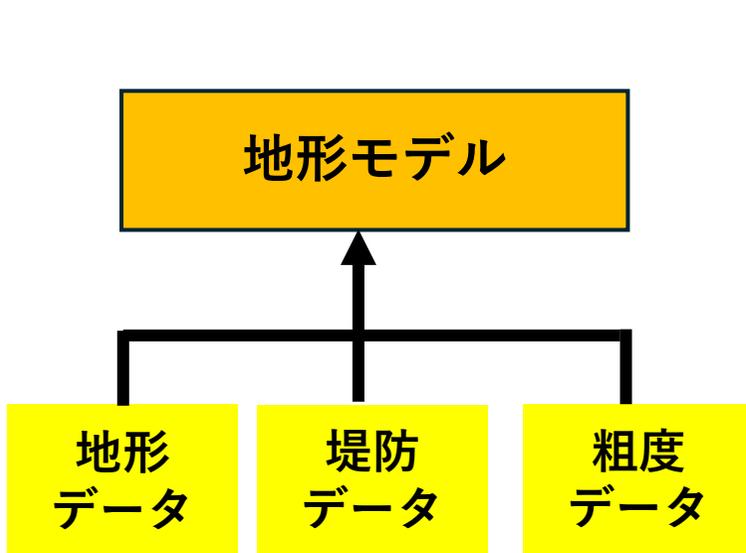
都市部等、ボーリングデータ数が多い地域は50mメッシュで設定。
山間部等、ボーリングデータ数が少ない一部の地域は前回と同じ250mメッシュを設定。

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

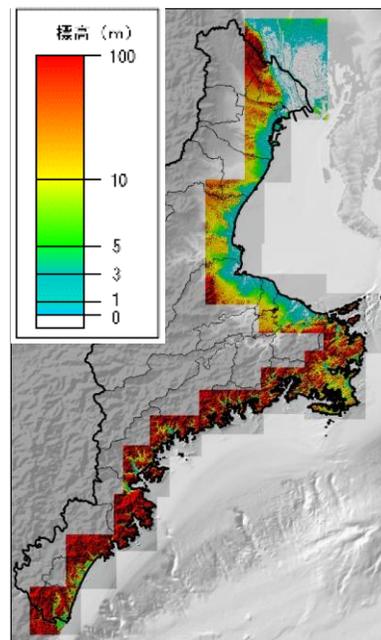
④ 地形モデル

地形モデルは、地形データ・堤防データ・粗度データにより構成し、津波を想定する際に使用します。

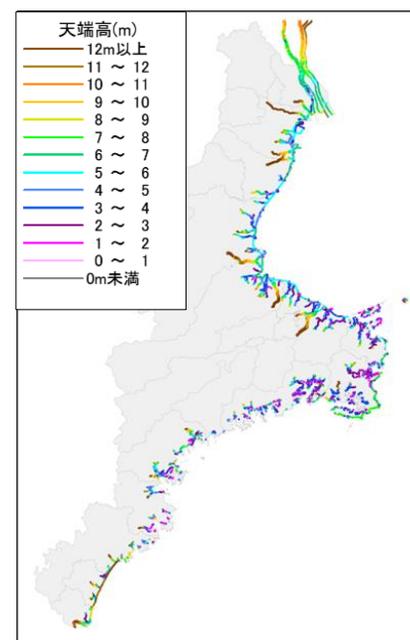
<地形モデルの作成イメージ>



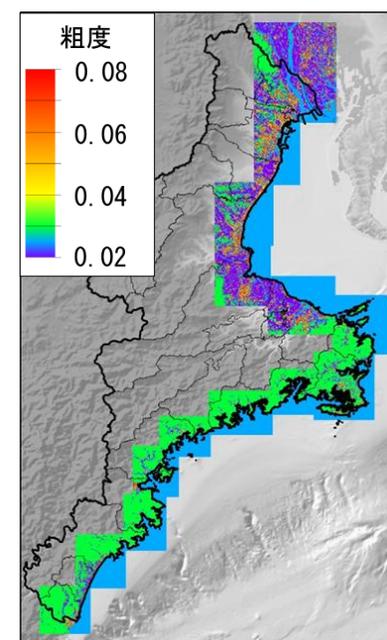
【地形データ】



【堤防データ】



【粗度データ】



収集したデータ	データの内容
地形データ	標高や地表面の形のデータ。標高データ・7海底地形データ*・河川河床標高*等をもとに作成。
堤防データ	海岸堤防や河川堤防の位置や高さのデータ。新たに堤防データを収集するとともに、耐震性照査*結果の反映。
粗度データ	地表の凹凸や、地形を水が流れる際の抵抗力のデータ。新たに粗度データを収集して作成

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

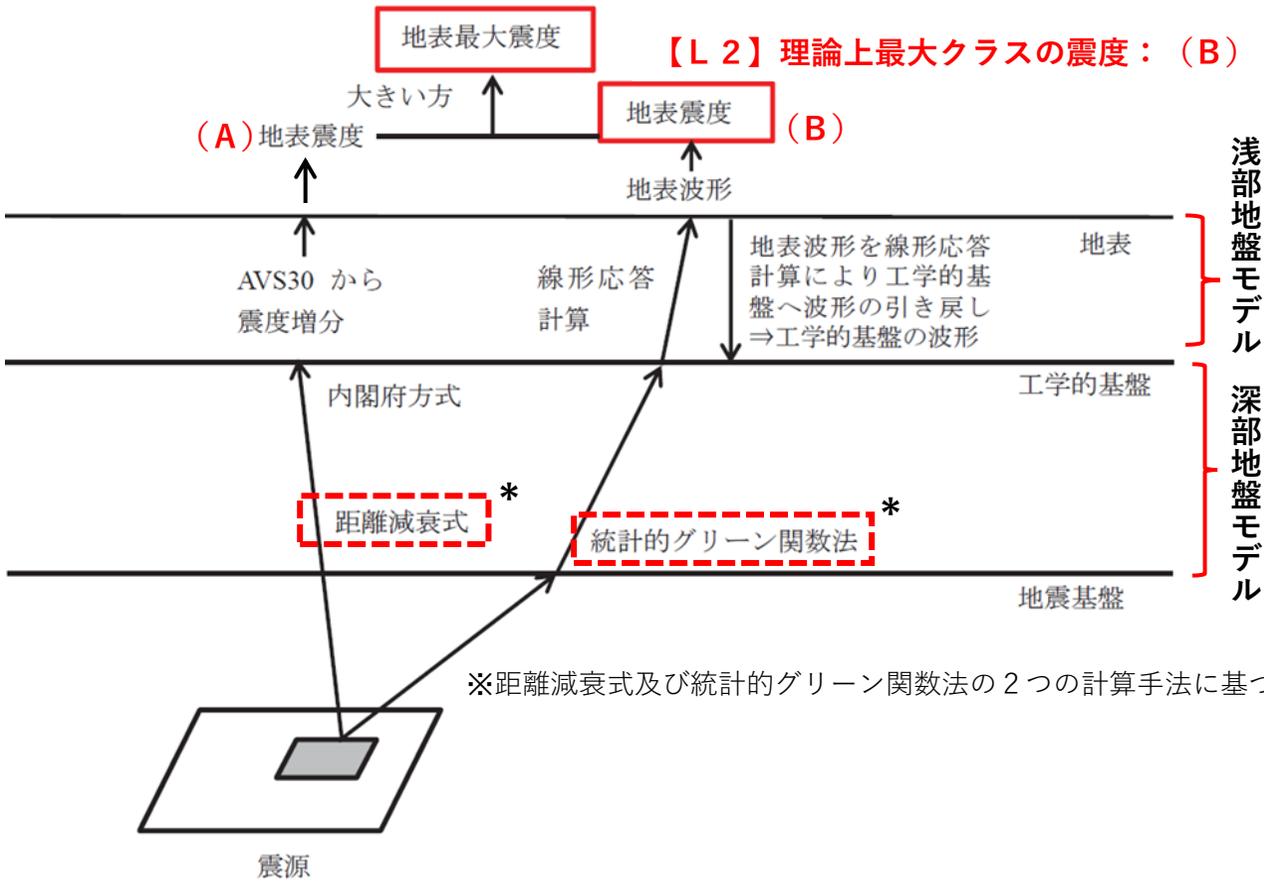
⑤ 地震動

評価目的

地震による揺れの強さを予測し、住家の耐震化対策や住民の避難対策、災害対応拠点等の重要施設の安全対策等、様々な事前防災の対策の検討に活用します。評価結果をもとに、建物被害や人的被害等の被害を推計します。

<地震動の想定手法>

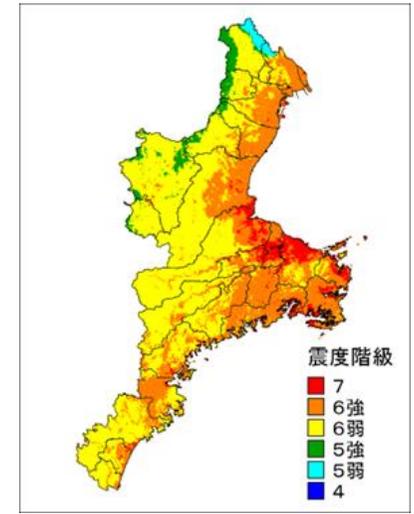
【L1】過去最大クラスの震度：(A)と(B)の大きい方



※距離減衰式及び統計的グリーン関数法の2つの計算手法に基づき計算

震源で発生した地震波が、深部地盤と浅部地盤を伝わって増幅された結果が、地表における地震動になります。
2種類の計算手法を用い、【L2】理論上最大クラス、【L1】過去最大クラスにおいて、それぞれ最も妥当な手法を採用しています。

<想定結果のイメージ> 【L2】理論上最大クラス



震度階級ごとに色分けし、震度分布を地図上で示しています P13

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑤ 地震動 <参考：震度ごとに想定される被害状況> 出典：気象庁HP

4

【震度4】

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。



6弱

【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



耐震性が高い 耐震性が低い

5弱

【震度5弱】

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



6強

【震度6強】

- はわないと動くことができない飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



耐震性が高い 耐震性が低い

5強

【震度5強】

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



7

【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。



耐震性が高い 耐震性が低い

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑥ 長周期地震動

評価目的

地震の揺れのうち、長周期地震動による揺れの強さを予測し、高層ビルや大型液体貯蔵タンク等の防災対策に活用します。

<長周期地震動とは>

長周期地震動とは、大きな地震で生じる、周期（揺れが1往復するのにかかる時間）が長い大きな揺れのことを言います。

長周期地震動により、高層ビルや大型タンクに貯蔵された液体が大きく長時間揺れ続けるほか、長周期地震動は遠くまで伝わりやすい性質があることから、地震が発生した場所から数百km離れたところでも大きく長く揺れることがあります。

長周期地震動階級とは、高層ビル内における、地震時の人の行動の困難さの程度や、家具や什器の移動・転倒などの被害の程度から4つの段階に区分した揺れの大きさの指標です。

長周期地震動階級関連解説表 出典：気象庁HP

長周期地震動階級	人の体感・行動	室内の状況	備考
長周期地震動階級1 (やや大きな揺れ)	室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。 驚く人もいる。	ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。	-
長周期地震動階級2 (大きな揺れ)	室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	キャスター付き什器がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。	-
長周期地震動階級3 (非常に大きな揺れ)	立っていることが困難になる。	キャスター付き什器が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が入ることがある。
長周期地震動階級4 (極めて大きな揺れ)	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。	キャスター付き什器が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。

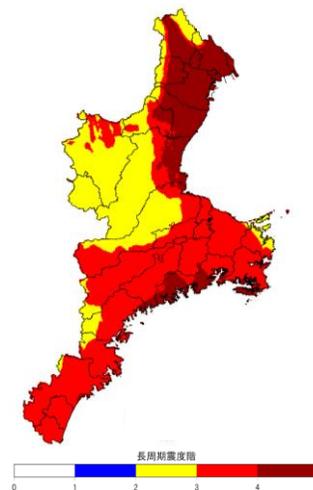
※【L2】理論上最大クラスの長周期地震動の予測については、技術的に手法が確立されていないことから、【L1】過去最大クラスのみを対象としています。

<長周期地震動の想定手法>

想定手法は地震動と同じです。

今回の想定では、周期の大きさが2秒以下の短い周期の揺れを地震動の想定対象とし、周期が2秒～20秒以上の揺れを長周期地震動の想定対象とします。

<想定結果のイメージ> 【L1】過去最大クラス



長周期地震動階級ごとに色分けし、長周期地震動階級の分布を地図上で示しています

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑥ 長周期地震動 <参考：長周期地震動により想定される被害状況> 出典：気象庁パンフレット「地震と津波」

● 長周期地震動による被害

家具などの移動・転倒

平成 23 年 東北地方太平洋沖地震では、地震の発生場所から遠く離れた東京でも長周期地震動により高層ビルの高層階が長く大きく揺れ、家具や什器などが移動・転倒しました。



写真：工学院大学提供

内装・エレベーターの被害

平成 16 年 新潟県中越地震では、震源から約 200km 離れた東京都内の高層ビル（最大震度 3）でエレベーターのワイヤーが損傷する被害が発生しました。

平成 23 年 東北地方太平洋沖地震では、震源から約 700km 離れた大阪（最大震度 3）でも高層ビルが大きく揺れ、内装材や防火扉が破損したり、エレベーターが停止中に閉じ込められたりするなどの被害が発生しました。



写真：総務省消防庁 消防研究センター提供

石油タンクの被害

平成 15 年 十勝沖地震では、震源から約 250km 離れた苫小牧の石油コンビナートでタンク内の液体が大きく揺動する“スロッシング”が発生。浮き屋根が沈没し、火災も発生しました。

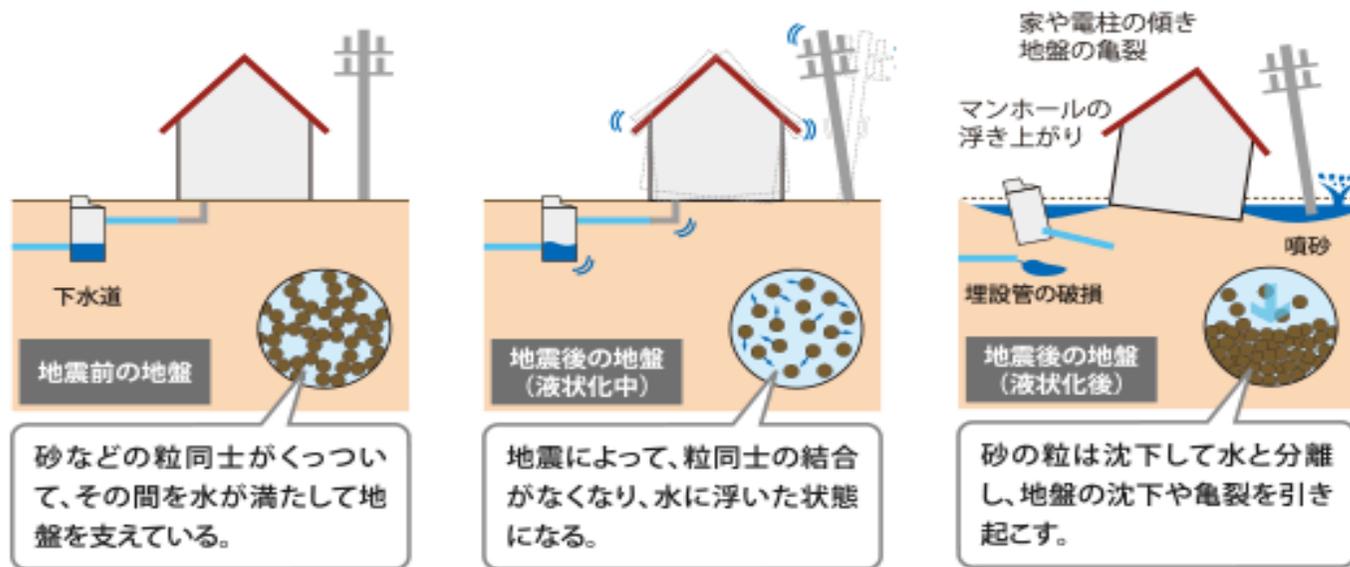
2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑦ 液状化

評価目的

液状化の可能性を地形や地質の特徴から予測し、災害対応時の道路網の寸断リスクや、建物を設計する際の液状化対策の検討に活用します。評価結果をもとに、建物被害を推計します。

<液状化の発生メカニズム> 出典：東京都都市整備局HP



液状化により地盤が建物や構造物を支える力を失い、沈下や傾斜が発生しています。

電信柱や案内板が傾き、道路や家が傾いて土砂が噴き出す等の被害がありました。

<参考：能登半島地震における液状化被害> 出典：国土交通省HP



2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑦ 液状化

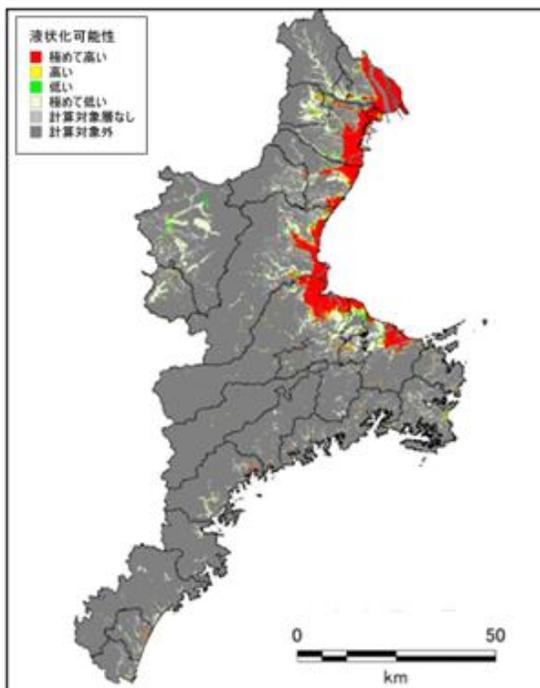
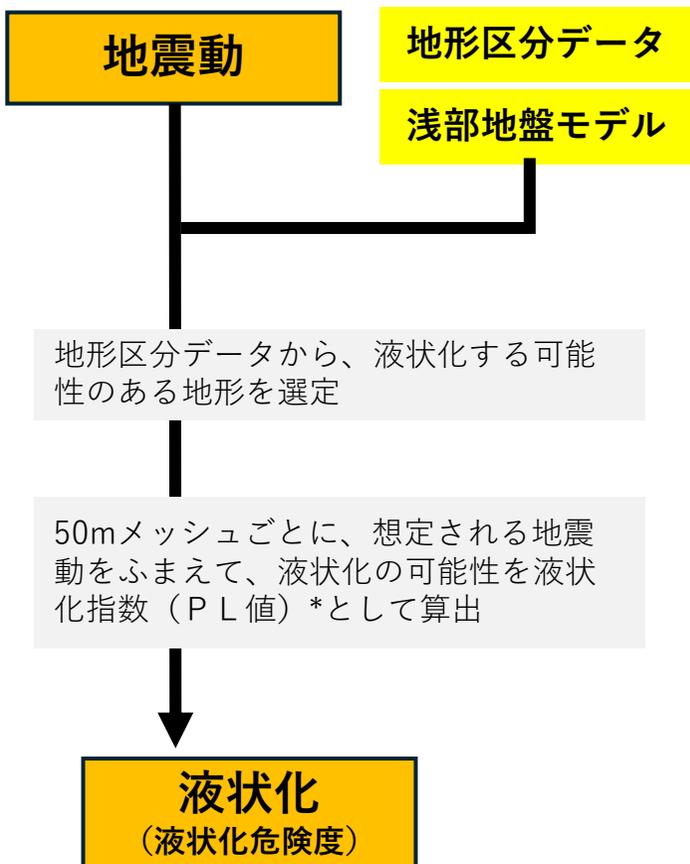
< 液状化の想定手法 >

液状化の危険度は、地形及び地盤の状況と想定される地震動をもとに50mメッシュ（※）単位で予測します。

地形区分データをもとに、山地や丘陵など液状化しないと考えられる地形を予測対象から除外し、液状化する可能性のある地形を対象に、液状化可能性が高いかどうかを計算します。

※山間部等、ボーリングデータ数が少ない一部の地域は前回と同じ250mメッシュを設定。

< 想定結果のイメージ > 【L2】理論上最大クラス



液状化危険度の分布を色分けして地図上で示しています

凡例	解説
極めて高い	PL > 15 液状化危険度が高い 液状化に関する詳細な調査と液状化対策は不可避
高い	5 < PL ≤ 15 液状化危険度がやや高い 重要な構造物に対してはより詳細な調査が必要。液状化対策が一般には必要
低い	0 < PL ≤ 5 液状化危険度は低い 特に重要な構造物に対して、より詳細な調査が必要
極めて低い	PL = 0 液状化危険度は極めて低い 液状化に関する詳細な調査は不要
計算対象層なし	地盤に砂や礫などの液状化の要因となる層が含まれていない
計算対象外	山地や丘陵など、地形区分から液状化しないものと判定

※PL値 = 液状化の危険度を表す指標。
その地点(メッシュ)の地震動に対して、液状化する可能性がある地層の厚さ等から算出

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑧ 斜面災害

評価目的

地震の揺れにより、がけ崩れや地すべりといった斜面災害が発生する可能性のある場所を予測し、道路網の寸断リスクの検討等に活用します。評価結果をもとに、建物被害や人的被害を推計します。

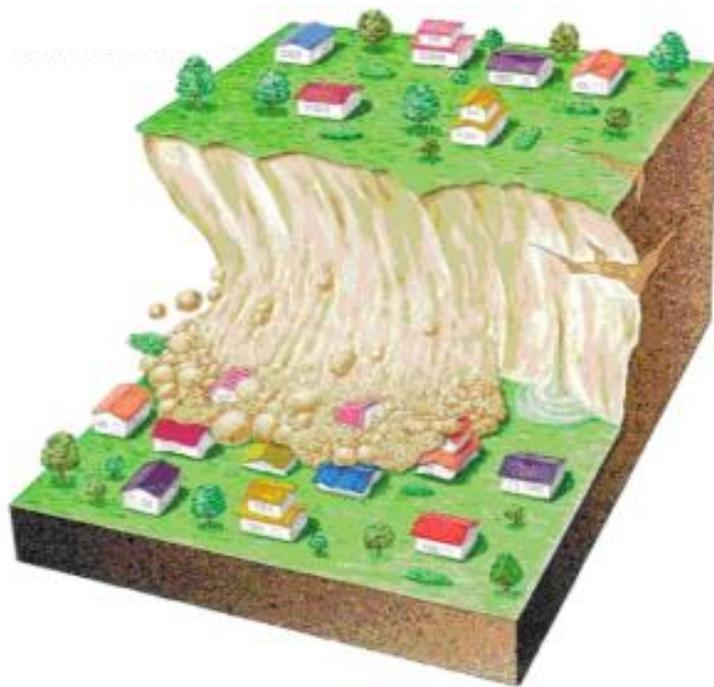
<斜面災害について>

がけ崩れは、地震の揺れにより急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。地すべりは、斜面が地下水等の影響によってゆっくりと下方に移動する現象ですが、地震によって突然発生する地すべりもあります。

斜面災害が発生すると、崩れた土砂等によって人的被害や建物被害が発生するほか、道路を塞ぐことで孤立地域を発生させる要因にもなります。

【がけ崩れ】 出典：特定非営利活動法人土砂災害防止広報センターHP

【地すべり】 出典：国土交通省HP



2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑧ 斜面災害

(※1) 曲率：斜面の表面の凹凸の程度。凹凸が大きいほど曲率は大きくなり、斜面災害の発生可能性が高くなる。

(※2) DEMデータ (Digital Elevation Model) :

<斜面災害の想定手法> 地表面を等間隔の正方形に区切ってメッシュを作成し、それぞれの正方形に中心点の標高値を持たせたデータ

土砂災害警戒区域等（土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域）の指定箇所を対象として、地震を要因とした斜面災害の発生可能性を予測しています。斜面の傾斜角度及び曲率（※1）が斜面災害の発生可能性に大きく影響するため、DEMデータ（※2）を用いて斜面の傾斜角度及び曲率を予測し、指定箇所ごとの斜面災害の発生可能性を予測しています。

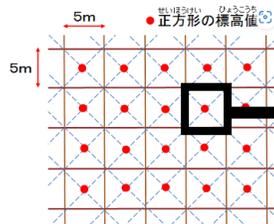
地震動

土砂災害警戒区域等

DEMデータ

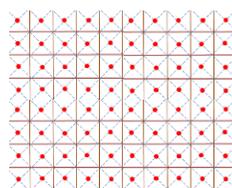
① 【DEMデータ (5m) イメージ】

出典：国土地理院HP



周囲のメッシュとの標高差から、斜面の傾斜角度や曲率を予測し、5mメッシュごとの斜面災害の発生確率を予測。

5mメッシュを50mメッシュに統合



最も発生確率の高い5mメッシュの確率を適用し、地震動や液状化の予測と同じ50mメッシュごとに発生確率を予測。

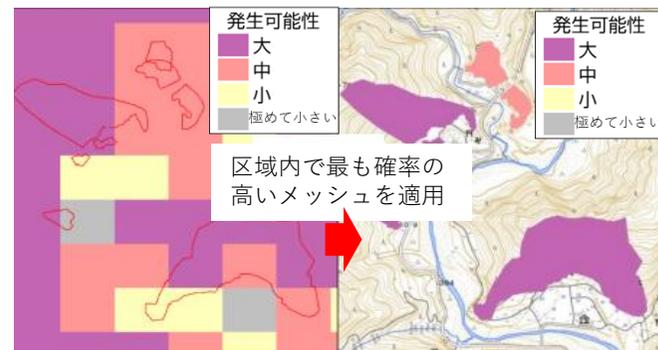
② 【土砂災害警戒区域図】



土砂災害警戒区域等の場所と、①で作成した50mメッシュごとの発生確率を地図上で重ね合わせ、斜面災害の発生確率を予測。

※同じ土砂災害警戒区域等に発生確率が異なるメッシュが存在する場合は、確率の高いメッシュを採用

土砂災害警戒区域図と50mメッシュを重ね合わせ



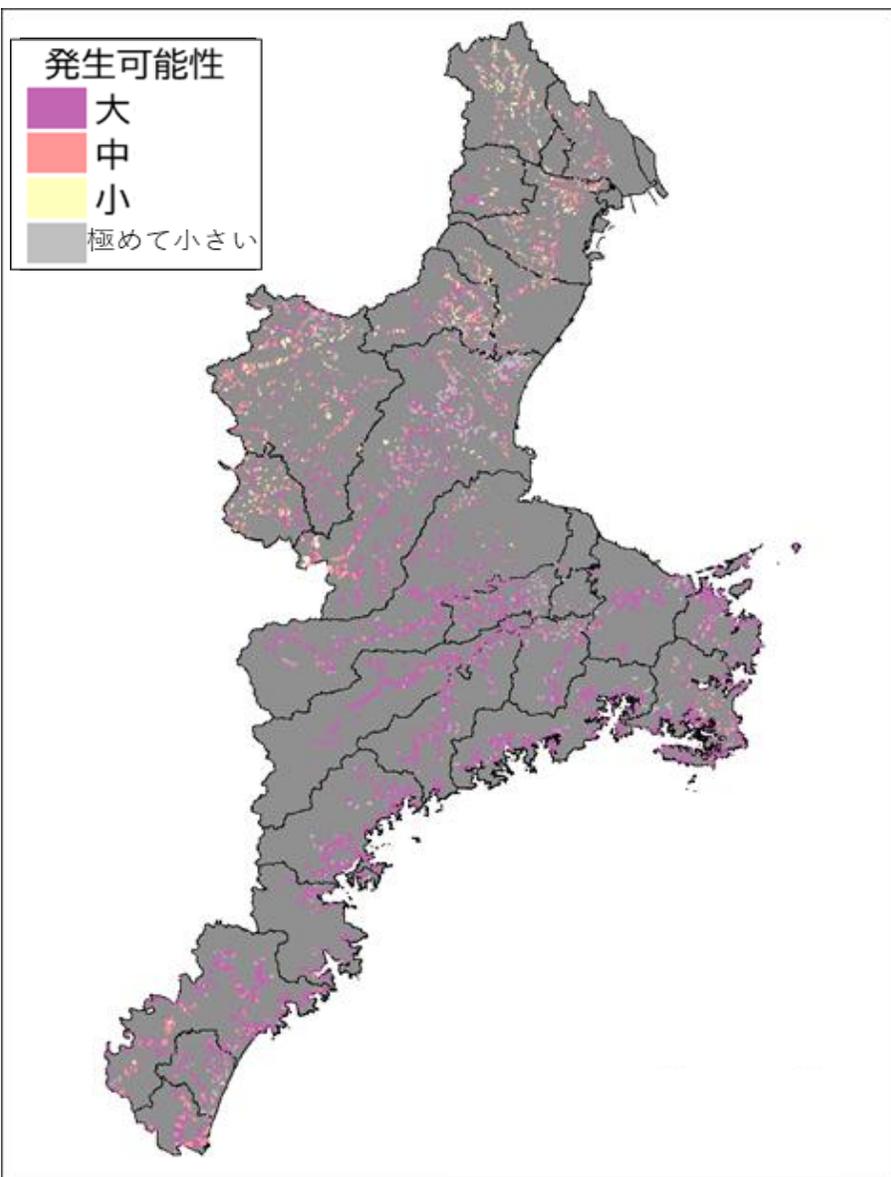
<留意事項>

土砂災害警戒区域等は、建物や住民等に被害が発生する可能性のある区域を対象としているため、建物が存在しない場所や住民が居住していない場所は、斜面災害予測の対象としていません。

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑧ 斜面災害

<想定結果のイメージ> 【L2】理論上最大クラス



凡例	発生可能性
大	発生確率約25%
中	発生確率約12%
小	発生確率約2%
極めて小さい	発生可能性は極めて小さい

※斜面災害の発生確率は、能登半島地震における斜面災害の発生状況を検証した結果をもとに設定しています。

斜面災害の発生可能性ごとに色分けし、
地図上で示しています

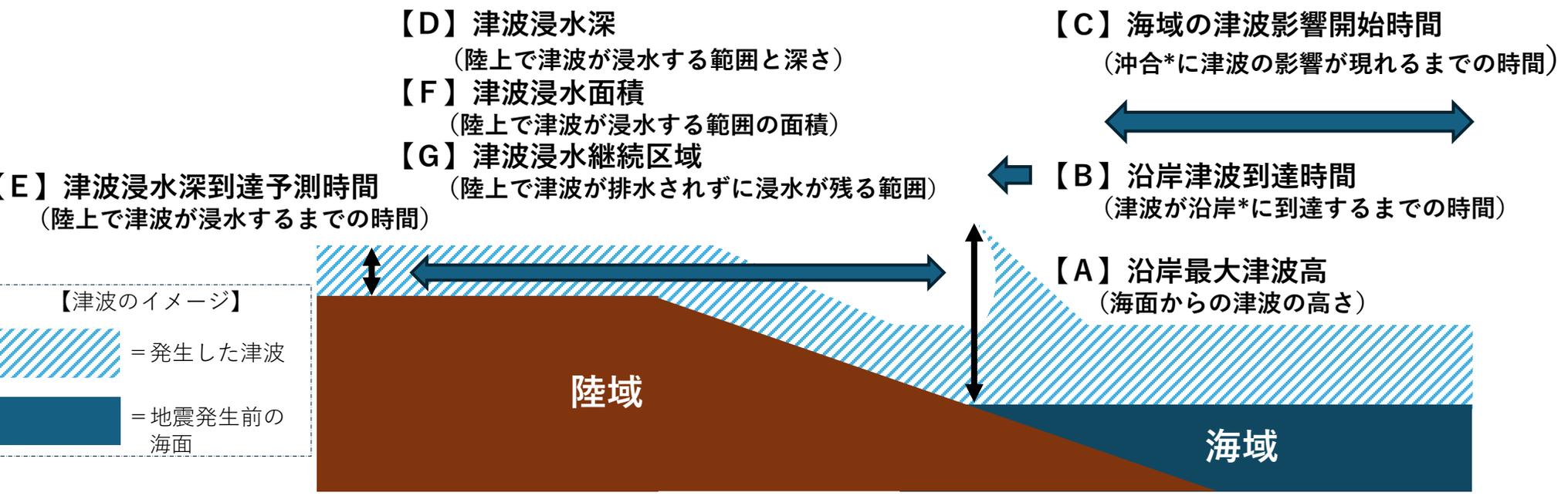
※濃いグレーで示された地域は土砂災害危険区域以外の地域であり、評価対象になっていない地域です。

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

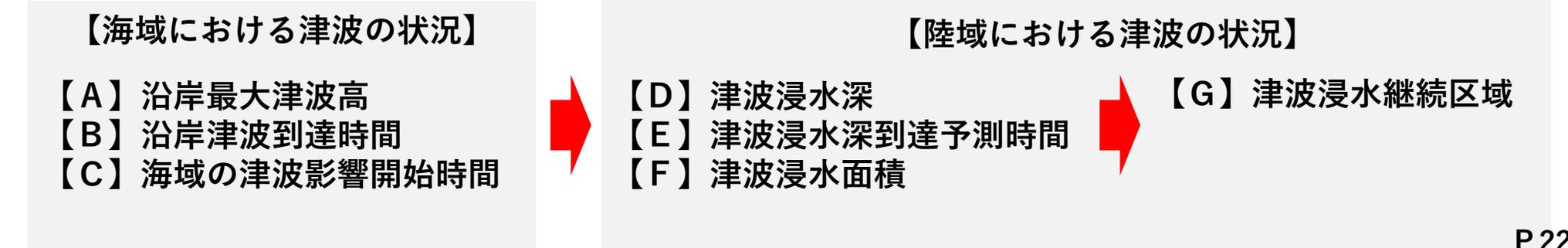
⑨ 津波

<津波関係ハザード項目の全体像>

津波関係のハザードとして、以下の項目を予測しています。
まずは海域における項目を予測し、次に陸上における項目を予測します。



<津波関係ハザード項目の予測の流れ>



2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

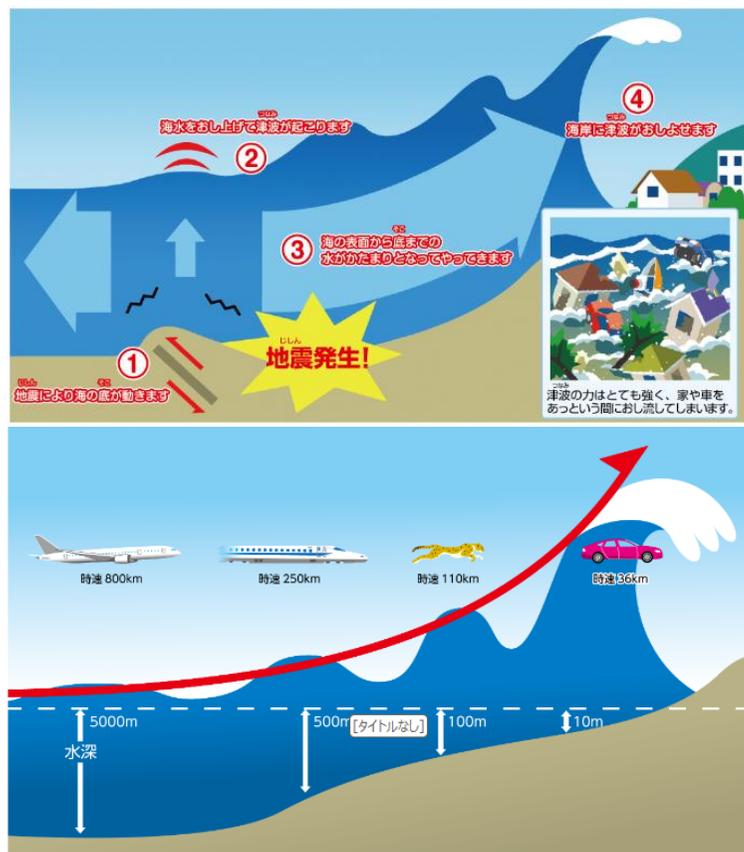
⑨ 津波

<津波の発生メカニズム>

海底の下で大きな地震が発生すると海底が隆起もしくは沈降し、これに伴う海面の変動が大きな波となって四方八方に伝播するのが津波です。

津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、減速した波の前方部に後方部が追いつくことで、波高が高くなります。

【津波の発生イメージ】 出典：気象庁HP



出典：三重県防災ガイドブック

◆津波の特徴

○津波の速さは大変速い。

海岸近くでも秒速10m (時速36km) ほどの速さがあります。

○引き波で始まるとは限らない。

○津波の高さは場所によって違ってくる。

湾の奥や岬の先端では、津波が極端に高くなる場合があります。

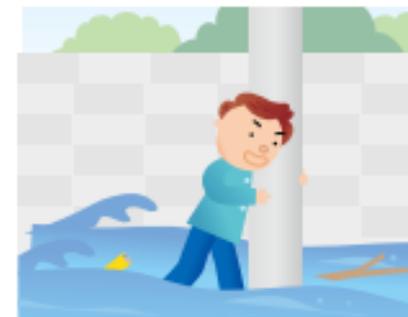
○繰り返してやってくる。第1波が最も大きいとは限らない。

安全な場所に避難したら津波警報・注意報や避難指示が解除されるのを確認するまで自宅等には戻らないようにしましょう。

○川や水路をさかのぼる。

○たとえ30cm程度の津波でも避難行動がとれなくなる。

津波は、高さ30cm程度のものでも動くことができなくなり、避難ができなくなって、生命に危険が及ぶ可能性があります。1mの津波で木造家屋は部分破壊、2mで全壊になるといわれています。



2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

<津波関係ハザード項目想定手法>

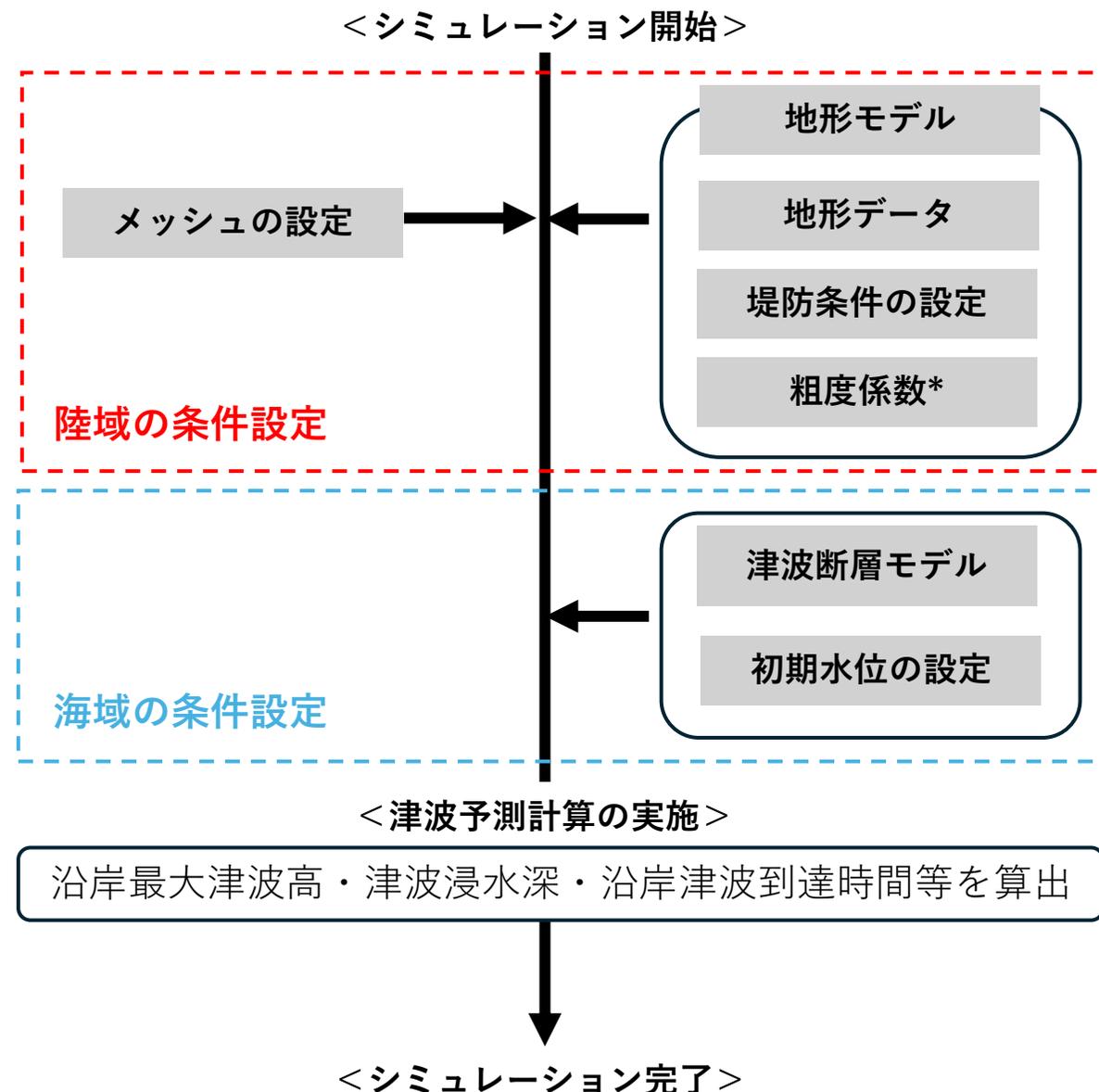
津波の予測にあたり、まずは陸域における標高や堤防等の条件を設定します。

次に、設定した津波断層モデルをもとに潮位等の初期水位*の条件を設定し、津波のシミュレーションを実施します。

津波のシミュレーションにおいては、津波の発生から伝播、三重県沿岸への到達までを数値計算し、沿岸において沿岸最大津波高や沿岸津波到達時間を算出します。

さらに、メッシュごとに津波浸水深等を算出します。

【津波シミュレーションの概要】

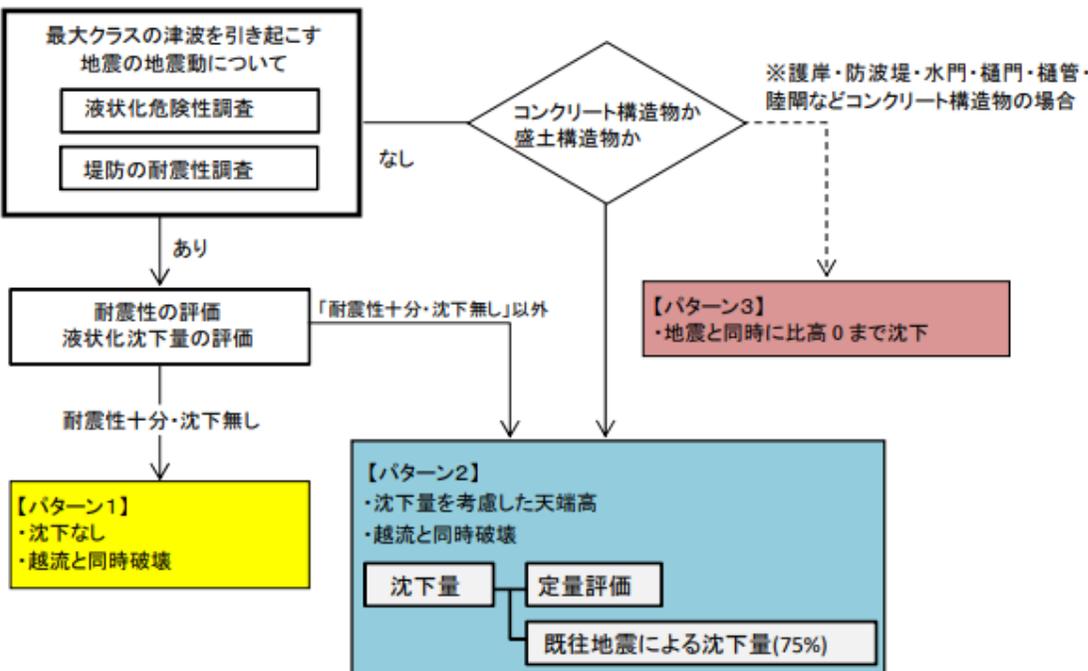


2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

< 想定的前提条件 >

堤防条件の設定フロー 出典：津波浸水想定の設定の手引き（国土交通省）



メッシュの設定

陸域の浸水深等を予測するため、メッシュを設定します。津波は人的被害や建物被害等、様々なリスクに影響が大きいいため、メッシュの大きさは、地盤モデルよりもさらに細かい10mのメッシュを設定します。

初期水位の設定

最も津波の浸水範囲が大きいケースを想定するため、津波発生時の潮位（初期水位）は、朔望平均満潮位*（※）を設定しています。

※朔望平均満潮位：各月における最高満潮位の平均

理論上最大クラス及び過去最大クラスともに、津波関係の想定を作成するにあたり、海岸堤防・河川堤防については、以下の考え方に基づいて機能が維持できるかどうかを判定しています（左図参照）。

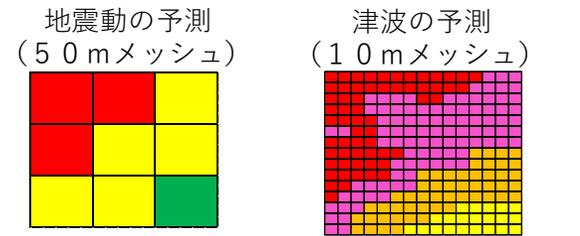
①津波を引き起こす地震の地震動や液状化に耐えられるかどうかを判定
⇒耐えられない場合は堤防の高さが75%沈下



②堤防の高さを津波の高さが超えるかどうかを判定
⇒津波の高さが堤防の高さを超えた場合
(①により堤防の高さが沈下した場合は、沈下後の高さを基準)、完全に堤防は破壊（越流破壊*）され、機能しない状態となる

なお、防波堤や水門、^{りっこう}陸閘*等のコンクリート構造物は、地震の揺れに耐えられないものと想定され、地震発生と同時に破壊されるものとしています。

【津波の予測で使用するメッシュイメージ図】



2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

今回の被害想定で津波シミュレーションの対象とした河川一覧

今回の被害想定において、津波シミュレーションの対象とした河川は以下のとおりです。
下記以外の川幅の狭い小規模な河川は、技術的な制約により津波シミュレーションの対象としていません。



市町村	河川名
桑名市	木曾川、揖斐川
朝日町	員弁川
川越町	朝明川
四日市市	海蔵川、三滝川、天白川、鈴鹿川、鈴鹿川派川
鈴鹿市	金沢川、堀切川、中ノ川
津市	田中川、志登茂川、安濃川、岩田川、月見川、雲出古川、
松阪市	雲出川、三渡川、阪内川、愛宕川、金剛川、櫛田川、中川、
明和町	祓川、紙漉川
伊勢市	外城田川、江川、宮川、大湊川、五十鈴川、勢田川、五十鈴川派川
鳥羽市	加茂川
志摩市	山田川、前川、西川、桧山路川
南伊勢町	神津佐川、五ヶ所川、伊勢路川、古和川
大紀町	奥川
紀北町	赤羽川、元谷川、白石湖、船津川、銚子川
尾鷲市	北川、中川、矢ノ川、八十川、古川
熊野市	井戸川、産田川
御浜町	尾呂志川
紀宝町	神内川、熊野川、相野谷川

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

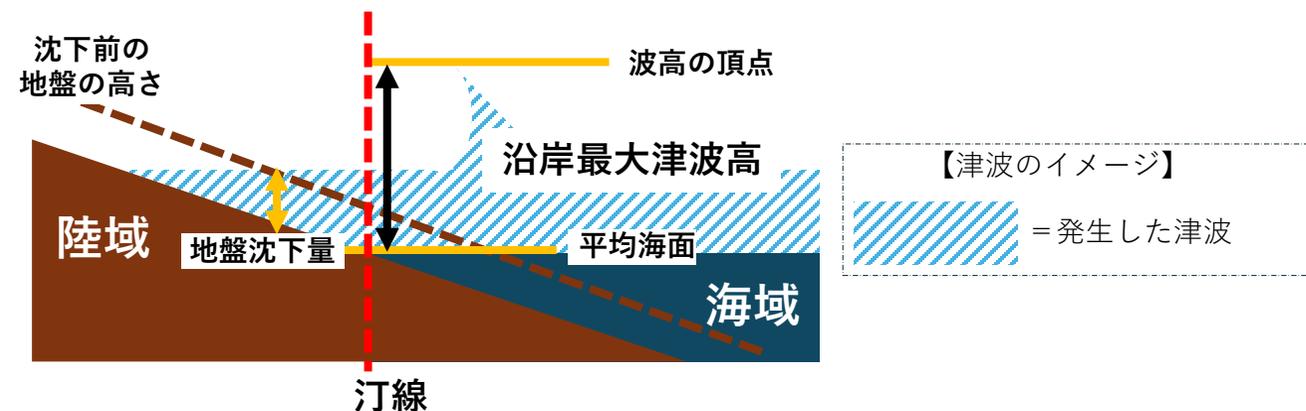
【A】沿岸最大津波高

評価目的

沿岸における津波の高さを予測し、津波避難計画の作成等に活用します。

<沿岸最大津波高の考え方>

今回の被害想定では、汀線*（海面と陸地との境界）における最大の津波の高さを沿岸最大津波高として予測しており、陸上における津波浸水深や、陸上を駆け上がった高さ（遡上高）とは異なります。



※沿岸最大津波高は、平均海面（東京湾中等潮位）*を基準に算定しています。

地震による地殻変動により地盤が沈下した場合、沈下量の分だけ陸域の標高が下がり、陸域を基準として相対的に津波が高くなるため、沿岸最大津波高は地盤の沈下量を加味して予測しています。

<想定結果のイメージ> 【L2】理論上最大クラス

(単位：m)

市町村名	【L2】理論上最大クラス		
	今回想定 (R7)	前回想定 (H25)	国想定 (R6)
桑名市	3	-	5
木曾岬町	4	-	5
四日市市	4	-	5
朝日町	-	-	-
川越町	3	-	4
鈴鹿市	5	-	6
津市	5	-	6
松阪市	5	-	7
明和町	6	-	7

市町ごとの沿岸最大津波高の値を一覧表にして示しています

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

【B】沿岸津波到達時間

評価目的

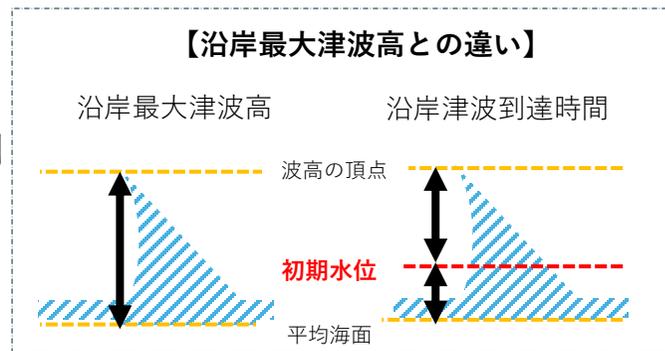
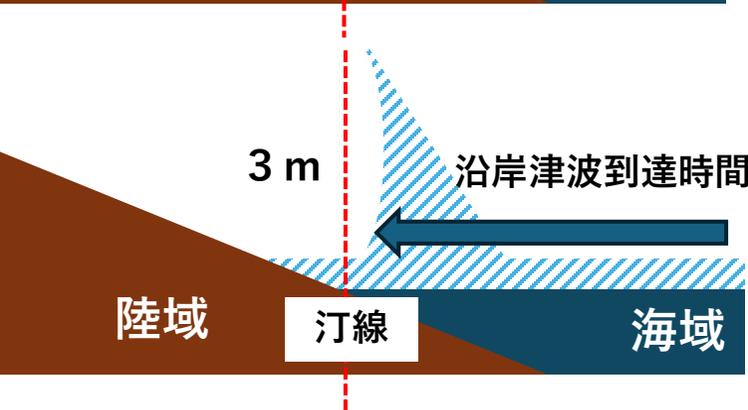
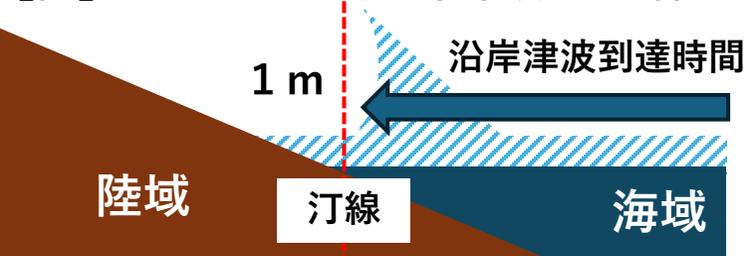
沿岸における津波の到達時間を予測し、津波避難計画の作成等に活用します。

<沿岸津波到達時間の考え方>

今回の被害想定では、汀線（海面と陸地との境界）において、津波が到達するまでの最短の時間を、沿岸津波到達時間として予測しています。

基準とする高さは、陸上の津波浸水深における被害程度の目安に合わせて、30cm・1m・3m・5m・10mを設定しています。

【例】1mと3mの沿岸津波到達時間



<想定結果のイメージ> 【L2】理論上最大クラス

市町村名	津波の高さ				
	30cm	1m	3m	5m	10m
桑名市	3	87	-	-	-
木曾岬町	3	84	-	-	-
四日市市	15	70	-	-	-
朝日町	-	-	-	-	-
川越町	25	81	-	-	-

市町ごとの沿岸津波到達時間を一覧表にして示しています。

※汀線に津波が到達するまでの最短の時間を、沿岸津波到達時間として予測しています。

※「-」は該当データがない（その高さの津波が到達しない）ことを示しています。

※沿岸津波到達時間の基準は、津波が陸域に到達する最短の時間を予測するため、初期水位（朔望平均満潮位）からの高さとしていますが、沿岸最大津波高は陸域の標高に対する最大の津波の高さを予測するため、平均海面からの高さとしています。

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

【C】 海域の津波影響開始時間

評価目的

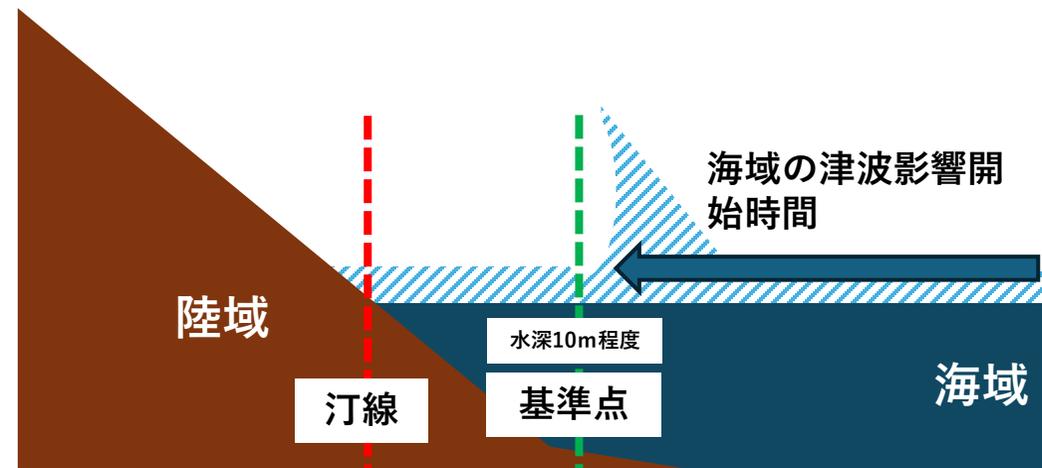
沿岸よりも沖合で、津波の影響が現れるまでの時間を予測します。
沖合では沿岸よりも早く津波の影響が現れることから、漁業従事者や海のレジャー客等、海域にいる可能性の高い住民や観光客に早期避難を促す等、避難計画の作成等に活用します。
津波は引き波で始まる可能性もあるため、水位の上昇だけでなく水位の低下も含めた潮位変化の時間を予測しています。

< 海域の津波影響開始時間の考え方 >

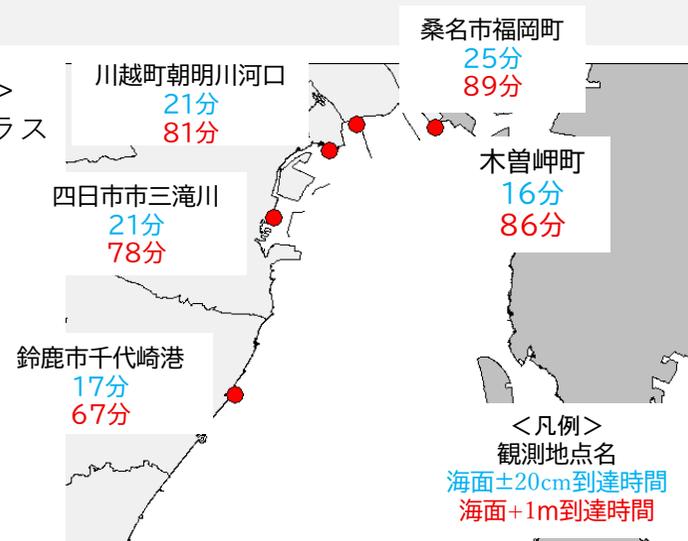
気象庁が発表する津波注意報の発表基準の下限である20cmと、津波巻き込まれた場合にほとんどの人が亡くなる可能性がある1mの高さを基準に、海域における潮位が変化するまでの時間を予測しています。

汀線よりも沖合の水深10m程度の海域を基準点として予測し、観測地点名には主要な河川の河口や港湾・漁港の名称を設定しています。

【海域の津波影響開始時間の予測基準点】



< 想定結果のイメージ >
【L2】理論上最大クラス



観測地点ごとの津波影響開始時間を地図上で示しています。青字が20cmの潮位変化（水位の低下を含む）が始まる時間を示し、赤字が潮位変化（水位上昇のみ）が1mに到達するまでの時間を示しています。

※津波は海底が浅いほど高くなるため、海域の津波影響開始時間（1m）よりも汀線を基準とする沿岸津波到達時間（1m）の方が早いケースがあります。 P 29

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

【D】津波浸水深

評価目的

津波により浸水する範囲と浸水の深さを示し、津波避難計画の作成や津波避難施設の整備、災害対応拠点等の重要施設の安全対策等、様々な事前防災の対策の検討に活用します。また、建物被害や人的被害等のリスク項目を推計する際の基礎資料とします。

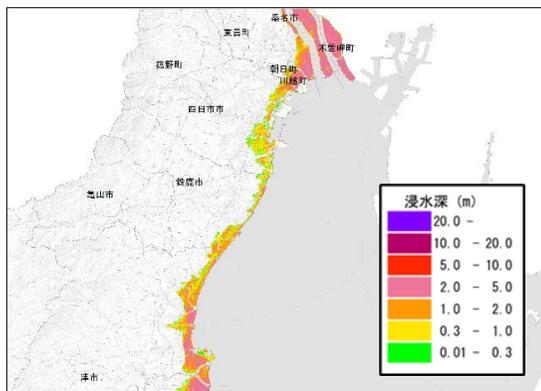
<津波浸水深の考え方>

津波浸水深は、陸上に設定した10mメッシュを単位として、浸水する範囲と浸水の深さを予測しています。海域をはじめ、川や池等の人が立ち入ることを想定されない場所は予測の対象外としています。

<留意事項>

津波は河川を遡上することから、海岸から離れた地域でも浸水被害が発生します。本被害想定では、小規模河川における津波遡上は技術的に困難であるため反映していません。また、浸水想定域外であっても、河川近くでは津波の浸水が発生する可能性があります。

<想定結果のイメージ> 【L2】理論上最大クラス



津波浸水深を色分けし、地図上で示しています。色の違いは、最大となる津波浸水深の予測結果を示しています。上図では、木曾岬町はほぼ全域で2mから5mの最大津波浸水深が予測されます。

<津波浸水深と想定される被害イメージ> 出典：南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会報告書（内閣府）

津波浸水深	想定される被害程度
0.3m以上	避難行動がとれなく（動くことができなく）なる
1 m以上	津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなる
2 m以上	木造家屋の半数が全壊する（注：3 m以上でほとんどが全壊する）
5 m以上	2階立ての建物（あるいは2階部分までが）水没する
10m以上	3階建ての建物（あるいは3階部分までが）完全に水没する

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

【E】津波浸水深到達時間

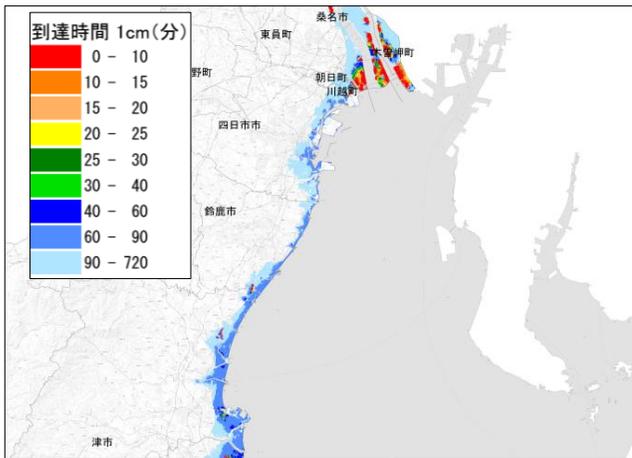
評価目的

陸上で標高から1cm及び30cmの高さに津波が到達するまでの時間を示し、津波避難計画の作成や南海トラフ地震臨時情報*の発表に備えた事前避難対象地域の検討等に活用します。

<津波浸水深到達時間の考え方>

津波浸水深到達時間は、津波浸水深と同様に陸上に設定した10mメッシュを単位として、基準となる津波の浸水深に到達するまでの時間を予測しています。海域をはじめ、川や池等の人が立ち入ることを想定されない場所は予測の対象外としています。

<想定結果のイメージ> 【L2】理論上最大クラス



<基準とする津波浸水深の考え方>

津波浸水深到達時間は、1cmと30cmを基準に予測しています。
1cmは、一刻も早く避難するために必要な基準として予測し、
30cmは、事前避難対象地域の検討に必要な基準として予測しています。

【津波浸水深到達時間のイメージ (1cm)】

津波浸水深到達時間ごとに色分けし、地図上で示しています。
色の違いは、津波浸水深が1cmに到達するまでの時間を示しています。上図の場合、木曾岬町では陸上で地震発生から30分以内に1cmの津波浸水が予測されます。



2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

【F】津波浸水面積

評価目的

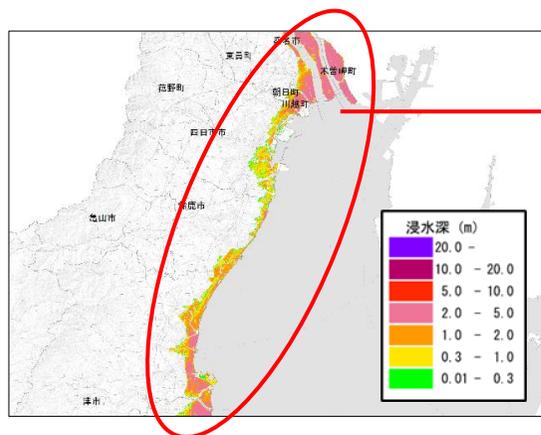
陸上に津波が浸水する面積を予測し、被害規模の予測や復旧計画の策定等に活用します。

<津波浸水面積の考え方>

津波浸水深を予測した際のメッシュ数をもとに、津波浸水面積を予測します。
海域をはじめ、川や池等の人立ち入ることを想定されない場所は予測の対象外としています。

<津波浸水面積の計算方法>

津波浸水深の予測を10mメッシュ単位で実施するため、浸水する範囲からメッシュの数を算出し、津波浸水面積を予測します。



$$1 \text{メッシュ} = 10 \text{m} \times 10 \text{m} \\ = 100 \text{m}^2$$

$$100 \text{m}^2 \times \text{メッシュ数} = \text{浸水面積}$$

<想定結果のイメージ> 【L2】理論上最大クラス

市町村名	【L2】理論上最大クラス					
	今回想定 (R7)		前回想定 (H25)		国想定 (R6)	
	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
桑名市	3,362	24.6%	3,404	24.9%	50	0.4%
木曾岬町	1,181	75.0%	1,207	76.7%	*	*
四日市市	1,960	9.5%	1,968	9.5%	670	3.2%
朝日町	136	22.7%	138	23.0%	*	*
川越町	528	60.5%	543	62.3%	100	11.5%

津波浸水面積の値を市町ごとに
一覧表にして示します。

2. ハザード評価 (2) ハザード評価の目的及び手法について

⑨ 津波

【G】津波浸水継続区域

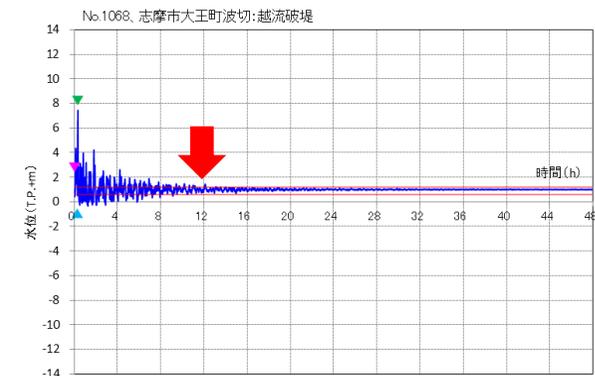
評価目的

陸上に浸水した津波が自然排水*されることなく、長期に浸水が継続する可能性のある範囲と浸水深を予測し、災害対応方針の検討や災害復旧計画の作成に活用します。

<津波浸水継続区域の考え方>

津波浸水継続区域は、津波浸水深の予測と同様に、陸上に設定した10mメッシュを単位として、津波が収束すると考えられる地震発生から12時間後(※)の津波浸水の範囲と深さを、津波浸水継続区域として示しています。海域をはじめ、川や池等の人が立ち入ることを想定されない場所は予測の対象外としています。

<津波収束時間の目安>



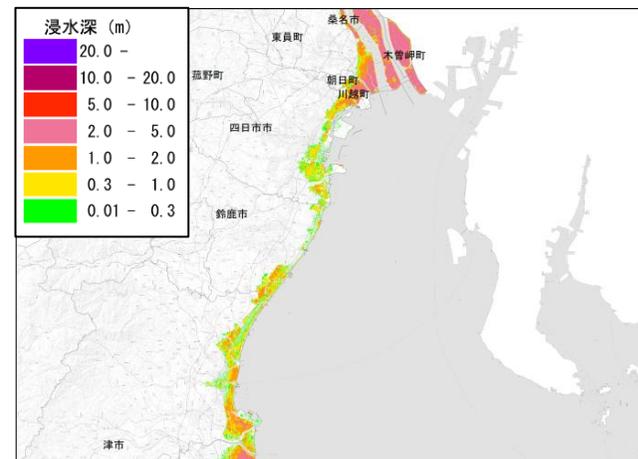
※津波波形シミュレーション結果

津波波形シミュレーションの結果、地震発生から12時間でおおよそ津波が収束する結果となったため、今回の被害想定においては12時間を津波収束時間の目安としました。

出典：農林水産省HP



<想定結果のイメージ> 【L2】理論上最大クラス



津波浸水深継続区域を浸水深ごとに色分けし、地図上で示しています。

色の違いは、継続する津波浸水の深さを示しています。上図では、木曾岬町はほぼ全域で2mから5mの津波浸水が継続することを示しています。

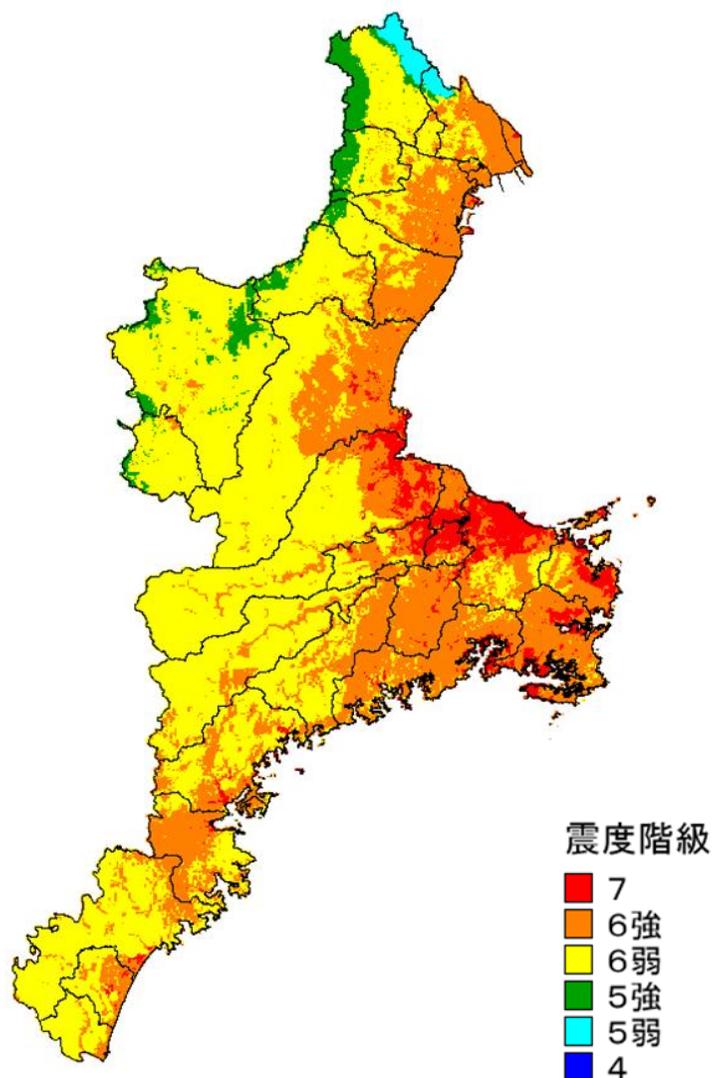
<参考：東日本大震災の事例> 出典：消防白書 (H24)

東日本大震災では、津波による浸水が自然排水では解消されず、国土交通省による緊急排水対策が実施されました。津波浸水が解消されない地域では、ウェットスーツやボートを使った救助活動が行われ、泥水中の鋭利ながれきでゴム製の器具が破損するなど、困難な状況の中で長期間にわたって活動が続けられました。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

① 地震動

【L2】理論上最大クラス



概観

理論上最大クラスでは、**県内のほぼ全域で震度6弱以上**、伊勢湾沿岸部から志摩半島にかけては震度6強、特に**津市南部から伊勢市にかけては震度7**を予測する地域もあります。

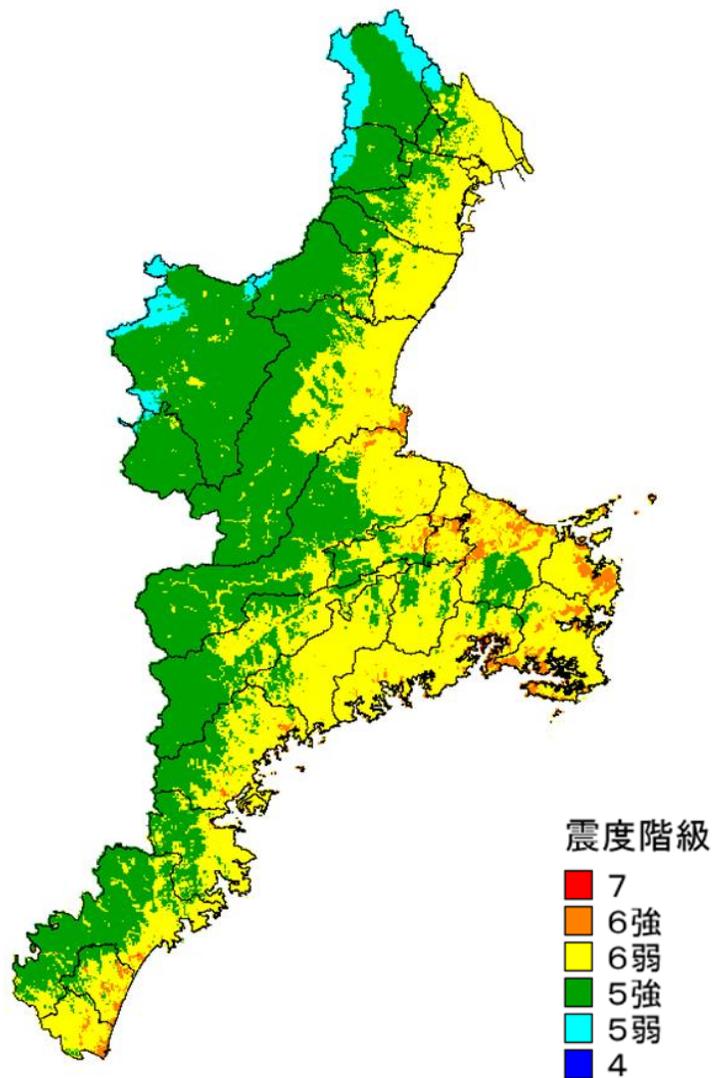
<震度別面積割合>

【L2】理論上最大クラス		
震度階級	面積 (km ²)	面積割合 (%)
7	324.85	5.63%
6強	1,948.97	33.75%
6弱	3,222.69	55.81%
5強	226.86	3.93%
5弱	51.11	0.89%
合計	5774.48	

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

① 地震動

【L1】過去最大クラス



概観

過去最大クラスでは、伊勢湾沿岸部から東紀州地域にかけて**県内の約半分の地域で震度6弱以上の揺れ**を予測しています。

<震度別面積割合>

【L1】過去最大クラス		
震度階級	面積 (km ²)	面積割合 (%)
7	2.18	0.04%
6強	184.01	3.19%
6弱	2,472.98	42.83%
5強	2,917.43	50.52%
5弱	197.88	3.43%
合計	5774.48	

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

<市町別震度別面積割合>

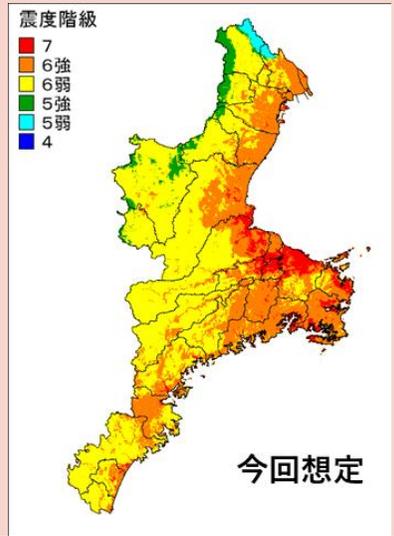
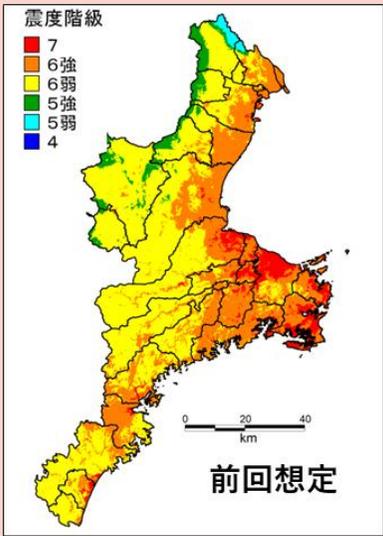
	【L 2】理論上最大クラス										総面積 (km ²)
	5弱		5強		6弱		6強		7		
	面積 (km ²)	割合 (%)									
桑名市	14.3	10.5%	3.9	2.8%	41.1	30.1%	77.0	56.3%	0.4	0.3%	136.7
いなべ市	36.9	16.8%	63.1	28.7%	118.1	53.7%	1.8	0.8%	0.0	0.0%	219.8
木曽岬町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.0	95.5%	0.7	4.5%	15.7
東員町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	18.7	82.2%	4.0	17.8%	0.0	0.0%	22.7
四日市市	0.0	0.0%	5.0	2.4%	66.9	32.4%	131.6	63.8%	2.9	1.4%	206.5
菰野町	0.0	0.0%	30.4	28.4%	68.2	63.7%	8.4	7.8%	0.0	0.0%	107.0
朝日町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	1.6	27.5%	4.3	72.5%	0.0	0.0%	6.0
川越町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.1	0.7%	8.7	99.3%	0.0	0.0%	8.7
鈴鹿市	0.0	0.0%	12.7	6.5%	75.8	39.0%	105.2	54.1%	0.7	0.4%	194.5
亀山市	0.0	0.0%	24.8	13.0%	146.3	76.6%	19.9	10.4%	0.0	0.0%	191.0
津市	0.0	0.0%	0.5	0.1%	451.3	63.5%	245.5	34.5%	13.9	2.0%	711.2
松阪市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	426.7	68.4%	140.7	22.6%	56.2	9.0%	623.6
多気町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	41.0	39.8%	44.0	42.6%	18.1	17.6%	103.1
明和町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	26.6	64.7%	14.5	35.2%	41.1
大台町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	302.4	83.3%	60.2	16.6%	0.3	0.1%	362.9
伊賀市	0.0	0.0%	73.7	13.2%	475.5	85.2%	9.0	1.6%	0.0	0.0%	558.2
名張市	0.0	0.0%	13.9	10.7%	111.9	86.2%	3.9	3.0%	0.0	0.0%	129.8
伊勢市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	48.3	23.2%	74.8	35.9%	85.3	40.9%	208.4
鳥羽市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	19.2	17.8%	60.0	55.9%	28.2	26.3%	107.3
志摩市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	4.9	2.8%	139.8	78.1%	34.2	19.1%	178.9
玉城町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	3.3	8.0%	13.8	33.9%	23.8	58.2%	40.9
南伊勢町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	37.8	15.6%	185.5	76.7%	18.6	7.7%	241.9
大紀町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	131.7	56.4%	101.2	43.4%	0.5	0.2%	233.3
度会町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.4	6.2%	121.2	89.8%	5.3	4.0%	135.0
尾鷲市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	70.1	36.4%	120.4	62.5%	2.3	1.2%	192.7
紀北町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	153.0	59.6%	94.4	36.8%	9.2	3.6%	256.6
熊野市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	299.9	80.3%	70.2	18.8%	3.2	0.9%	373.4
御浜町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	52.4	59.5%	33.3	37.7%	2.5	2.8%	88.1
紀宝町	0.0	0.0%	0.0	0.1%	68.7	86.3%	10.7	13.5%	0.1	0.1%	79.6
計	51.2	0.9%	228.1	3.9%	3243.3	56.2%	1931.1	33.4%	320.8	5.6%	5774.5

	【L 1】過去最大クラス										総面積 (km ²)
	5弱		5強		6弱		6強		7		
	面積 (km ²)	割合 (%)									
桑名市	10.6	7.8%	31.9	23.3%	93.7	68.6%	0.4	0.3%	0.0	0.0%	136.7
いなべ市	87.2	39.6%	131.7	59.9%	1.0	0.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	219.8
木曽岬町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.7	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.7
東員町	0.0	0.0%	19.2	84.7%	3.5	15.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	22.7
四日市市	0.0	0.0%	83.7	40.6%	122.3	59.2%	0.5	0.2%	0.0	0.0%	206.5
菰野町	22.6	21.1%	82.5	77.1%	2.0	1.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	107.0
朝日町	0.0	0.0%	0.0	0.1%	6.0	99.9%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	6.0
川越町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.7	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.7
鈴鹿市	0.0	0.0%	70.9	36.5%	123.4	63.5%	0.1	0.1%	0.0	0.0%	194.5
亀山市	7.2	3.8%	160.9	84.2%	22.9	12.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	191.0
津市	0.0	0.0%	448.0	63.0%	254.1	35.7%	9.1	1.3%	0.0	0.0%	711.2
松阪市	0.0	0.0%	396.2	63.5%	218.5	35.0%	8.9	1.4%	0.0	0.0%	623.6
多気町	0.0	0.0%	40.8	39.6%	57.0	55.3%	5.3	5.1%	0.0	0.0%	103.1
明和町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	37.7	91.9%	3.3	8.1%	0.0	0.0%	41.1
大台町	0.0	0.0%	240.0	66.1%	122.4	33.7%	0.5	0.1%	0.0	0.0%	362.9
伊賀市	65.9	11.8%	481.4	86.2%	10.9	2.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	558.2
名張市	5.5	4.2%	121.7	93.8%	2.6	2.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	129.8
伊勢市	0.0	0.0%	60.0	28.8%	115.3	55.4%	33.0	15.8%	0.0	0.0%	208.4
鳥羽市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	82.4	76.7%	25.0	23.3%	0.0	0.0%	107.3
志摩市	0.0	0.0%	9.9	5.5%	138.3	77.3%	30.6	17.1%	0.1	0.1%	178.9
玉城町	0.0	0.0%	3.6	8.7%	28.3	69.3%	9.0	22.0%	0.0	0.0%	40.9
南伊勢町	0.0	0.0%	13.1	5.4%	207.0	85.6%	20.3	8.4%	1.4	0.6%	241.9
大紀町	0.0	0.0%	32.9	14.1%	199.7	85.6%	0.7	0.3%	0.0	0.0%	233.3
度会町	0.0	0.0%	29.1	21.6%	103.8	76.9%	2.1	1.5%	0.0	0.0%	135.0
尾鷲市	0.0	0.0%	88.2	45.8%	103.4	53.6%	1.1	0.6%	0.0	0.0%	192.7
紀北町	0.0	0.0%	102.6	40.0%	145.0	56.5%	8.7	3.4%	0.3	0.1%	256.6
熊野市	0.0	0.0%	254.8	68.2%	114.4	30.6%	4.1	1.1%	0.1	0.0%	373.4
御浜町	0.0	0.0%	27.7	31.5%	50.7	57.5%	9.6	10.9%	0.1	0.1%	88.1
紀宝町	0.0	0.0%	7.1	8.9%	64.8	81.4%	7.6	9.5%	0.1	0.1%	79.6
計	198.9	3.4%	2938.1	50.9%	2455.5	42.5%	179.8	3.1%	2.1	0.0%	5774.5

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

① 地震動 <参考：前回想定結果との比較>

【L2】理論上最大クラス



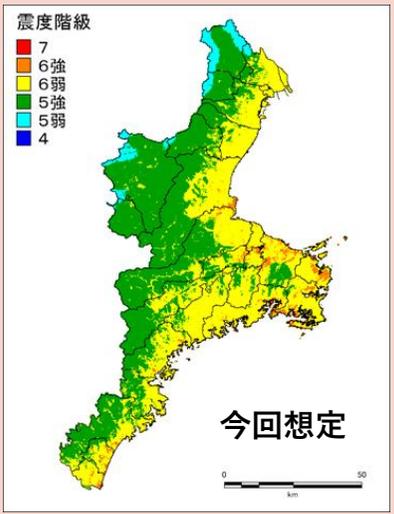
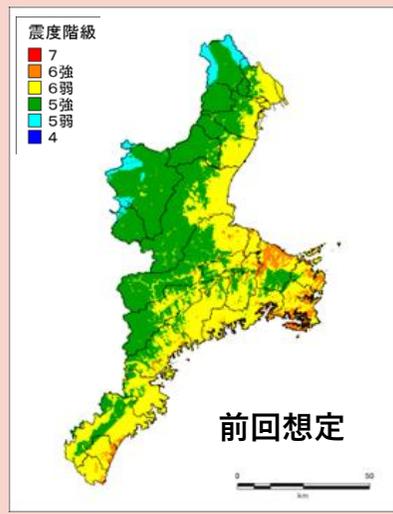
結果の比較

理論上最大クラス及び過去最大クラスともに、県全体の傾向としては大きな変化はありません。

<震度別面積割合>

震度階級	【L2】理論上最大クラス			
	今回 (R7)		前回 (H25)	
	面積 (km ²)	面積割合 (%)	面積 (km ²)	面積割合 (%)
7	324.85	5.63%	388.19	6.72%
6強	1,948.97	33.75%	1,919.29	33.22%
6弱	3,222.69	55.81%	3,163.97	54.77%
5強	226.86	3.93%	261.44	4.53%
5弱	51.11	0.89%	44.43	0.77%
合計	5774.48		5777.32	

【L1】過去最大クラス

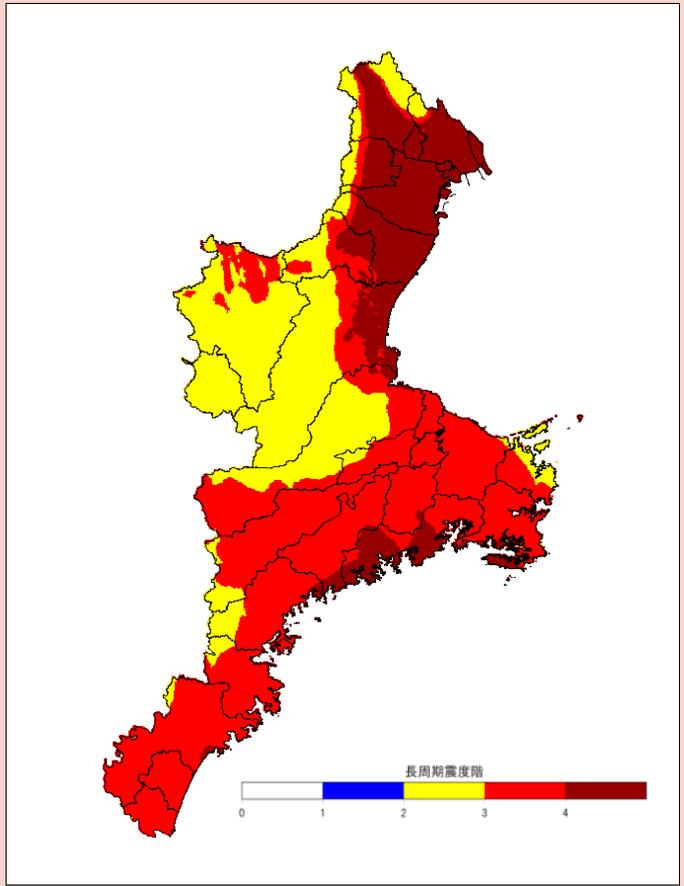


震度階級	【L1】過去最大クラス			
	今回 (R7)		前回 (H25)	
	面積 (km ²)	面積割合 (%)	面積 (km ²)	面積割合 (%)
7	2.18	0.04%	5.63	0.10%
6強	184.01	3.19%	287.18	4.97%
6弱	2,472.98	42.83%	2,449.16	42.39%
5強	2,917.43	50.52%	2,843.87	49.22%
5弱	197.88	3.43%	191.47	3.31%
合計	5774.48		5777.31	

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

② 長周期地震動

【L1】過去最大クラス



概観
県内の広い範囲で長周期地震動階級3以上が想定され、**北部の沿岸部や南部の一部地域では長周期地震動階級4**を予測する地域もあります。

階級1 <ul style="list-style-type: none">●室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。●ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。	階級2 <ul style="list-style-type: none">●室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。●キャスター付きの家具類等がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
階級3 <ul style="list-style-type: none">●立っていることが困難になる。●キャスター付きの家具類等が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	階級4 <ul style="list-style-type: none">●立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。●キャスター付きの家具類等が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。

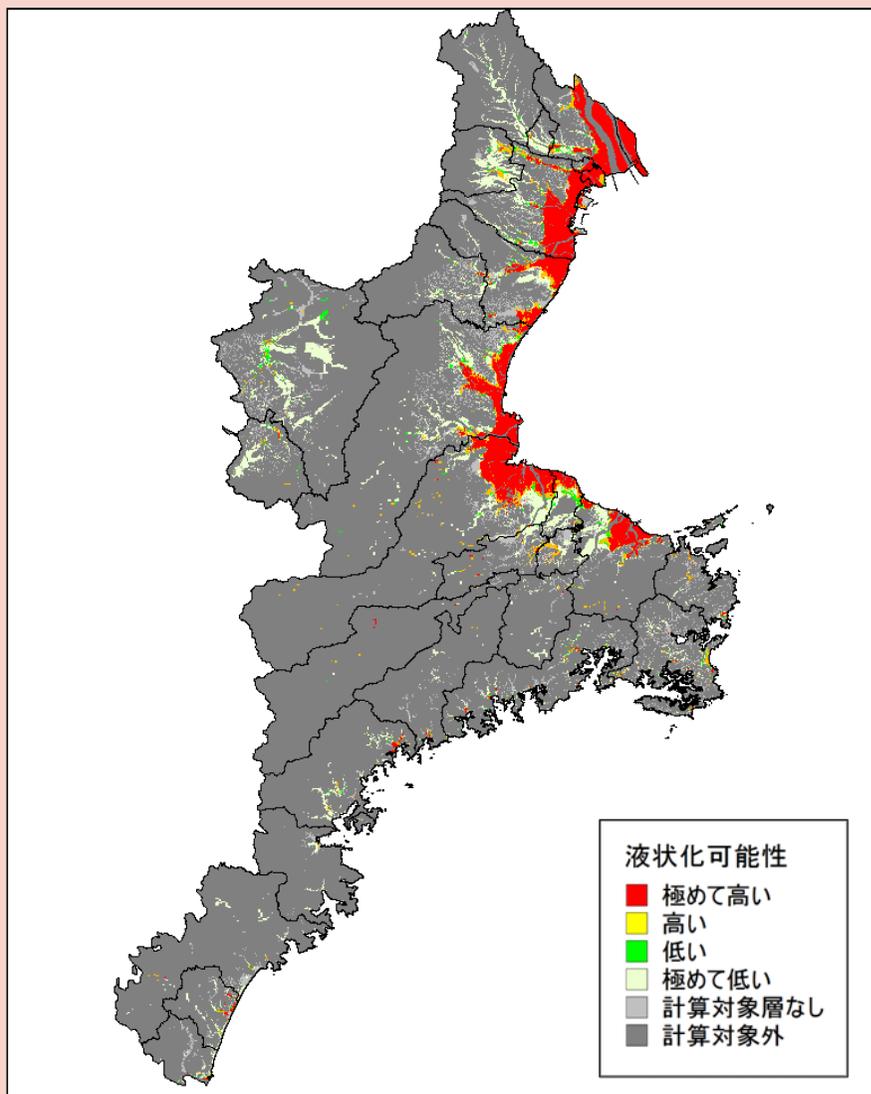
出典：気象庁HP「長周期地震動について」

<長周期地震動とは>

長周期地震動とは、大きな地震で生じる、周期（揺れが1往復するのにかかる時間）が長い大きな揺れのことを言います。長周期地震動により、高層ビルや大型タンクに貯蔵された液体が大きく長時間揺れ続けるほか、長周期地震動は遠くまで伝わりやすい性質があることから、地震が発生した場所から数百kmはなれたところでも大きく長く揺れることがあります。長周期地震動階級とは、高層ビル内における、地震時の人の行動の困難さの程度や、家具や什器の移動・転倒などの被害の程度から4つの段階に区分した揺れの大きさの指標です。

③ 液状化

【L2】理論上最大クラス



概観

伊勢湾沿岸部は液状化危険度の高い地域が集中しています。

志摩半島以南では、沿岸部の一部の地域で液状化危険度の高い地域が見られます。

内陸部では、河川に近い一部の地域で液状化危険度が高いと予測しています。

<留意事項>

左記の液状化危険度分布図は、その地域における地形や地質上の特徴をふまえて液状化の発生可能性を示したものです。

建物を設計する際、液状化に関する詳細な調査や対策が必要かどうかを判断する目安としての活用を想定したものであり、特定の地点における危険度を明確に示すものではありません。

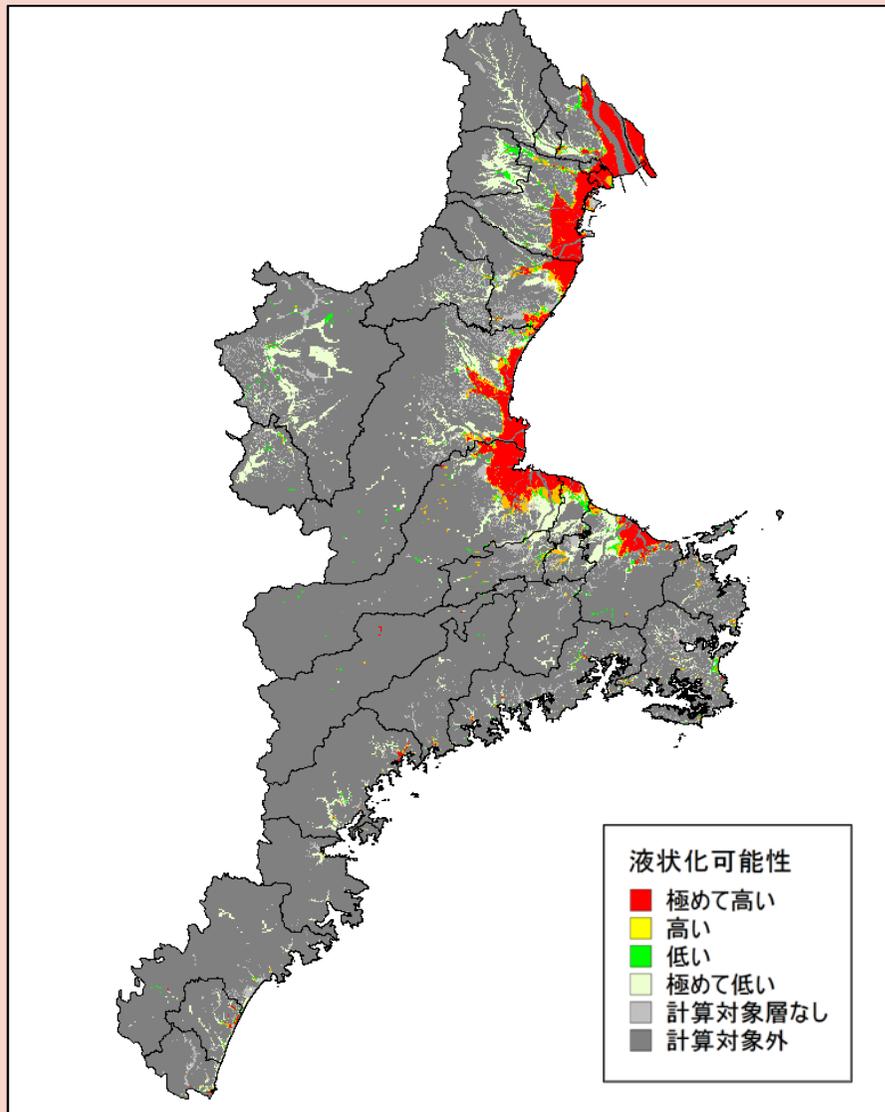
<参考：凡例について>

凡例	解説
極めて高い	PL > 15 液状化危険度が高い
高い	5 < PL ≤ 15 液状化危険度がやや高い
低い	0 < PL ≤ 5 液状化危険度は低い
極めて低い	PL = 0 液状化危険度は極めて低い
計算対象層なし	地盤に砂や礫などの液状化の要因となる層が含まれていない
計算対象外	山地や丘陵など、地形区分から液状化しないものと判定

※PL値 = 液状化の危険度を表す指標。その地点の地震動に対して、液状化する可能性がある地層の厚さ等から算出

③ 液状化

【L1】過去最大クラス



概観

伊勢湾沿岸部は液状化危険度の高い地域が集中しています。

志摩半島以南では、沿岸部の一部の地域で液状化危険度の高い地域が見られます。

内陸部では、河川に近い一部の地域で液状化危険度が高いと予測しています。

<留意事項>

左記の液状化危険度分布図は、その地域における地形や地質上の特徴をふまえて液状化の発生可能性を示したものです。

建物を設計する際、液状化に関する詳細な調査や対策が必要かどうかを判断する目安としての活用を想定したものであり、特定の地点における危険度を明確に示すものではありません。

<参考：凡例について>

凡例	解説
極めて高い	PL > 15 液状化危険度が高い
高い	5 < PL ≤ 15 液状化危険度がやや高い
低い	0 < PL ≤ 5 液状化危険度は低い
極めて低い	PL = 0 液状化危険度は極めて低い
計算対象層なし	地盤に砂や礫などの液状化の要因となる層が含まれていない
計算対象外	山地や丘陵など、地形区分から液状化しないものと判定

※PL値 = 液状化の危険度を表す指標。その地点の地震動に対して、液状化する可能性がある地層の厚さ等から算出

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

<市町別液状化可能性別面積割合>

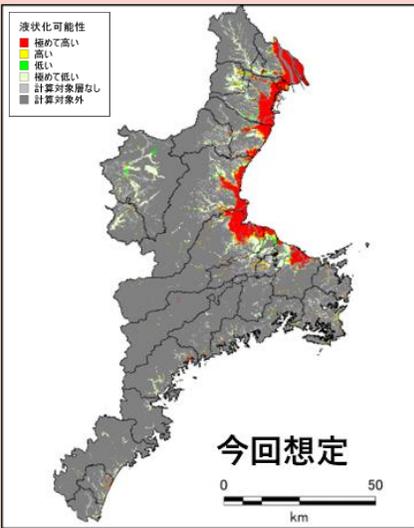
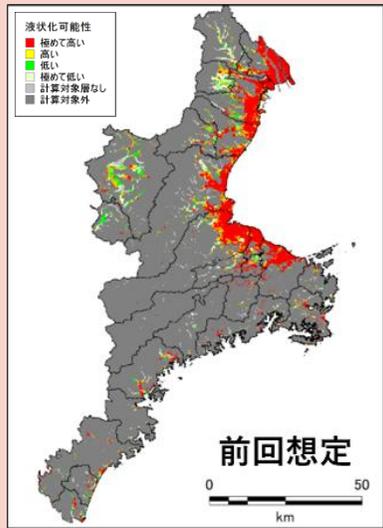
	【L2】理論上最大クラス											総面積 (km ²)
	極めて低い		低い		高い		極めて高い		計算対象層なし 計算対象外		総面積 (km ²)	
	面積 (km ²)	割合 (%)										
桑名市	5.4	4.0%	1.7	1.2%	5.0	3.6%	37.7	27.6%	86.8	63.5%	136.7	
いなべ市	15.0	6.8%	0.5	0.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	204.3	92.9%	219.8	
木曽岬町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	12.1	76.7%	3.7	23.3%	15.7	
東員町	6.0	26.3%	0.3	1.2%	0.3	1.2%	0.3	1.1%	15.9	70.2%	22.7	
四日市市	15.6	7.6%	3.2	1.5%	6.6	3.2%	52.8	25.6%	128.3	62.1%	206.5	
菰野町	22.2	20.8%	0.9	0.8%	3.5	3.3%	0.1	0.1%	80.3	75.1%	107.0	
朝日町	0.2	3.3%	0.1	2.0%	0.2	2.6%	2.3	37.7%	3.3	54.4%	6.0	
川越町	0.0	0.0%	0.1	1.2%	1.0	11.0%	6.6	76.2%	1.0	11.5%	8.7	
鈴鹿市	12.0	6.2%	1.7	0.9%	6.8	3.5%	24.1	12.4%	149.8	77.1%	194.5	
亀山市	8.3	4.3%	0.6	0.3%	0.7	0.3%	0.3	0.2%	181.2	94.9%	191.0	
津市	32.1	4.5%	4.4	0.6%	11.3	1.6%	42.9	6.0%	620.5	87.2%	711.2	
松阪市	24.9	4.0%	2.1	0.3%	12.9	2.1%	60.9	9.8%	522.8	83.8%	623.6	
多気町	5.6	5.4%	0.3	0.3%	2.3	2.2%	0.6	0.6%	94.3	91.5%	103.1	
明和町	10.9	26.6%	2.6	6.2%	2.9	7.0%	6.7	16.3%	18.0	43.9%	41.1	
大台町	0.3	0.1%	0.1	0.0%	0.5	0.1%	0.5	0.1%	361.6	99.6%	362.9	
伊賀市	41.2	7.4%	4.3	0.8%	2.4	0.4%	0.0	0.0%	510.3	91.4%	558.2	
名張市	10.0	7.7%	0.5	0.4%	1.1	0.9%	0.2	0.1%	118.0	90.9%	129.8	
伊勢市	18.1	8.7%	2.5	1.2%	5.6	2.7%	23.2	11.1%	159.0	76.3%	208.4	
鳥羽市	2.3	2.1%	0.2	0.2%	1.4	1.3%	0.5	0.5%	102.9	95.9%	107.3	
志摩市	6.9	3.9%	0.9	0.5%	2.5	1.4%	0.7	0.4%	167.9	93.9%	178.9	
玉城町	5.1	12.6%	0.1	0.1%	2.9	7.1%	0.5	1.1%	32.4	79.1%	40.9	
南伊勢町	6.9	2.8%	0.9	0.4%	1.1	0.4%	0.8	0.3%	232.2	96.0%	241.9	
大紀町	2.4	1.0%	0.1	0.0%	0.6	0.2%	0.2	0.1%	230.0	98.6%	233.3	
度会町	3.7	2.8%	0.0	0.0%	0.2	0.2%	0.0	0.0%	131.0	97.0%	135.0	
尾鷲市	2.9	1.5%	0.0	0.0%	0.3	0.2%	0.0	0.0%	189.5	98.3%	192.7	
紀北町	9.5	3.7%	0.8	0.3%	1.1	0.4%	1.1	0.4%	244.1	95.1%	256.6	
熊野市	4.7	1.2%	0.2	0.0%	0.6	0.2%	0.2	0.0%	367.7	98.5%	373.4	
御浜町	4.3	4.9%	0.3	0.4%	0.7	0.8%	1.0	1.1%	81.8	92.8%	88.1	
紀宝町	1.7	2.1%	0.2	0.2%	0.4	0.4%	0.3	0.3%	77.2	96.9%	79.6	
計	278.1	4.8%	29.5	0.5%	74.6	1.3%	276.5	4.8%	5115.8	88.6%	5774.5	

	【L1】過去最大クラス											総面積 (km ²)
	極めて低い		低い		高い		極めて高い		計算対象層なし 計算対象外		総面積 (km ²)	
	面積 (km ²)	割合 (%)										
桑名市	6.8	5.0%	2.7	2.0%	4.6	3.3%	35.7	26.2%	86.8	63.5%	136.7	
いなべ市	15.5	7.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	204.3	92.9%	219.8	
木曽岬町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.2	1.6%	11.8	75.1%	3.7	23.3%	15.7	
東員町	6.3	27.6%	0.2	1.1%	0.2	0.7%	0.1	0.5%	15.9	70.2%	22.7	
四日市市	18.6	9.0%	4.6	2.2%	7.2	3.5%	47.8	23.2%	128.3	62.1%	206.5	
菰野町	23.0	21.5%	3.4	3.2%	0.2	0.2%	0.0	0.0%	80.3	75.1%	107.0	
朝日町	0.3	4.8%	0.2	2.5%	0.2	3.1%	2.1	35.2%	3.3	54.4%	6.0	
川越町	0.0	0.0%	0.2	2.0%	1.0	11.5%	6.5	75.0%	1.0	11.5%	8.7	
鈴鹿市	13.4	6.9%	3.1	1.6%	8.9	4.6%	19.1	9.8%	149.8	77.1%	194.5	
亀山市	8.7	4.5%	0.6	0.3%	0.5	0.2%	0.0	0.0%	181.2	94.9%	191.0	
津市	35.6	5.0%	5.2	0.7%	13.6	1.9%	36.4	5.1%	620.5	87.2%	711.2	
松阪市	26.4	4.2%	4.8	0.8%	17.2	2.8%	52.3	8.4%	522.8	83.8%	623.6	
多気町	5.9	5.8%	1.1	1.1%	1.7	1.6%	0.0	0.0%	94.3	91.5%	103.1	
明和町	11.7	28.5%	2.7	6.5%	3.6	8.7%	5.1	12.4%	18.0	43.9%	41.1	
大台町	0.3	0.1%	0.4	0.1%	0.1	0.0%	0.5	0.1%	361.6	99.6%	362.9	
伊賀市	43.6	7.8%	3.9	0.7%	0.4	0.1%	0.0	0.0%	510.3	91.4%	558.2	
名張市	10.4	8.0%	1.0	0.8%	0.4	0.3%	0.0	0.0%	118.0	90.9%	129.8	
伊勢市	20.4	9.8%	4.2	2.0%	6.1	2.9%	18.7	9.0%	159.0	76.3%	208.4	
鳥羽市	2.3	2.2%	0.3	0.3%	1.4	1.3%	0.3	0.3%	102.9	95.9%	107.3	
志摩市	7.3	4.1%	1.6	0.9%	1.7	1.0%	0.4	0.2%	167.9	93.9%	178.9	
玉城町	5.2	12.8%	0.4	1.1%	2.9	7.0%	0.0	0.1%	32.4	79.1%	40.9	
南伊勢町	7.4	3.1%	0.9	0.4%	0.9	0.4%	0.5	0.2%	232.2	96.0%	241.9	
大紀町	2.4	1.0%	0.4	0.2%	0.3	0.1%	0.2	0.1%	230.0	98.6%	233.3	
度会町	3.8	2.8%	0.1	0.1%	0.1	0.1%	0.0	0.0%	131.0	97.0%	135.0	
尾鷲市	2.9	1.5%	0.0	0.0%	0.3	0.2%	0.0	0.0%	189.5	98.3%	192.7	
紀北町	9.8	3.8%	0.8	0.3%	0.8	0.3%	0.9	0.4%	244.1	95.1%	256.6	
熊野市	4.7	1.3%	0.5	0.1%	0.3	0.1%	0.1	0.0%	367.7	98.5%	373.4	
御浜町	4.4	5.0%	0.4	0.5%	0.8	0.9%	0.8	0.9%	81.8	92.8%	88.1	
紀宝町	1.7	2.1%	0.2	0.2%	0.3	0.4%	0.2	0.3%	77.2	96.9%	79.6	
計	298.9	5.2%	44.1	0.8%	76.1	1.3%	239.7	4.2%	5115.8	88.6%	5774.5	

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

③ 液状化 <参考：前回想定結果との比較>

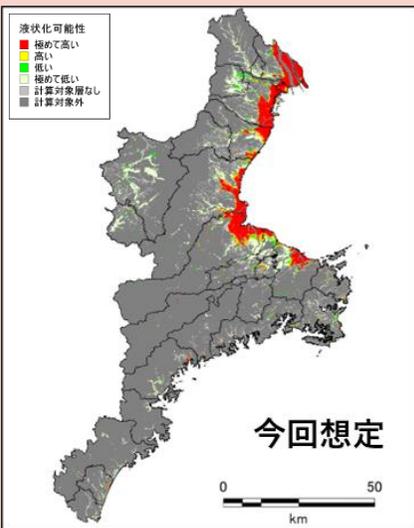
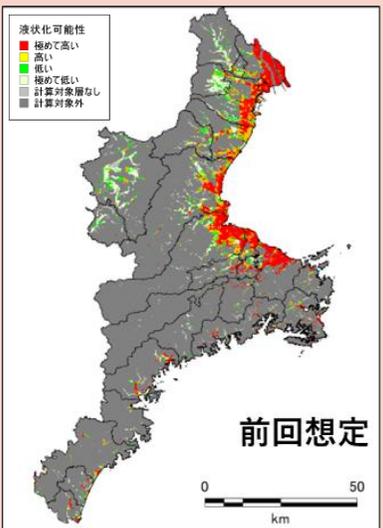
[L2] 理論上最大クラス



結果の比較

理論上最大クラス及び過去最大クラスともに、県全体の傾向としては大きな変化はありません。

[L1] 過去最大クラス



<参考：凡例について>

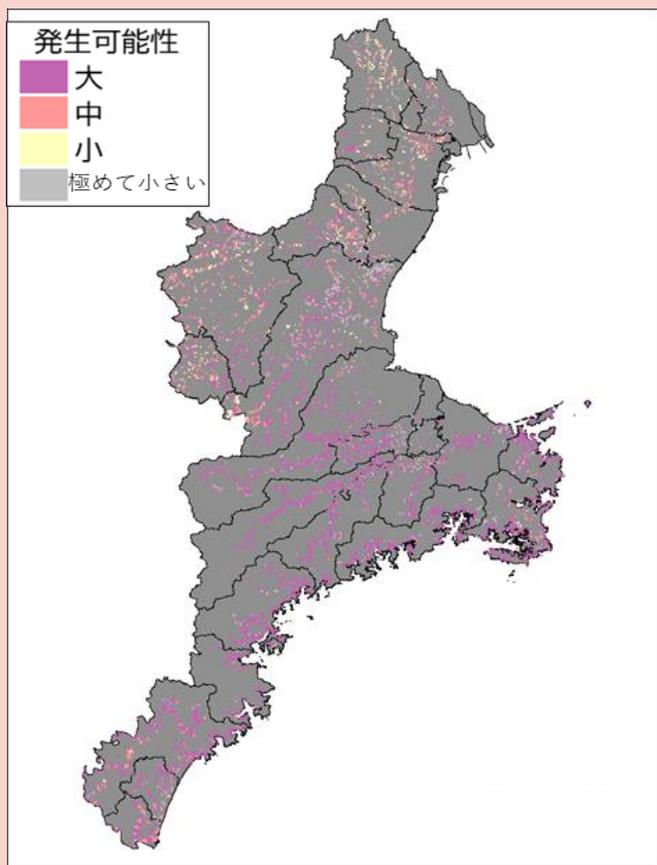
凡例	解説
極めて高い	PL > 15 液状化危険度が高い
高い	5 < PL ≤ 15 液状化危険度がやや高い
低い	0 < PL ≤ 5 液状化危険度は低い
極めて低い	PL = 0 液状化危険度は極めて低い
計算対象層なし	地盤に砂や礫などの液状化の要因となる層が含まれていない
計算対象外	山地や丘陵など、地形区分から液状化しないものと判定

※PL値 = 液状化の危険度を表す指標。その地点の地震動に対して、液状化する可能性がある地層の厚さ等から算出

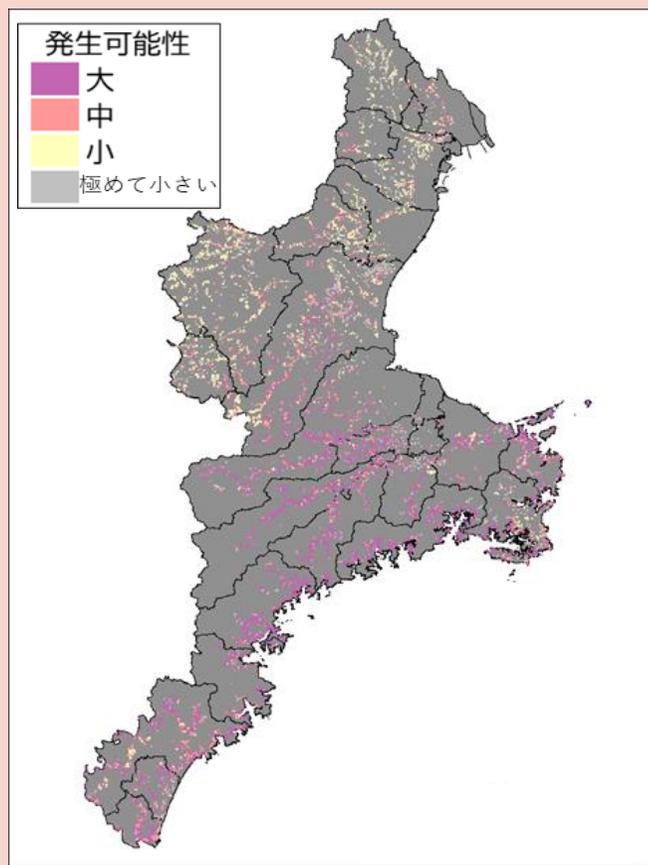
2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

④ 斜面災害

【L2】理論上最大クラス



【L1】過去最大クラス



概観

理論上最大クラス及び過去最大クラスともに、県中部～南部にかけて、**斜面災害が「発生可能性大」の箇所が多く見られます。**

理論上最大クラスでは、県北部においても、斜面災害が「発生可能性大」の箇所が見られます。

<参考：凡例について>

凡例	発生可能性
大	発生確率約25%
中	発生確率約12%
小	発生確率約2%
極めて小さい	発生可能性は極めて小さい

※斜面災害の発生確率は、能登半島地震における斜面災害の発生状況を検証した結果をもとに設定しています。

※濃いグレーで示された地域は土砂災害警戒区域以外の地域であり、評価対象になっていない地域です。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑤ 津波（沿岸最大津波高）

(単位：m)

概観

県南部では、理論上最大クラスで10mを超える津波高を予測し、特に志摩半島に位置する市町で**津波高が20mを超える**と予測しています。

県北部の海拔ゼロメートル地帯等、沿岸の津波高が3m～4mであっても陸上への広範囲の浸水あると予測しています。

<留意事項>

沿岸最大津波高は、津波が沿岸に到達した時点で海水面を基準に予測したものであり、沿岸最大津波高がそのまま陸上における津波浸水深となるものではありません。

津波浸水深は、陸上において地点ごとの標高を基準に予測しています。

なお、前回想定において、三重県としては理論上最大クラスの沿岸最大津波高を予測しておらず、過去最大クラスについては、予測地点が今回と異なるため、比較対象データとして掲載していません。

また、国においては過去最大クラスを想定していません。

市町村名	【L 2】理論上最大クラス			【L 1】過去最大クラス		
	今回想定 (R 7)	前回想定 (H25)	国想定 (R 6)	今回想定 (R 7)	前回想定 (H25)	国想定 (R 6)
桑名市	3	-	5	3	-	-
木曾岬町	4	-	5	3	-	-
四日市市	4	-	5	3	-	-
朝日町	-	-	-	-	-	-
川越町	3	-	4	3	-	-
鈴鹿市	5	-	6	3	-	-
津市	5	-	6	4	-	-
松阪市	5	-	7	4	-	-
明和町	6	-	7	6	-	-
伊勢市	8	-	9	6	-	-
鳥羽市	24	-	24	9	-	-
志摩市	26	-	26	14	-	-
南伊勢町	21	-	22	10	-	-
大紀町	15	-	16	10	-	-
尾鷲市	17	-	17	9	-	-
紀北町	19	-	19	12	-	-
熊野市	17	-	18	12	-	-
御浜町	16	-	16	10	-	-
紀宝町	11	-	11	6	-	-

※「-」は該当データがないことを示しています。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑥ 津波（沿岸津波到達時間）

【L2】理論上最大クラス

(単位：分)

概観

北部から南部にかけての広い範囲で、地震発生後**5分以内**に沿岸に**30cmの津波**が到達すると予測しています。

南部では、**10分以内**で沿岸に**1mの津波**が到達すると予測しています。

特に、**尾鷲市**や**熊野市**においては**3分**で1mの津波が到達すると予測しています。

<留意事項>

県北部の海拔ゼロメートル地帯等、地盤の低い地域では、地震による地殻変動で地盤が沈降するほか、地震の揺れにより耐震性を持たない堤防が沈下し、低くなった堤防を津波が越えた場合に破堤することを想定しているため、津波の到達よりも早く浸水が始まると予測しています。

市町村名	基準とする津波の高さ														
	30cm			1m			3m			5m			10m		
	今回想定 (R7)	前回想定 (H25)	国想定 (R6)												
桑名市	3	-	-	87	-	82	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木曾岬町	3	-	-	84	-	84	-	-	-	-	-	-	-	-	-
四日市市	15	-	-	70	-	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-
朝日町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川越町	25	-	-	81	-	80	-	-	79	-	-	-	-	-	-
鈴鹿市	20	-	-	64	-	64	75	-	75	-	-	-	-	-	-
津市	20	-	-	56	-	57	69	-	69	-	-	-	-	-	-
松阪市	4	-	-	53	-	52	69	-	68	-	-	137	-	-	-
明和町	11	-	-	30	-	30	55	-	55	164	-	118	-	-	-
伊勢市	9	-	-	22	-	22	46	-	40	101	-	72	-	-	-
鳥羽市	3	-	-	8	-	9	12	-	13	16	-	15	25	-	33
志摩市	3	-	-	4	-	5	6	-	7	7	-	8	15	-	16
南伊勢町	3	-	-	6	-	7	9	-	10	10	-	11	17	-	18
大紀町	3	-	-	7	-	7	10	-	11	11	-	12	18	-	19
尾鷲市	3	-	-	3	-	3	5	-	9	10	-	11	16	-	17
紀北町	3	-	-	6	-	6	8	-	5	7	-	7	14	-	14
熊野市	3	-	-	3	-	4	5	-	5	7	-	7	12	-	13
御浜町	4	-	-	6	-	6	7	-	7	7	-	7	16	-	17
紀宝町	3	-	-	5	-	5	5	-	6	6	-	6	-	-	-

※沿岸で水位変動が発生するまでの最短の時間を、沿岸津波到達時間として予測しています。

※「-」は該当データがない（その高さの津波が到達しない）ことを示しています。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑥ 津波（沿岸津波到達時間）

【L1】過去最大クラス

(単位：分)

概観

北中部では地震発生後20分以内、南部では**5分以内**で沿岸に**30cmの津波**が到達すると予測しています。

南部では、**10分以内**で沿岸に**1mの津波**が到達すると予測しています。

特に、**尾鷲市**や**熊野市**においては**3分**で1mの津波が到達すると予測しています。

<留意事項>

県北部の海拔ゼロメートル地帯等、地盤の低い地域では、地震による地殻変動で地盤が沈降するほか、地震の揺れにより耐震性を持たない堤防が沈下し、低くなった堤防を津波が越えた場合に破堤することを想定しているため、津波の到達よりも早く、発災直後から海だけでなく川からの浸水が予測されます。

市町村名	基準とする津波の高さ														
	30cm			1m			3m			5m			10m		
	今回想定 (R7)	前回想定 (H25)	国想定 (R6)												
桑名市	17	-	-	94	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木曾岬町	19	-	-	94	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
四日市市	10	-	-	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
朝日町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川越町	14	-	-	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鈴鹿市	10	-	-	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
津市	11	-	-	62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
松阪市	4	-	-	59	-	-	131	-	-	-	-	-	-	-	-
明和町	21	-	-	54	-	-	56	-	-	-	-	-	-	-	-
伊勢市	15	-	-	30	-	-	39	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥羽市	6	-	-	11	-	-	14	-	-	17	-	-	-	-	-
志摩市	3	-	-	5	-	-	7	-	-	9	-	-	18	-	-
南伊勢町	5	-	-	7	-	-	9	-	-	12	-	-	-	-	-
大紀町	6	-	-	8	-	-	10	-	-	12	-	-	-	-	-
尾鷲市	3	-	-	3	-	-	6	-	-	8	-	-	-	-	-
紀北町	3	-	-	7	-	-	9	-	-	11	-	-	19	-	-
熊野市	3	-	-	3	-	-	6	-	-	7	-	-	16	-	-
御浜町	4	-	-	5	-	-	6	-	-	20	-	-	-	-	-
紀宝町	3	-	-	4	-	-	5	-	-	6	-	-	-	-	-

※沿岸で水位変動が発生するまでの最短の時間を、沿岸津波到達時間として予測しています。

※「-」は該当データがない（その高さの津波が到達しない）ことを示しています。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑦ 津波（津波浸水面積）

(単位：ha)

概観

理論上最大クラスでは、木曾岬町や川越町において、町の面積の6割以上が浸水すると予測しています。

< 留意事項 >

理論上最大クラスにおいて、県では海岸・河川堤防が地震の揺れにより損傷して機能しないものとしていますが、国では機能するものとしています。

国においては過去最大クラスを想定していません。

市町村名	【L2】理論上最大クラス						【L1】過去最大クラス						総面積 (ha)
	今回想定 (R7)		前回想定 (H25)		国想定 (R6)		今回想定 (R7)		前回想定 (H25)		国想定 (R6)		
	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	
桑名市	3,362	24.6%	3,404	24.9%	50	0.4%	1,907	14.0%	2,832	20.7%	-	-	13,665
木曾岬町	1,181	75.0%	1,207	76.7%	*	*	915	58.1%	1,202	76.4%	-	-	1,574
四日市市	1,960	9.5%	1,968	9.5%	670	3.2%	1,131	5.5%	1,350	6.5%	-	-	20,650
朝日町	136	22.7%	138	23.0%	*	*	98	16.3%	98	16.4%	-	-	599
川越町	528	60.5%	543	62.3%	100	11.5%	502	57.6%	519	59.6%	-	-	872
鈴鹿市	1,111	5.7%	1,170	6.0%	670	3.4%	576	3.0%	656	3.4%	-	-	19,446
津市	3,569	5.0%	3,651	5.1%	3,600	5.1%	2,577	3.6%	2,794	3.9%	-	-	71,118
松阪市	3,934	6.3%	4,009	6.4%	3,760	6.0%	3,345	5.4%	3,455	5.5%	-	-	62,358
明和町	1,418	34.5%	1,461	35.6%	1,440	35.1%	1,289	31.4%	1,347	32.8%	-	-	4,106
伊勢市	3,805	18.3%	3,875	18.6%	3,770	18.1%	3,618	17.4%	3,730	17.9%	-	-	20,837
鳥羽市	936	8.7%	887	8.3%	960	8.9%	817	7.6%	816	7.6%	-	-	10,734
志摩市	2,325	13.0%	2,343	13.1%	2,380	13.3%	1,769	9.9%	1,867	10.4%	-	-	17,893
南伊勢町	1,694	7.0%	1,728	7.1%	1,860	7.7%	1,136	4.7%	1,237	5.1%	-	-	24,189
大紀町	151	0.6%	151	0.6%	160	0.7%	111	0.5%	122	0.5%	-	-	23,332
尾鷲市	610	3.2%	684	3.5%	760	3.9%	481	2.5%	510	2.6%	-	-	19,271
紀北町	1,105	4.3%	1,079	4.2%	1,200	4.7%	789	3.1%	842	3.3%	-	-	25,655
熊野市	435	1.2%	418	1.1%	370	1.0%	220	0.6%	248	0.7%	-	-	37,335
御浜町	404	4.6%	400	4.5%	380	4.3%	150	1.7%	152	1.7%	-	-	8,813
紀宝町	198	2.5%	244	3.1%	240	3.0%	62	0.8%	56	0.7%	-	-	7,962
合計	28,860	7.4%	29,360	7.5%	22,320	5.7%	21,491	5.5%	23,832	6.1%	-	-	390,409

※河川等部分を除いた陸域部の浸水深1cm以上の範囲で、小数点以下第一位を四捨五入しています。

※「-」は該当データがないことを示し、「*」は10未満であることを示しています。

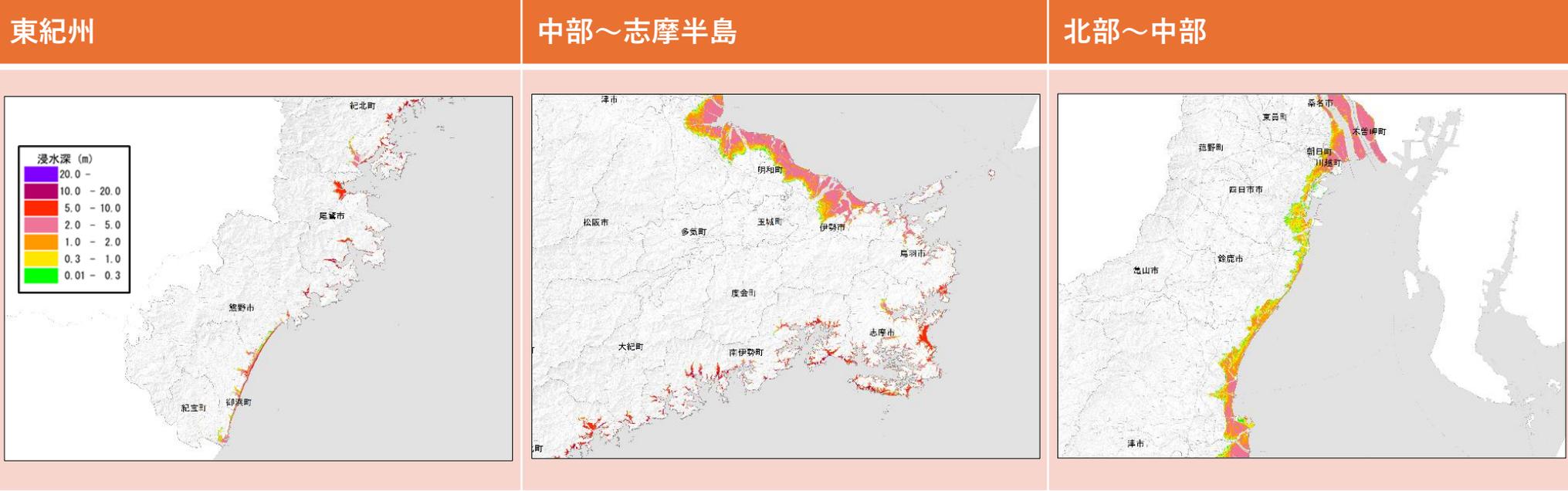
2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑧ 津波 (津波浸水深)

概観
県内沿岸地域の広い範囲で2 mを超える浸水が予測され、特に志摩半島から東紀州の一部地域では10メートルを超える浸水地域もあります。
地震の揺れにより耐震性を持たない堤防が沈下し、低くなった堤防を津波が越えた場合は破堤することとしているため、県内沿岸地域の広い範囲で浸水が予測されます。

<留意事項>
津波は河川を遡上することから、海岸から離れた地域でも浸水被害が発生します。
本被害想定では、小規模河川における津波遡上を反映していないため、浸水想定域外であっても、河川近くでは浸水が発生する可能性があります。
県北部の海拔ゼロメートル地帯等、地盤の低い地域では、地震による地殻変動で地盤が沈降するほか、地震の揺れにより耐震性を持たない堤防が沈下し、低くなった堤防を津波が越えた場合に破堤することを想定しているため、津波の到達よりも早く、発災直後から海だけでなく川からの浸水が予測されます。

【L2】 理論上最大クラス



2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑧ 津波 (津波浸水深)

概観

県内沿岸地域の広い範囲で2 mを超える浸水が発生し、特に志摩半島から東紀州の一部地域では10メートルを超える地域があると予測されます。

北部の海拔ゼロメートル地帯から伊勢湾沿岸にかけての広い範囲で津波浸水の可能性があります、**海岸・河川堤防の整備状況を反映**したことで、**前回想定よりも浸水域が減少**している地域があります。

【L1】 過去最大クラス

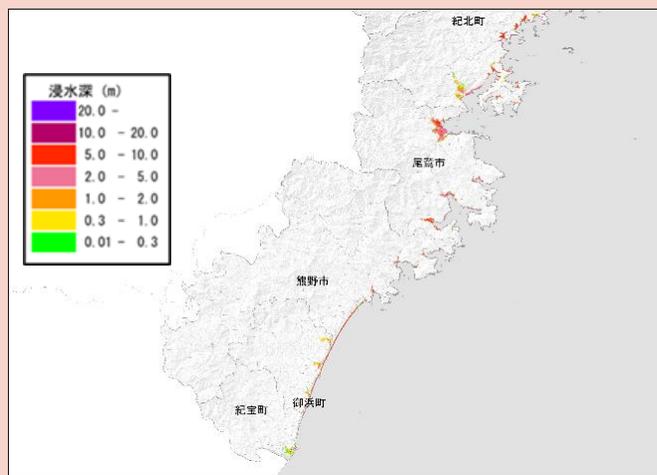
<留意事項>

津波は河川を遡上することから、海岸から離れた地域でも浸水被害が発生します。

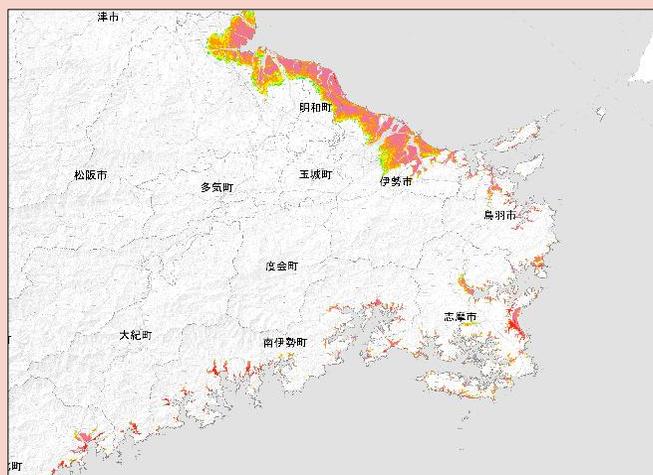
本被害想定では、小規模河川における津波遡上を反映していないため、浸水想定域外であっても、河川近くでは浸水が発生する可能性があります。

県北部の海拔ゼロメートル地帯等、地盤の低い地域では、地震による地殻変動で地盤が沈下するほか、地震の揺れにより耐震性を有しない堤防が沈下し、低くなった堤防を津波が越えた場合に破堤することを想定しているため、津波の到達よりも早く浸水が予測されます。

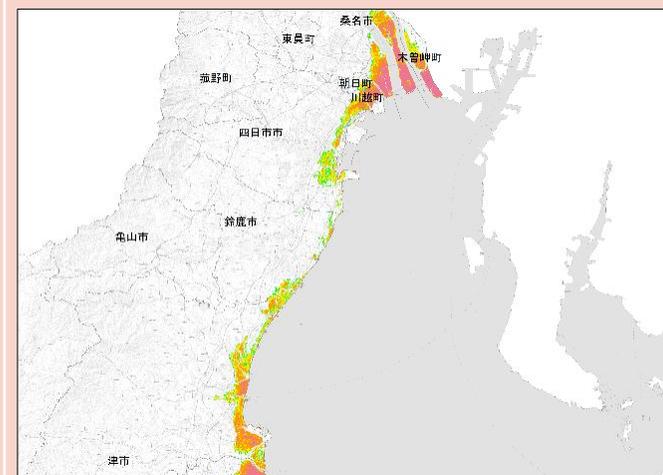
東紀州



中部～志摩半島



北部～中部



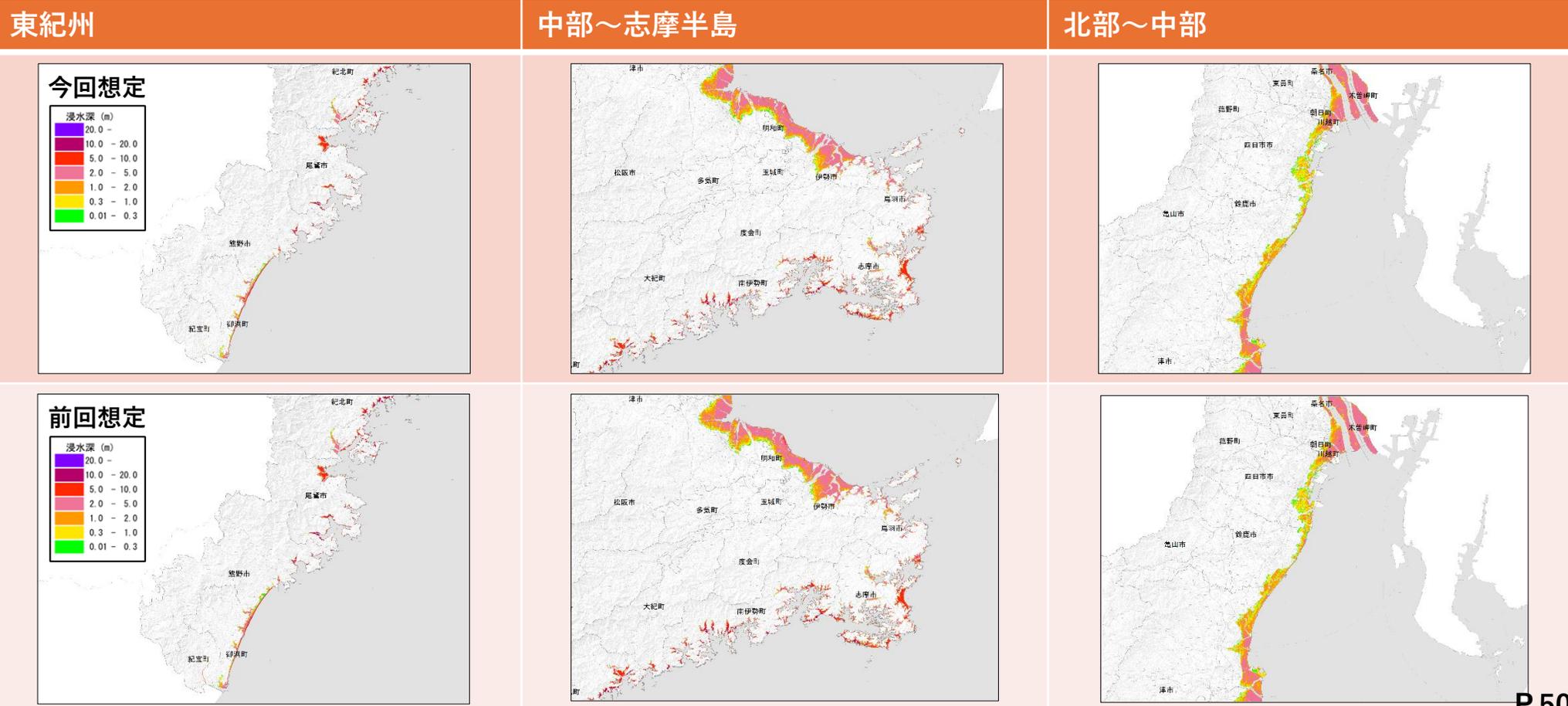
2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑧ 津波 (津波浸水深) <参考：前回想定結果との比較>

結果の比較

沿岸地域の広い範囲で浸水が想定されます。前回想定結果と大きな変化は見られません。

【L2】理論上最大クラス



2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

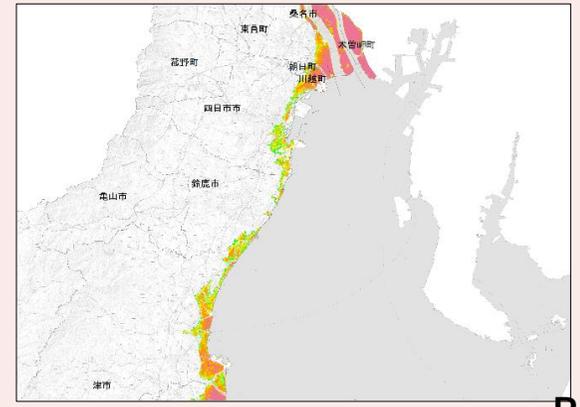
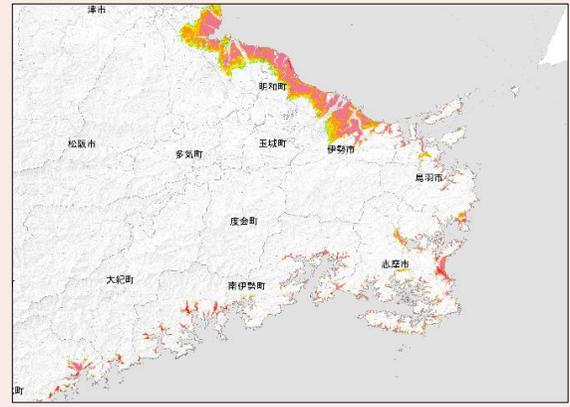
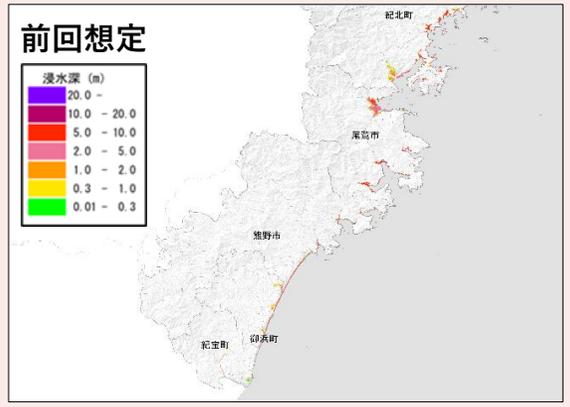
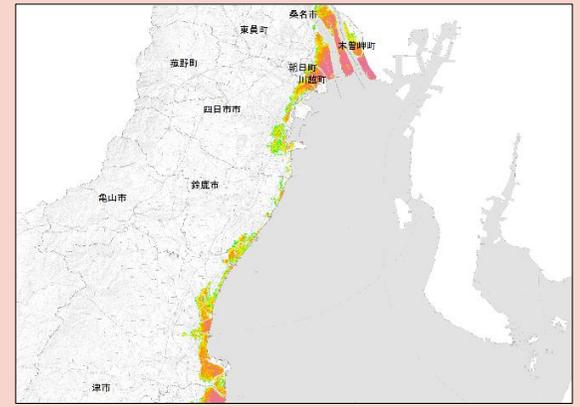
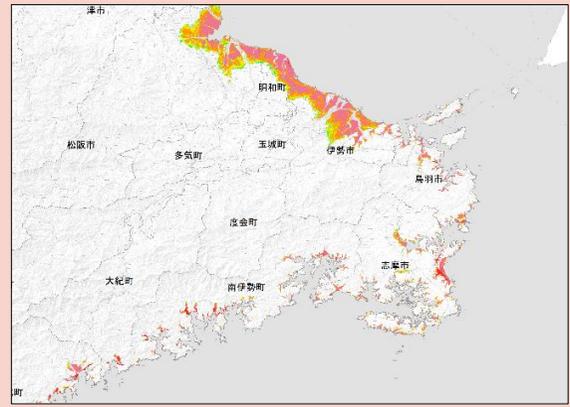
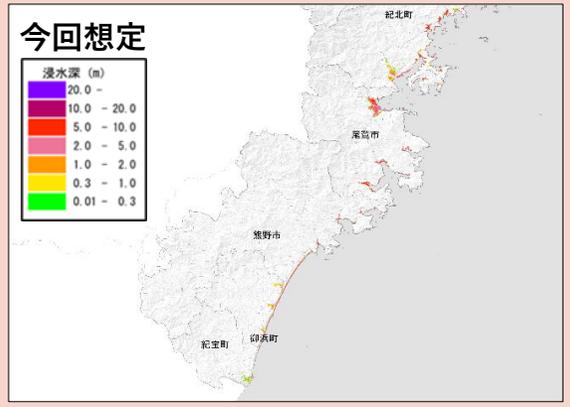
⑧ 津波 (津波浸水深) <参考：前回想定結果との比較>

結果の比較

沿岸地域の広い範囲で浸水を予測しています。海岸・河川堤防の整備状況を反映したことで、北部の海拔ゼロメートル地帯等で前回想定よりも浸水域が減少しています。

【L1】 過去最大クラス

東紀州 中部～志摩半島 北部～中部



2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑨ 津波 (津波浸水深到達時間) < 津波浸水深 : 1 cm >

概観

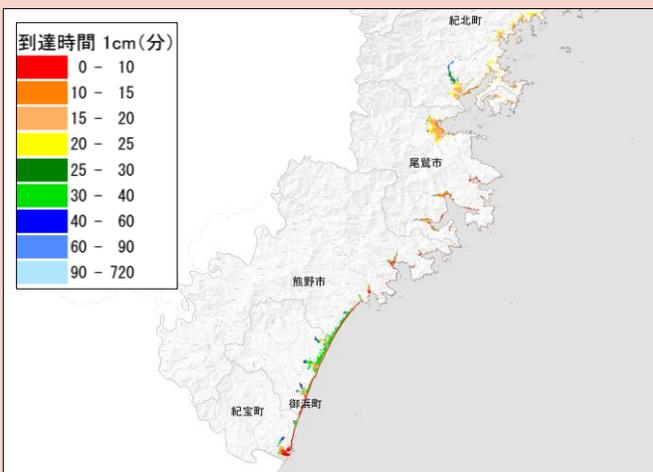
県内沿岸地域の広い範囲で、90分以内に1cmの津波浸水を予測しています。
北部の海拔ゼロメートル地帯や、志摩半島から東紀州地域においては、津波浸水深到達時間が短くなると予測しています。

< 留意事項 >

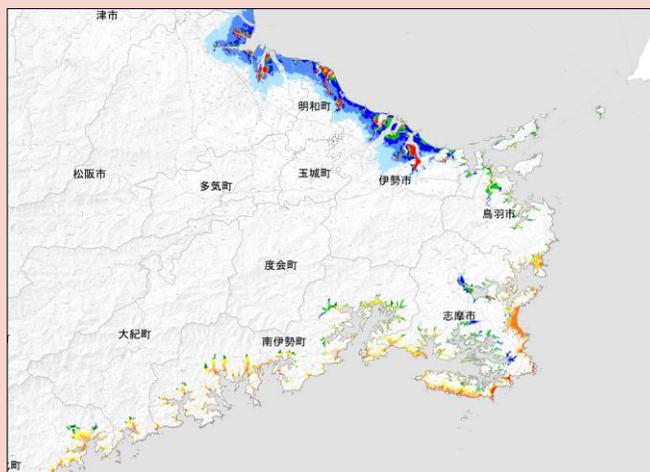
伊勢湾内の海拔ゼロメートル地帯等では、堤防が被災して機能しなくなることで、津波の到達よりも早く浸水が始まる可能性があります。

【L2】理論上最大クラス

東紀州



中部～志摩半島



北部～中部



※陸上で1cmの浸水が発生するまでの最短の時間を、津波浸水深到達時間として予測しています。

津波の浸水深が20cm～30cmになると、徒歩で避難できなくなる恐れがあります。
津波の浸水深は短時間で上昇するおそれがあるため、一刻も早く避難する必要があります。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑨ 津波 (津波浸水深到達時間) < 津波浸水深 : 1 cm >

概観

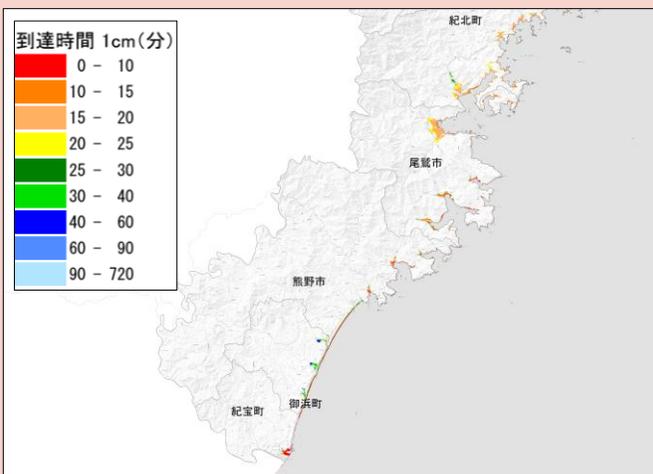
県内沿岸地域の広い範囲で、90分以内に1cmの津波浸水を予測しています。
北部の海拔ゼロメートル地帯では、30分以内に1cmの津波浸水を予測する地域が見られますが、**海岸・河川堤防の整備状況を反映**したことで、**理論上最大クラスと比較して、その範囲は小さく**なっています。

< 留意事項 >

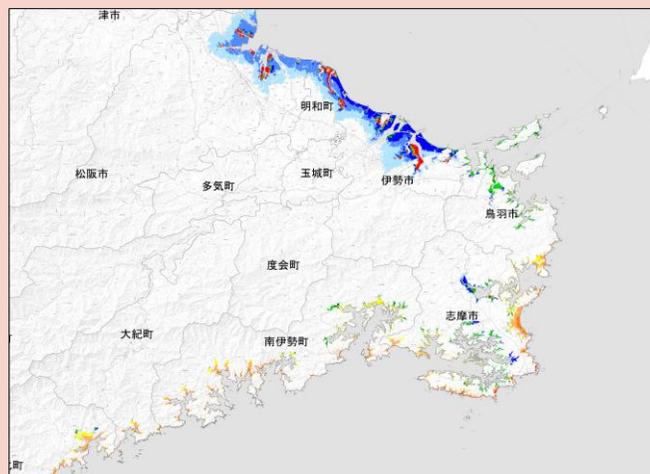
伊勢湾内の海拔ゼロメートル地帯等では、堤防が被災して機能しなくなることで、津波の到達よりも早く浸水が始まる可能性があります。

【L1】 過去最大クラス

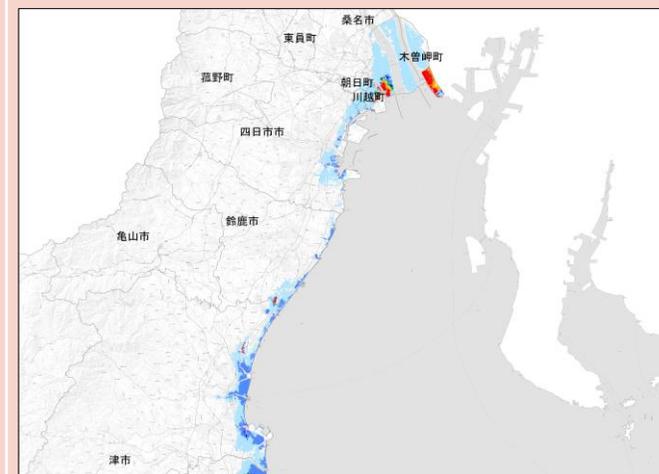
東紀州



中部～志摩半島



北部～中部



※陸上で1cmの浸水が発生するまでの最短の時間を、津波浸水深到達時間として予測しています。

津波の浸水深が20cm～30cmになると、徒歩で避難できなくなる恐れがあります。
津波の浸水深は短時間で上昇するおそれがあるため、一刻も早く避難する必要があります。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑨ 津波 (津波浸水深到達時間) < 津波浸水深 : 30cm >

概観

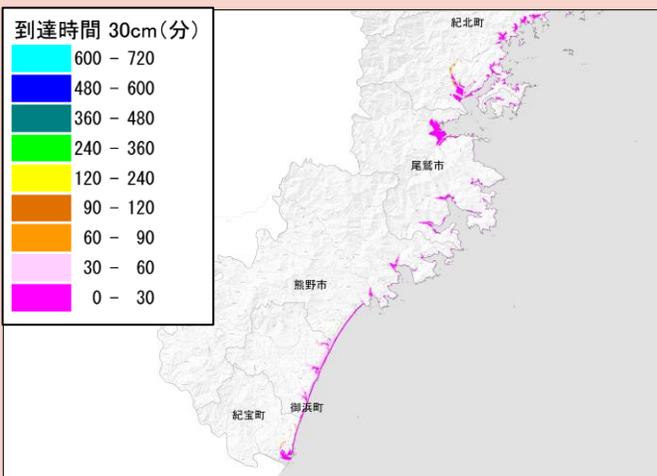
県内沿岸地域の広い範囲で、90分以内に30cmの津波浸水を予測しています。
北部の海拔ゼロメートル地帯や、志摩半島から東紀州地域においては、津波浸水深到達時間が短くなると予測しています。

< 留意事項 >

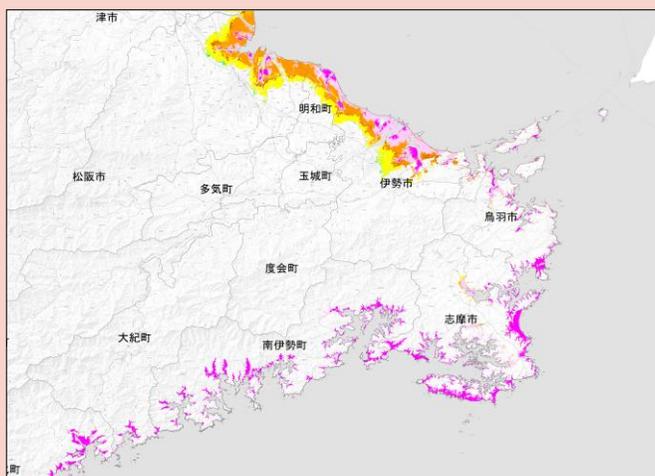
伊勢湾内の海拔ゼロメートル地帯等では、堤防が被災して機能しなくなることで、津波の到達よりも早く浸水が始まる可能性があります。

【L2】理論上最大クラス

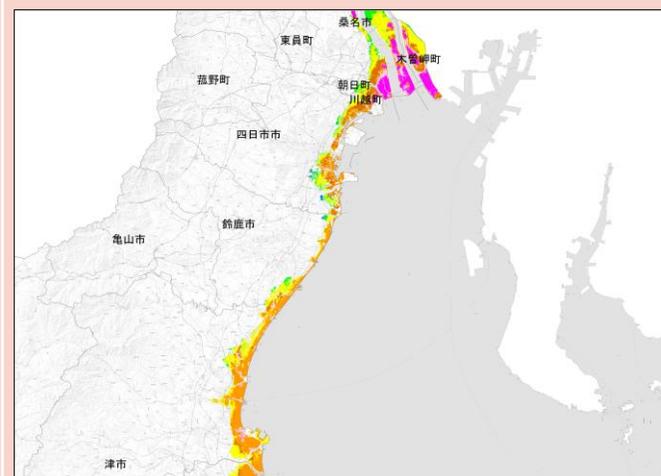
東紀州



中部～志摩半島



北部～中部



津波の浸水深が20cm～30cmになると、徒歩で避難できなくなる恐れがあります。
津波の浸水深は短時間で上昇するおそれがあるため、一刻も早く避難する必要があります。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑨ 津波 (津波浸水深到達時間) < 津波浸水深 : 30cm >

概観

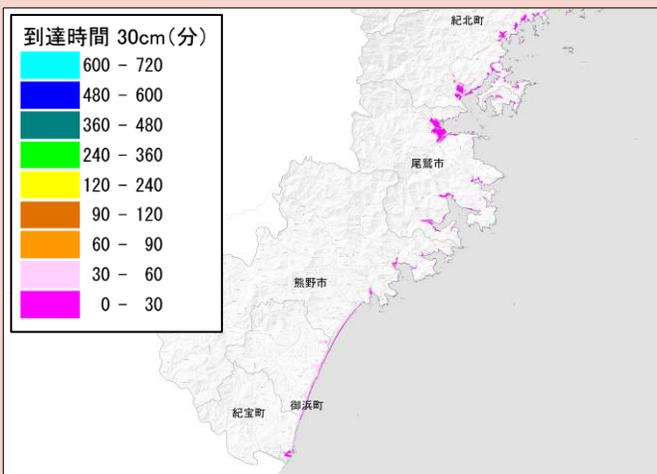
県内沿岸地域の広い範囲で、90分以内に30cmの津波浸水を予測しています。
北部の海拔ゼロメートル地帯では、30分以内に30cmの津波浸水を予測する地域が見られますが、**海岸・河川堤防の整備状況を反映**したことで、**理論上最大クラスと比較して、その範囲は小さく**なっています。

< 留意事項 >

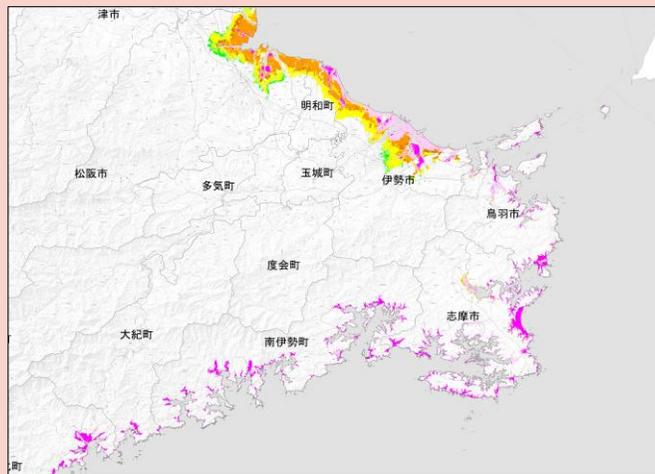
伊勢湾内の海拔ゼロメートル地帯等では、堤防が被災して機能しなくなることで、津波の到達よりも早く浸水が始まる可能性があります。

【L1】 過去最大クラス

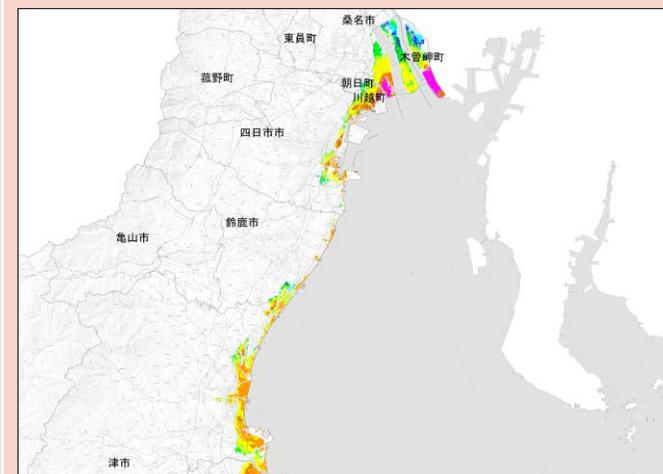
東紀州



中部～志摩半島



北部～中部



津波の浸水深が20cm～30cmになると、徒歩で避難できなくなる恐れがあります。
津波の浸水深は短時間で上昇するおそれがあるため、一刻も早く避難する必要があります。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑩ 津波 (津波浸水継続区域)

概観

県内沿岸地域の広い範囲で、最大浸水深と比較して小さくなるものの、**発災後12時間経過しても津波の浸水は解消されない**ものと予測しています。

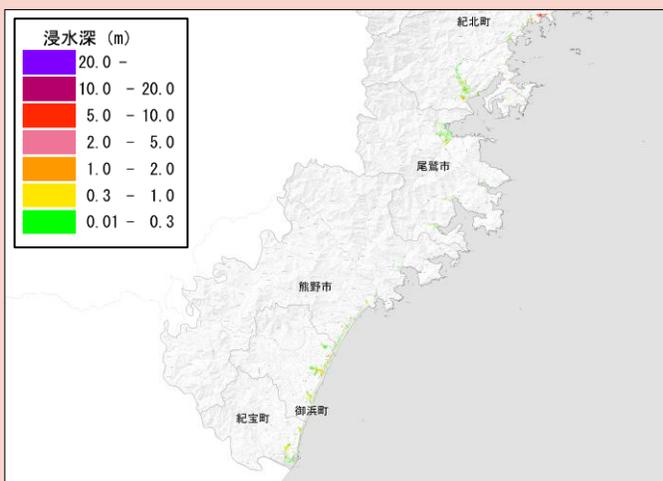
特に、**北部の海拔ゼロメートル地帯から伊勢湾沿岸**では、**2メートル以上の浸水が継続**する地域が見られます。

< 留意事項 >

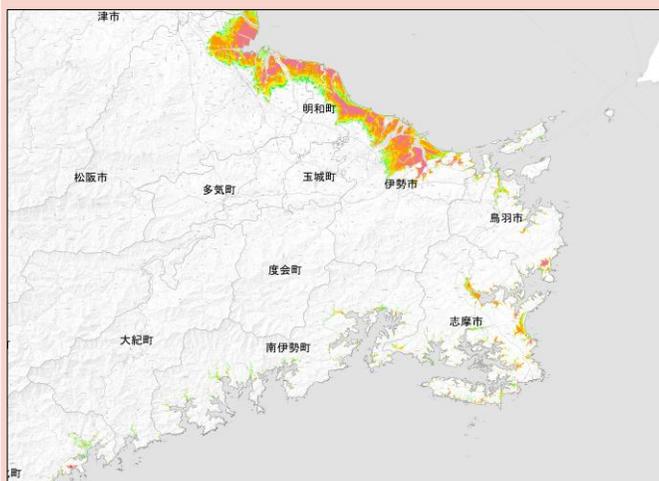
地震の揺れと津波により堤防が機能しなくなった場合、地盤の低い地域では堤防機能が復旧するまでの間、周辺の海や川から浸水が継続すると考えられます。

【L2】理論上最大クラス

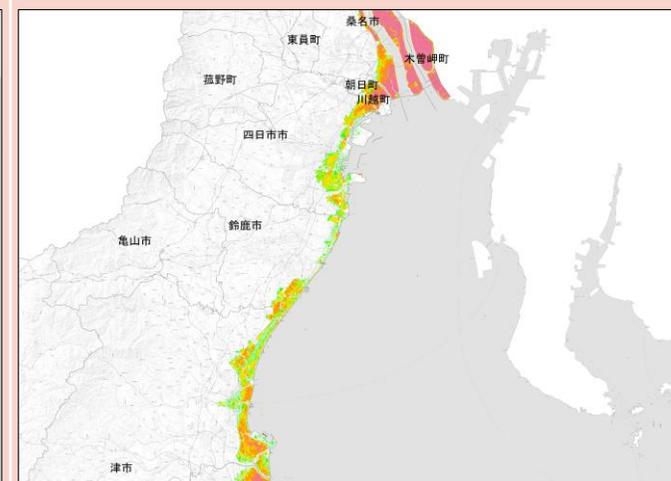
東紀州



中部～志摩半島



北部～中部



※発災後12時間を津波が収束する時間の目安として設定し、浸水が解消されない地域を予測しました。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑩ 津波 (津波浸水継続区域)

概観

県内沿岸地域の広い範囲で、最大浸水深と比較して小さくなるものの、**発災後12時間経過しても津波の浸水は解消されない**ものと予測しています。

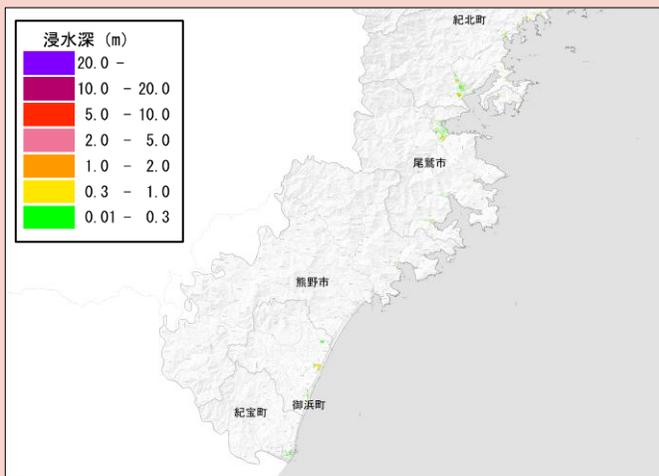
特に、**北部の海拔ゼロメートル地帯から伊勢湾沿岸**では、【L2】理論上最大クラスと比べ浸水深は小さくなるものの、**2メートル以上の浸水が継続**する地域が見られます。

<留意事項>

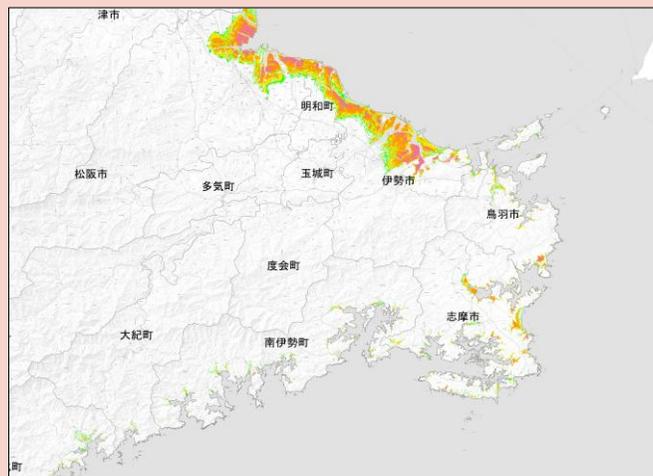
地震の揺れと津波により堤防が機能しなくなった場合、地盤の低い地域では堤防機能が復旧するまでの間、周辺の海や川から浸水が継続すると考えられます。

【L1】過去最大クラス

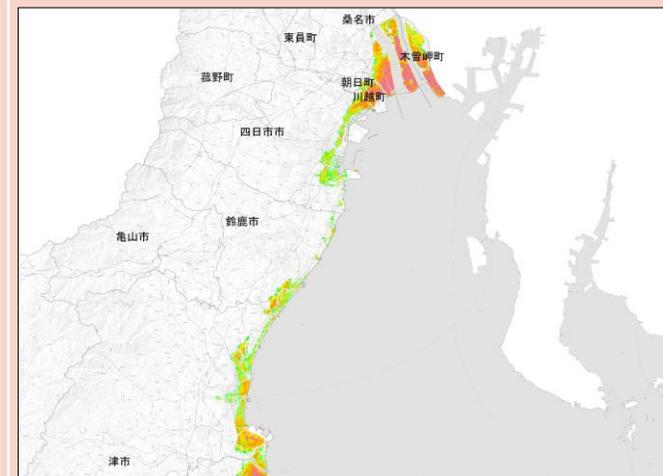
東紀州



中部～志摩半島



北部～中部



※発災後12時間を津波が収束する時間の目安として設定し、浸水が解消されない地域を予測しました。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

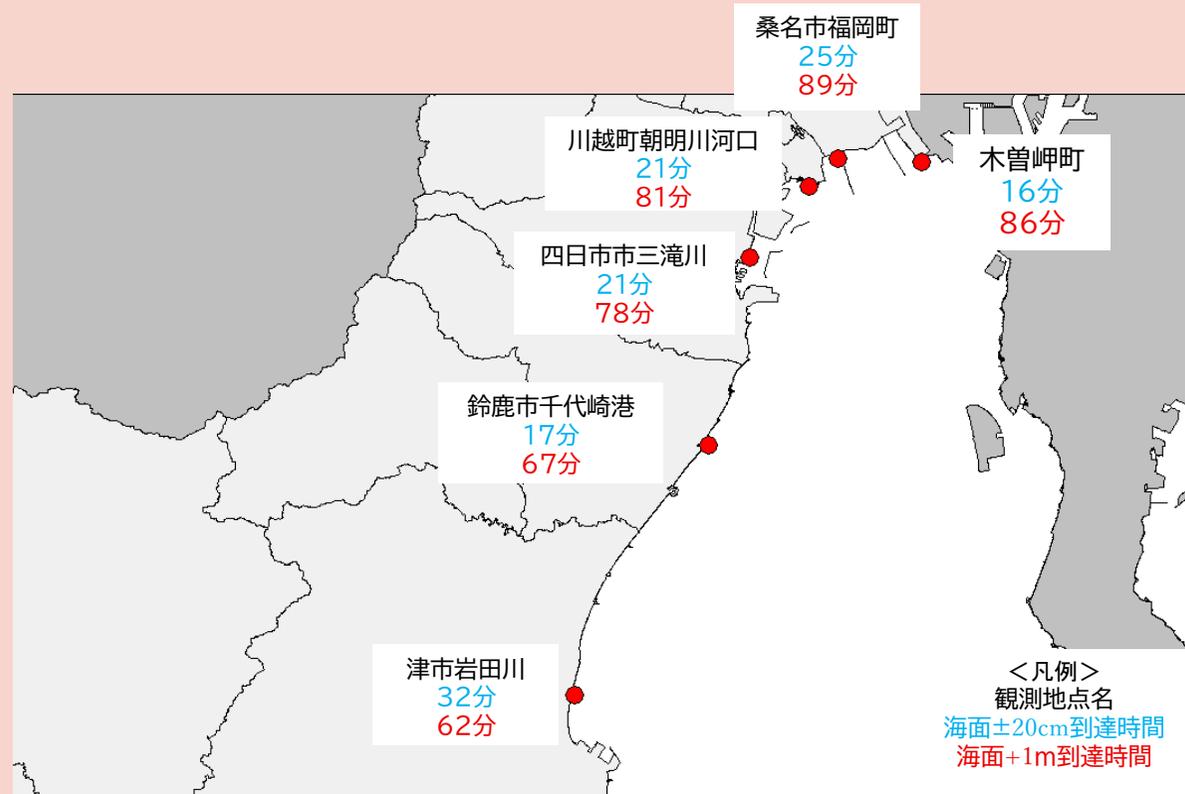
⑪ 津波 (海域の津波影響開始時間)

概観

県北中部では、地震発生から概ね20分程度で津波による20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

【L2】理論上最大クラス

北部～中部



※気象庁が発表する津波注意報の発表基準の下限である20cmと、巻き込まれた場合にほとんどの人が亡くなる可能性がある1mの高さを基準に予測しました。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑪ 津波 (海域の津波影響開始時間)

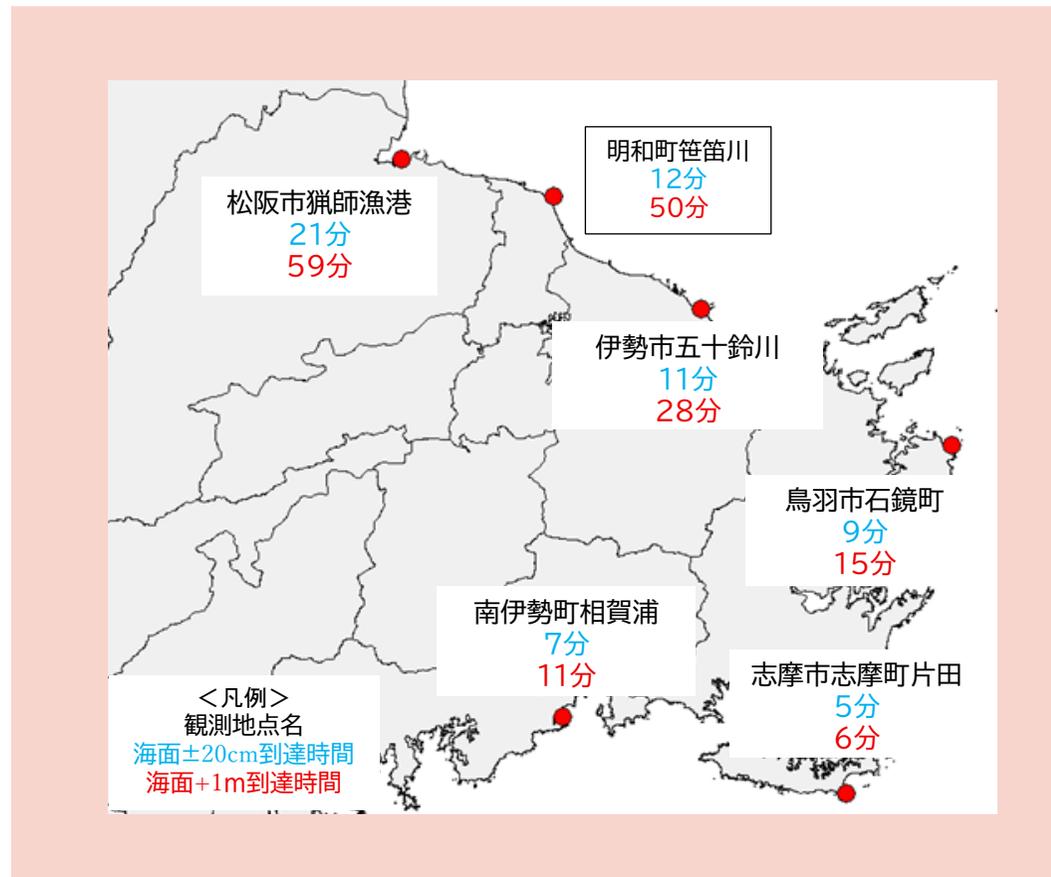
概観

伊勢志摩地域では、地震発生から10分以内で津波による20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

特に、志摩市では地震発生から5分で20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

【L2】理論上最大クラス

中部～志摩半島



※気象庁が発表する津波注意報の発表基準の下限である20cmと、巻き込まれた場合にほとんどの人が亡くなる可能性がある1mの高さを基準に予測しました。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑪ 津波 (海域の津波影響開始時間)

概観

東紀州地域では、地震発生から10分以内で津波による20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

特に、御浜町や紀宝町では5分で津波による20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

【L2】理論上最大クラス

東紀州



※気象庁が発表する津波注意報の発表基準の下限である20cmと、巻き込まれた場合にほとんどの人が亡くなる可能性がある1mの高さを基準に予測しました。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

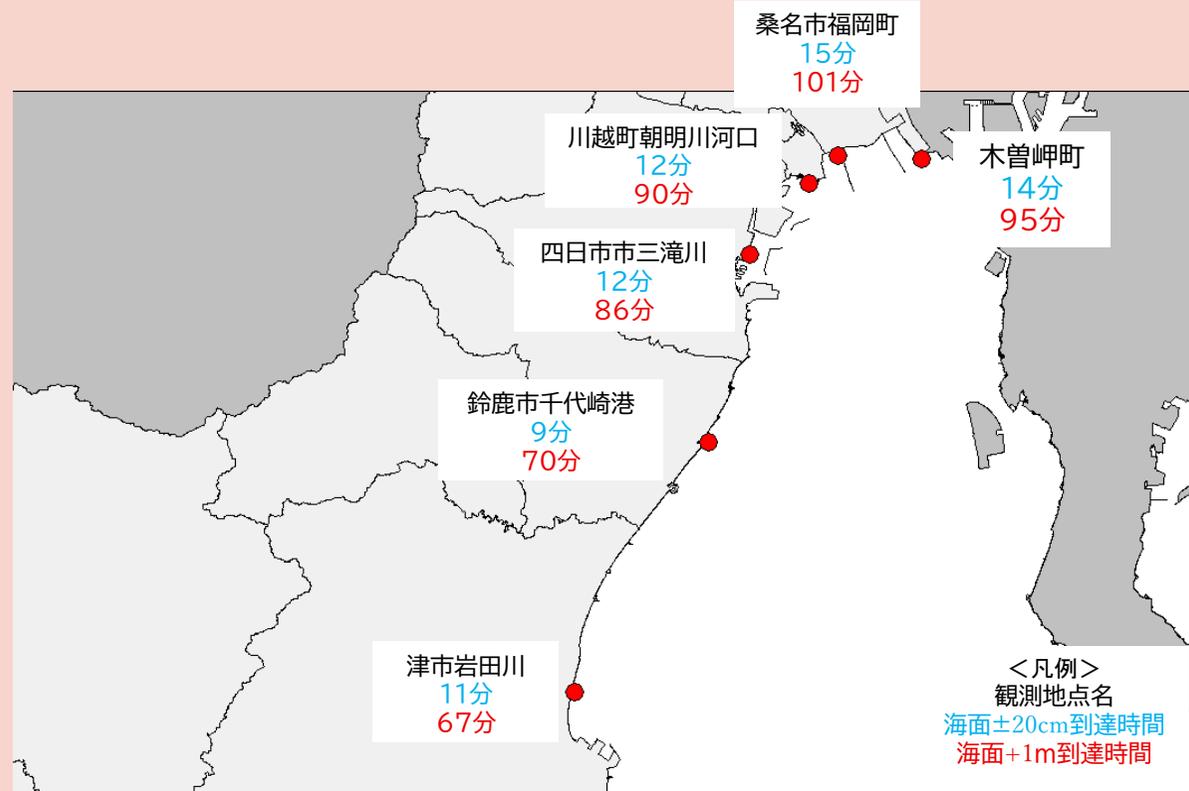
⑪ 津波 (海域の津波影響開始時間)

概観

県北中部では、地震発生から約10分で津波による20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

【L1】過去最大クラス

北部～中部



※気象庁が発表する津波注意報の発表基準の下限である20cmと、巻き込まれた場合にほとんどの人が亡くなる可能性がある1mの高さを基準に予測しました。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

⑪ 津波 (海域の津波影響開始時間)

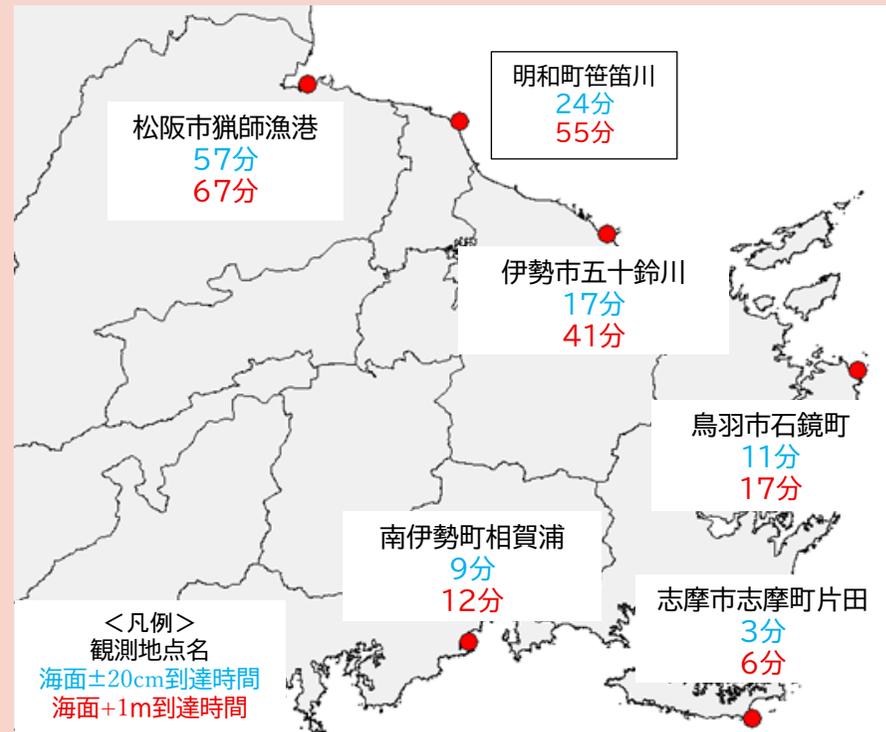
概観

伊勢志摩地域では、地震発生から10分以内で津波による20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

特に、志摩市では地震発生から3分で20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

【L1】過去最大クラス

中部～志摩半島



※気象庁が発表する津波注意報の発表基準の下限である20cmと、巻き込まれた場合にほとんどの人が亡くなる可能性がある1mの高さを基準に予測しました。

2. ハザード評価 (3) ハザード評価結果

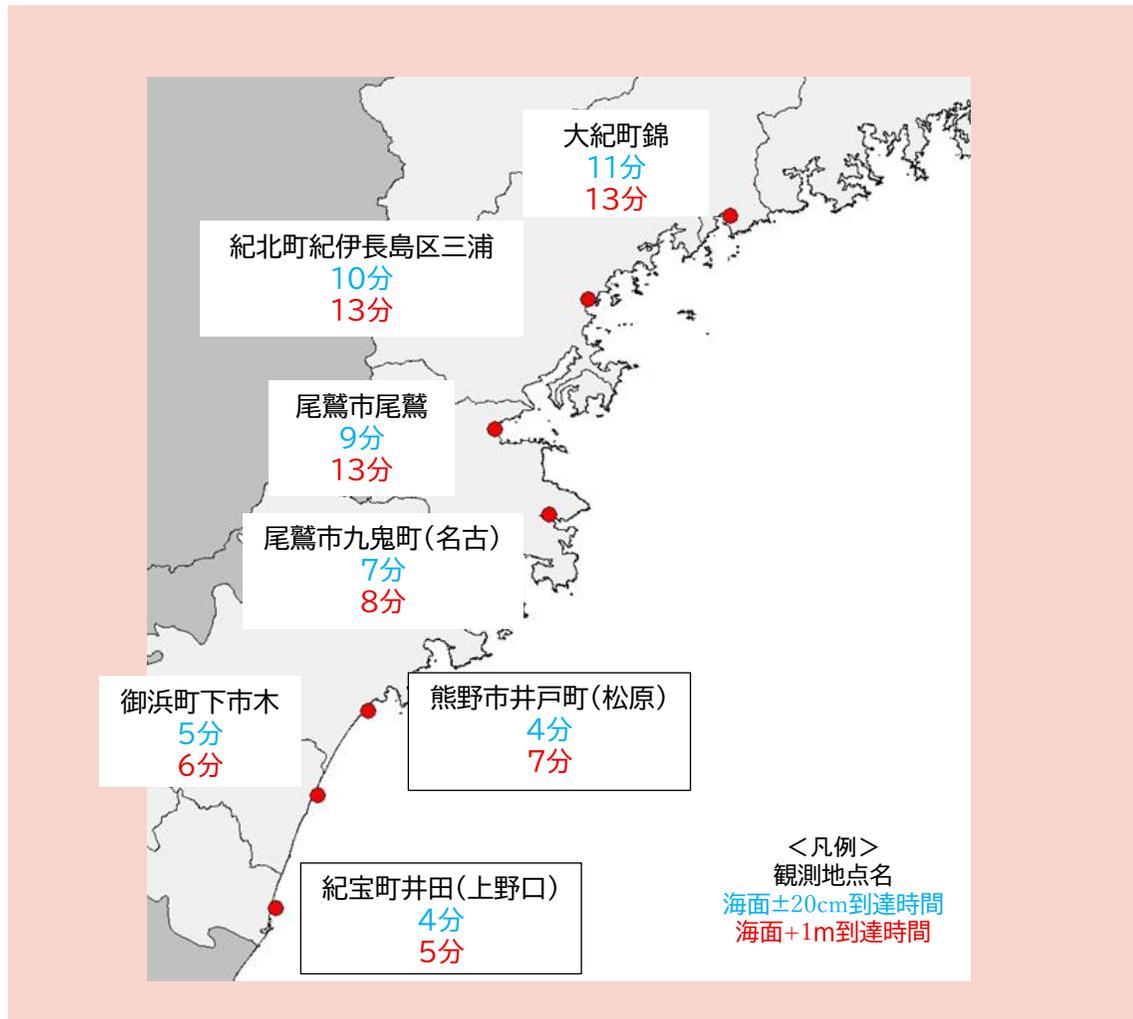
⑪ 津波 (海域の津波影響開始時間)

概観

東紀州地域では、発災から5分以内で津波による20cm程度の潮位変化が始まると予測しています。

【L1】 過去最大クラス

東紀州



※気象庁が発表する津波注意報の発表基準の下限である20cmと、巻き込まれた場合にほとんどの人が亡くなる可能性がある1mの高さを基準に予測しました。

3. リスク評価 (1) リスク評価項目の一覧

分類	番号	リスク評価項目	主な推計・予測内容	分類	番号	被害想定項目	主な推計・予測内容
人的被害リスク	1	人的被害	死者数、重傷者数	物的被害リスク	22	危険物施設被害 新	危険物施設被害予測
	2	災害関連死 新	災害関連死者数推計		23	ため池被害 新	ため池の被災リスク予測
	3	避難者	避難者数推計		24	文化財 新	文化財の被災リスク予測
	4	要配慮者 新	要配慮者数推計		25	沿岸部の津波固有被害 新	太陽光発電設備等、津波浸水による様々なリスクを予測
	5	帰宅困難者	帰宅困難者数推計		26	災害廃棄物	災害廃棄物発生量推計、仮置場必要面積推計
	6	避難所 新	避難所対応力推計		27	一般廃棄物	一般廃棄物量推計
	7	避難ペット 新	避難者と一緒に避難するペット数推計		28	孤立地域	孤立可能性のある集落数推計
	8	医療機能支障	医療対応力不足数推計		29	住機能支障	仮設住宅必要戸数推計
	9	福祉機能支障 新	介護施設等収容力不足数推計		30	教育機能支障 新	学校の被災リスク予測
	10	し尿処理機能支障 新	仮設トイレ必要数推計		31	生業被害 新	各種産業の被災リスク予測
	11	保健衛生・防疫機能支障 新	保健衛生・防疫面のリスク		32	経済被害	直接経済被害額推計
	12	火葬機能支障 新	火葬場の被災・機能支障リスク		33	物資 新	災害時に必要な物資需要量推計
	13	エレベータ閉じ込め 新	エレベータ閉じ込め者数		34	災害対策所要人員・資機材	災害対応に必要なとなる人員等推計
物的被害リスク	14	建物被害	全壊棟数、半壊棟数	行政対応上のリスク	35	災害対策所要経費 新	災害対応に必要なとなる経費推計
	15	火災被害	炎上出火件数、津波火災件数				
	16	ライフライン（電力）	停電軒数推計、停電率推計				
	17	ライフライン（上水道・工業用水）	断水人口推計、断水率推計				
	18	ライフライン（下水道）	下水道機能支障人口推計				
	19	ライフライン（ガス）	供給停止戸数推計				
	20	ライフライン（通信）	不通回線数推計				
	21	交通施設被害	緊急輸送道路・港湾（漁港）・ヘリポート等の被害予測及び復旧見込期間予測				

< 定量評価と定性評価 >

リスク評価には、客観的な数値で評価する「定量評価」と、数値による評価が難しい質的な内容を文章で表す「定性評価」の2つがあります。

今回の被害想定では、原則として、客観的な数値による定量評価を行うこととしつつ、定性評価をあわせて行うことで、被害の状況を網羅的かつ分かりやすく理解していただけるよう作成しています。

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

目的

建物の耐震化や津波からの早期避難など命を守る対策を進めるため、地震による死者数の被害規模を要因別に推計しています。また、医療・福祉・救助の検討など、助かった命をつなぐための対策を検討するため、重傷者数・軽傷者数・要救助者数などの項目について推計しています。

定量評価項目

人的被害

死者数（要因別）

重傷者数（要因別）

軽傷者数（要因別）

建物倒壊等による自力脱出困難者数

津波被害による要救助者数

津波被害による要搜索者数

要因

建物倒壊*等

津波

急傾斜地崩壊等

火災

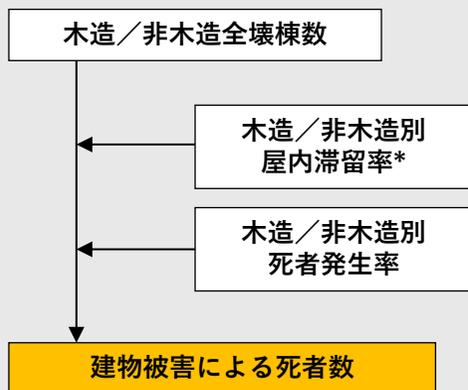
ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

推計手法

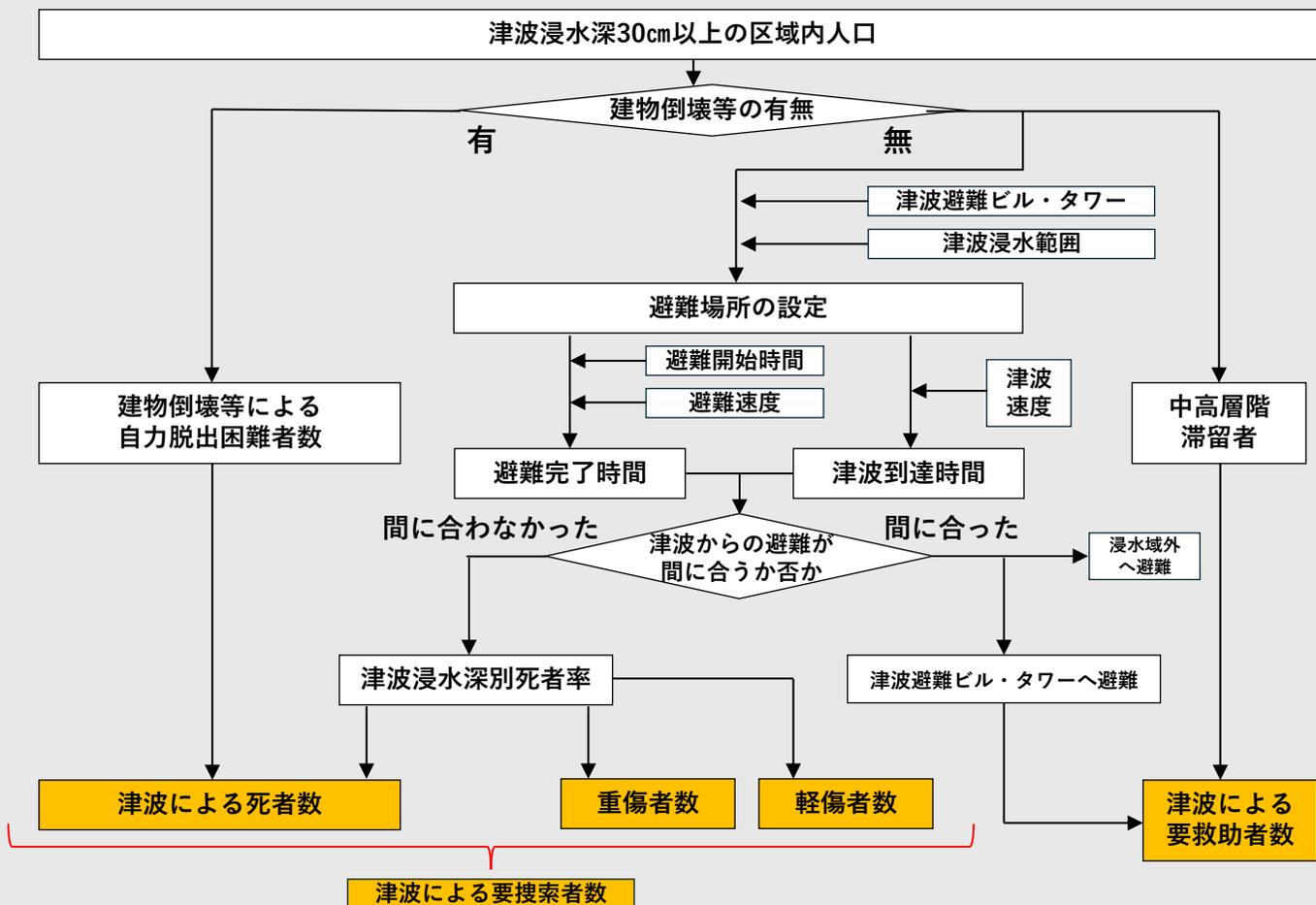
建物倒壊による死者数

- ・木造／非木造別の全壊建物棟数に、屋内滞留率と死者発生率を乗じて算出している。



津波による死者数

- ・浸水深30cm以上の人口のうち、建物倒壊等が生じる場合は自力脱出困難となる者が死者となる。
- ・建物倒壊が生じない場合、津波到達時間と避難完了時間を比較することで、津波に巻き込まれて死亡する人数を算出している。



3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

死者数【L2】

概観

死者数は県全体で約50,000人と推計され、そのうち津波による死者が約41,000人で全体の8割以上を占めています。

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果								
		建物倒壊等		津波			急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計
		(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	(うち自力脱出困難)	(うち津波からの逃げ遅れ)						
北勢	桑名市	約 200	約 20	約 2,900	約 100	約 2,800	-	-	-	約 3,200
	いなべ市	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20
	木曽岬町	約 30	-	約 500	約 40	約 500	-	-	-	約 500
	東員町	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20
	四日市市	約 1,000	約 70	約 500	約 100	約 400	約 30	約 40	-	約 1,600
	菰野町	約 60	-	-	-	-	-	-	-	約 60
	朝日町	約 20	-	約 10	約 10	-	-	-	-	約 40
	川越町	約 30	-	約 600	約 90	約 500	-	-	-	約 600
	鈴鹿市	約 400	約 30	約 500	約 90	約 400	-	約 40	-	約 900
亀山市	約 40	-	-	-	-	-	-	-	約 40	
中勢	津市	約 1,100	約 60	約 3,400	約 400	約 2,900	約 20	約 50	-	約 4,500
	松阪市	約 1,100	約 80	約 2,000	約 300	約 1,700	約 10	約 40	-	約 3,200
	多気町	約 200	約 10	-	-	-	-	-	-	約 200
	明和町	約 300	約 10	約 400	約 70	約 300	-	約 10	-	約 700
	大台町	約 90	-	-	-	-	-	-	-	約 90
伊賀	伊賀市	約 40	-	-	-	-	約 10	-	-	約 50
	名張市	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20
伊勢志摩	伊勢市	約 1,300	約 100	約 4,900	約 900	約 4,000	約 10	約 80	-	約 6,300
	鳥羽市	約 200	約 10	約 1,000	約 50	約 1,000	約 10	-	-	約 1,200
	志摩市	約 600	約 20	約 4,000	約 100	約 3,900	約 10	約 20	-	約 4,600
	玉城町	約 100	約 10	-	-	-	-	約 10	-	約 200
	南伊勢町	約 300	約 10	約 4,100	約 90	約 4,000	約 50	-	-	約 4,400
	大紀町	約 70	-	約 1,000	約 10	約 1,000	約 10	-	-	約 1,100
東紀州	度会町	約 70	-	-	-	-	-	-	-	約 70
	尾鷲市	約 300	約 10	約 4,900	約 90	約 4,800	約 20	約 10	-	約 5,200
	紀北町	約 300	約 10	約 8,100	約 100	約 8,000	約 30	-	-	約 8,400
	熊野市	約 200	約 10	約 800	約 20	約 700	約 20	-	-	約 1,000
	御浜町	約 100	-	約 400	約 10	約 400	-	-	-	約 500
紀宝町	約 60	-	約 900	約 10	約 900	-	-	-	約 1,000	
県計		約 8,300	約 500	約 41,000	約 2,700	約 38,000	約 200	約 300	-	約 50,000

「-」:わずか(5未満)

地震動:陸側

津波:ケース⑥

時期:冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率*低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

死者数【L1】

- 【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

概観

死者数は県全体で約29,000人と推計され、そのうち津波による死者が約28,000人で死者数の大半を占めています。

地域区分	市町名	今回想定結果							合計	
		建物倒壊等		津波			急傾斜地崩壊等	火災		ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物
		(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		(うち自力脱出困難)	(うち津波からの逃げ遅れ)					
北勢	桑名市	約 20	-	約 400	約 10	約 400	-	-	-	約 400
	いなべ市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	木曾岬町	-	-	約 10	-	約 10	-	-	-	約 10
	東員町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	四日市市	約 70	約 10	約 100	-	約 100	-	-	-	約 200
	菟野町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	朝日町	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	川越町	-	-	約 200	約 10	約 200	-	-	-	約 200
	鈴鹿市	約 30	-	約 100	-	約 100	-	-	-	約 200
亀山市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中勢	津市	約 80	約 10	約 1,400	約 20	約 1,400	約 10	-	-	約 1,500
	松阪市	約 80	約 10	約 800	約 20	約 700	約 10	-	-	約 800
	多気町	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20
	明和町	約 20	-	約 300	約 10	約 200	-	-	-	約 300
	大台町	約 10	-	-	-	-	-	-	-	約 10
伊賀	伊賀市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	名張市	-	-	-	-	-	約 10	-	-	約 10
伊勢志摩	伊勢市	約 100	約 10	約 2,300	約 80	約 2,200	約 10	-	-	約 2,400
	鳥羽市	約 30	-	約 900	約 10	約 900	約 10	-	-	約 1,000
	志摩市	約 100	-	約 2,400	約 20	約 2,400	約 10	-	-	約 2,500
	玉城町	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20
	南伊勢町	約 90	-	約 4,000	約 20	約 4,000	約 40	-	-	約 4,200
	大紀町	約 10	-	約 1,200	-	約 1,200	約 10	-	-	約 1,300
	度会町	約 10	-	-	-	-	-	-	-	約 10
東紀州	尾鷲市	約 20	-	約 4,800	-	約 4,800	約 20	-	-	約 4,900
	紀北町	約 80	-	約 7,900	約 20	約 7,900	約 30	-	-	約 8,000
	熊野市	約 30	-	約 400	-	約 400	約 20	-	-	約 500
	御浜町	約 30	-	約 20	-	約 20	-	-	-	約 50
	紀宝町	約 50	-	約 200	-	約 200	-	-	-	約 200
県計	約 900	約 60	約 28,000	約 200	約 27,000	約 200	-	-	約 29,000	

「-」：わずか（5未満）
 時期：冬・深夜
 ※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。
 ※早期避難率低い場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

死者数【L2】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果									前回想定結果								
		建物倒壊等		津波			急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計	建物倒壊等		津波			急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計
		(うち屋内 収容物移 動・転倒、 屋内落下 物)	約	(うち自力 脱出困難)	(うち津波 からの逃げ 遅れ)	約					約	(うち屋内 収容物移 動・転倒、 屋内落下 物)	約	(うち自力 脱出困難)	(うち津波 からの逃げ 遅れ)				
北勢	桑名市	約 200	約 20	約 2,900	約 100	約 2,800	-	-	-	約 3,200	約 300	約 20	約 1,600	約 200	約 1,400	-	-	-	約 1,900
	いなべ市	約 20	-	-	-	-	-	-	約 20	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20	
	木曽岬町	約 30	-	約 500	約 40	約 500	-	-	約 500	約 30	-	約 400	約 60	約 300	-	-	-	約 400	
	東員町	約 20	-	-	-	-	-	-	約 20	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20	
	四日市市	約 1,000	約 70	約 500	約 100	約 400	約 30	約 40	約 1,600	約 1,000	約 60	約 800	約 300	約 500	-	約 300	-	約 2,100	
	菰野町	約 60	-	-	-	-	-	-	約 60	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20	
	朝日町	約 20	-	約 10	約 10	-	-	-	約 40	約 20	-	約 10	約 10	-	-	-	-	約 30	
	川越町	約 30	-	約 600	約 90	約 500	-	-	約 600	約 40	-	約 300	約 100	約 200	-	-	-	約 400	
	鈴鹿市	約 400	約 30	約 500	約 90	約 400	-	約 40	約 900	約 500	約 30	約 600	約 100	約 400	-	約 10	-	約 1,100	
亀山市	約 40	-	-	-	-	-	-	約 40	約 70	-	-	-	-	-	-	-	約 80		
中勢	津市	約 1,100	約 60	約 3,400	約 400	約 2,900	約 20	約 50	約 4,500	約 1,100	約 60	約 4,000	約 900	約 3,200	約 10	約 100	-	約 5,200	
	松阪市	約 1,100	約 80	約 2,000	約 300	約 1,700	約 10	約 40	約 3,200	約 1,300	約 80	約 1,900	約 400	約 1,500	-	約 200	-	約 3,400	
	多気町	約 200	約 10	-	-	-	-	-	約 200	約 100	約 10	-	-	-	-	-	-	約 100	
	明和町	約 300	約 10	約 400	約 70	約 300	-	約 10	約 700	約 300	約 10	約 600	約 100	約 500	-	約 20	-	約 900	
	大台町	約 90	-	-	-	-	-	-	約 90	約 100	-	-	-	-	-	-	-	約 100	
伊賀	伊賀市	約 40	-	-	-	-	約 10	-	約 50	約 70	-	-	-	-	-	-	-	約 70	
	名張市	約 20	-	-	-	-	-	-	約 20	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20	
伊勢志摩	伊勢市	約 1,300	約 100	約 4,900	約 900	約 4,000	約 10	約 80	約 6,300	約 1,700	約 100	約 5,000	約 1,700	約 3,300	約 10	約 200	-	約 7,000	
	鳥羽市	約 200	約 10	約 1,000	約 50	約 1,000	約 10	-	約 1,200	約 300	約 10	約 700	約 200	約 500	約 10	-	-	約 900	
	志摩市	約 600	約 20	約 4,000	約 100	約 3,900	約 10	約 20	約 4,600	約 1,000	約 40	約 5,900	約 400	約 5,500	約 10	約 10	-	約 6,900	
	玉城町	約 100	約 10	-	-	-	-	約 10	約 200	約 200	約 10	-	-	-	-	-	-	約 200	
	南伊勢町	約 300	約 10	約 4,100	約 90	約 4,000	約 50	-	約 4,400	約 300	約 10	約 3,700	約 200	約 3,400	約 10	-	-	約 4,000	
	大紀町	約 70	-	約 1,000	約 10	約 1,000	約 10	-	約 1,100	約 100	-	約 1,100	約 20	約 1,100	-	-	-	約 1,200	
	度会町	約 70	-	-	-	-	-	-	約 70	約 90	約 10	-	-	-	-	-	-	約 100	
東紀州	尾鷲市	約 300	約 10	約 4,900	約 90	約 4,800	約 20	約 10	約 5,200	約 400	約 20	約 5,900	約 300	約 5,700	約 10	約 20	-	約 6,400	
	紀北町	約 300	約 10	約 8,100	約 100	約 8,000	約 30	-	約 8,400	約 300	約 10	約 7,800	約 300	約 7,500	約 10	-	-	約 8,100	
	熊野市	約 200	約 10	約 800	約 20	約 700	約 20	-	約 1,000	約 300	約 10	約 700	約 50	約 700	約 10	-	-	約 1,000	
	御浜町	約 100	-	約 400	約 10	約 400	-	-	約 500	約 200	約 10	約 400	約 20	約 400	-	-	-	約 600	
	紀宝町	約 60	-	約 900	約 10	約 900	-	-	約 1,000	約 70	-	約 900	約 10	約 900	-	-	-	約 1,000	
県計	約 8,300	約 500	約 41,000	約 2,700	約 38,000	約 200	約 300	-	約 50,000	約 9,700	約 500	約 42,000	約 5,400	約 37,000	約 100	約 900	-	約 53,000	

「-」：わずか（5未満）地震動：陸側 津波：ケース⑥ 時期：冬・深夜
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。 ※早期避難率低の場合

○【L2】理論上最大クラス
○三重県全体で最も被害が
大きくなるケース

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

死者数【L1】 (前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果								前回想定結果									
		建物倒壊等		津波			急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計	建物倒壊等		津波			急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計
		(うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)	-	(うち自力 脱出困難)	(うち津波 からの逃げ 遅れ)	-					(うち自力 脱出困難)	(うち津波 からの逃げ 遅れ)	-	(うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)	-				
北勢	桑名市	約 20	-	約 400	約 10	約 400	-	-	約 400	約 20	-	約 500	約 10	約 500	-	-	約 600		
	いなべ市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	木曽岬町	-	-	約 10	-	約 10	-	-	約 10	-	-	約 400	-	約 300	-	-	約 400		
	東員町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	四日市市	約 70	約 10	約 100	-	約 100	-	-	約 200	約 40	-	約 200	約 10	約 200	-	-	約 200		
	菟野町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	朝日町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	川越町	-	-	約 200	約 10	約 200	-	-	約 200	-	-	約 90	約 10	約 90	-	-	約 100		
鈴鹿市	約 30	-	約 100	-	約 100	-	-	約 200	約 20	-	約 100	-	約 100	-	-	約 200			
亀山市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
中勢	津市	約 80	約 10	約 1,400	約 20	約 1,400	約 10	-	約 1,500	約 50	約 10	約 1,300	約 30	約 1,300	-	-	約 1,400		
	松阪市	約 80	約 10	約 800	約 20	約 700	約 10	-	約 800	約 100	約 10	約 1,000	約 30	約 1,000	-	-	約 1,100		
	多気町	約 20	-	-	-	-	-	-	約 20	約 10	-	-	-	-	-	-	約 10		
	明和町	約 20	-	約 300	約 10	約 200	-	-	約 300	約 20	-	約 600	約 10	約 600	-	-	約 700		
	大台町	約 10	-	-	-	-	-	-	約 10	約 10	-	-	-	-	-	-	約 10		
伊賀	伊賀市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	名張市	-	-	-	-	-	約 10	-	約 10	-	-	-	-	-	-	-	-		
伊勢志摩	伊勢市	約 100	約 10	約 2,300	約 80	約 2,200	約 10	-	約 2,400	約 300	約 10	約 3,200	約 300	約 2,900	-	-	約 3,500		
	鳥羽市	約 30	-	約 900	約 10	約 900	約 10	-	約 1,000	約 50	-	約 800	約 30	約 800	約 10	-	約 900		
	志摩市	約 100	-	約 2,400	約 20	約 2,400	約 10	-	約 2,500	約 300	約 10	約 3,900	約 100	約 3,800	約 10	-	約 4,200		
	玉城町	約 20	-	-	-	-	-	-	約 20	約 20	-	-	-	-	-	-	約 20		
	南伊勢町	約 90	-	約 4,000	約 20	約 4,000	約 40	-	約 4,200	約 100	-	約 4,700	約 60	約 4,600	約 10	-	約 4,800		
	大紀町	約 10	-	約 1,200	-	約 1,200	約 10	-	約 1,300	約 20	-	約 1,300	-	約 1,300	-	-	約 1,300		
	度会町	約 10	-	-	-	-	-	-	約 10	約 10	-	-	-	-	-	-	約 10		
東紀州	尾鷲市	約 20	-	約 4,800	-	約 4,800	約 20	-	約 4,900	約 40	-	約 5,600	約 20	約 5,600	-	-	約 5,700		
	紀北町	約 80	-	約 7,900	約 20	約 7,900	約 30	-	約 8,000	約 70	-	約 7,800	約 70	約 7,800	約 10	-	約 7,900		
	熊野市	約 30	-	約 400	-	約 400	約 20	-	約 500	約 70	-	約 400	-	約 400	約 10	-	約 500		
	御浜町	約 30	-	約 20	-	約 20	-	-	約 50	約 80	-	約 20	-	約 20	-	-	約 100		
	紀宝町	約 50	-	約 200	-	約 200	-	-	約 200	約 60	-	約 40	-	約 40	-	-	約 100		
県計	約 900	約 60	約 28,000	約 200	約 27,000	約 200	-	約 29,000	約 1,400	約 70	約 32,000	約 700	約 31,000	約 60	-	約 34,000			

「-」：わずか（5未満）時期：冬・深夜
 ※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。
 ※早期避難率低の場合

○【L1】過去最大クラス
 ○三重県全体で最も被害が
 大きくなるケース

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

死者数【L2】
(各市町の最大値)

それぞれ津波7ケース(①②⑥⑦⑧⑨⑩)の組合せのうち要因ごとの最大値を抽出した数値を記載しています。したがって、合計は本表の市町毎または想定項目の合計と一致するものではありません。

地域区分	市町名	死者数							死者数の市町計が最大となるケース		
		建物倒壊等	(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)	津波	急傾斜地等	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計	地震ケース	津波ケース	季節・時間帯
北勢	桑名市	約 200	約 20	約 2,900	-	-	-	約 3,200	陸側	津波ケース⑨	冬・深夜
	いなべ市	約 20	-	-	-	-	-	約 20	陸側	-	冬・深夜
	木曾岬町	約 30	-	約 600	-	-	-	約 600	陸側	津波ケース⑨	冬・深夜
	東員町	約 20	-	-	-	-	-	約 20	陸側	-	冬・深夜
	四日市市	約 1,000	約 70	約 700	約 30	約 40	-	約 1,800	陸側	津波ケース⑨	冬・深夜
	菟野町	約 60	-	-	-	-	-	約 60	陸側	-	冬・深夜
	朝日町	約 20	-	約 10	-	-	-	約 40	陸側	津波ケース②	冬・深夜
	川越町	約 30	-	約 700	-	-	-	約 700	陸側	津波ケース⑨	冬・深夜
	鈴鹿市	約 400	約 30	約 1,300	-	約 40	-	約 1,700	陸側	津波ケース⑨	冬・深夜
亀山市	約 40	-	-	-	-	-	約 40	陸側	-	冬・深夜	
中勢	津市	約 1,100	約 60	約 3,800	約 20	約 50	-	約 5,000	陸側	津波ケース①	冬・深夜
	松阪市	約 1,100	約 80	約 2,500	約 10	約 40	-	約 3,700	陸側	津波ケース①	冬・深夜
	多気町	約 200	約 10	-	-	-	-	約 200	陸側	-	冬・深夜
	明和町	約 300	約 10	約 400	-	約 10	-	約 700	陸側	津波ケース⑨	冬・深夜
	大台町	約 90	-	-	-	-	-	約 90	陸側	-	冬・深夜
伊賀	伊賀市	約 40	-	-	約 10	-	-	約 50	陸側	-	冬・深夜
	名張市	約 20	-	-	-	-	-	約 20	陸側	-	冬・深夜
伊勢志摩	伊勢市	約 1,300	約 100	約 5,500	約 10	約 80	-	約 6,900	陸側	津波ケース⑨	冬・深夜
	鳥羽市	約 200	約 10	約 1,000	約 10	-	-	約 1,300	陸側	津波ケース①	冬・深夜
	志摩市	約 600	約 20	約 6,200	約 10	約 20	-	約 6,800	陸側	津波ケース⑦	冬・深夜
	玉城町	約 100	約 10	-	-	約 10	-	約 200	陸側	-	冬・深夜
	南伊勢町	約 300	約 10	約 4,300	約 50	-	-	約 4,700	陸側	津波ケース①	冬・深夜
	大紀町	約 70	-	約 1,300	約 10	-	-	約 1,300	陸側	津波ケース①	冬・深夜
	度会町	約 70	-	-	-	-	-	約 70	陸側	-	冬・深夜
東紀州	尾鷲市	約 300	約 10	約 5,400	約 20	約 10	-	約 5,700	陸側	津波ケース⑦	冬・深夜
	紀北町	約 300	約 10	約 8,400	約 30	-	-	約 8,800	陸側	津波ケース⑦	冬・深夜
	熊野市	約 200	約 10	約 800	約 20	-	-	約 1,100	陸側	津波ケース⑩	冬・深夜
	御浜町	約 100	-	約 400	-	-	-	約 500	陸側	津波ケース⑥	冬・深夜
	紀宝町	約 60	-	約 1,100	-	-	-	約 1,200	陸側	津波ケース⑧	冬・深夜
県計	約 8,300	約 500	約 41,000	約 200	約 300	-	約 50,000	陸側	津波ケース⑥	冬・深夜	

「-」：わずか(5未満) ※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。 ※早期避難率低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

重傷者数【L2】

概観

重傷者は県全体で約16,000人と推計され、そのうち建物倒壊等による重傷者が約15,000人で重傷者数の大半を占めています。

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果						合計
		建物倒壊等 (うち屋内収容物移動・転倒、 屋内落下物)	津波	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物		
北勢	桑名市	約 500	約 60	約 10	-	-	-	約 500
	いなべ市	約 60	約 10	-	-	-	-	約 60
	木曾岬町	約 70	約 10	-	-	-	-	約 70
	東員町	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50
	四日市市	約 2,100	約 300	約 30	約 20	約 20	-	約 2,100
	菟野町	約 100	約 10	-	-	-	-	約 100
	朝日町	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50
	川越町	約 80	約 10	-	-	-	-	約 80
	鈴鹿市	約 800	約 100	約 90	-	約 10	-	約 900
	亀山市	約 100	約 10	-	-	-	-	約 100
中勢	津市	約 1,800	約 300	約 300	約 10	約 20	-	約 2,100
	松阪市	約 2,000	約 300	約 100	-	約 20	-	約 2,100
	多気町	約 400	約 40	-	-	-	-	約 400
	明和町	約 400	約 50	約 10	-	-	-	約 500
	大台町	約 200	約 10	-	-	-	-	約 200
伊賀	伊賀市	約 100	約 20	-	約 10	-	-	約 100
	名張市	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50
伊勢志摩	伊勢市	約 2,600	約 400	約 40	-	約 30	-	約 2,700
	鳥羽市	約 300	約 40	約 20	約 10	-	-	約 300
	志摩市	約 900	約 90	約 60	-	約 10	-	約 900
	玉城町	約 300	約 40	-	-	-	-	約 300
	南伊勢町	約 500	約 40	約 10	約 30	-	-	約 500
	大紀町	約 100	約 10	-	約 10	-	-	約 100
東紀州	度会町	約 100	約 20	-	-	-	-	約 100
	尾鷲市	約 400	約 40	約 50	約 20	-	-	約 500
	紀北町	約 400	約 40	約 20	約 20	-	-	約 400
	熊野市	約 400	約 30	約 20	約 10	-	-	約 400
	御浜町	約 200	約 10	約 20	-	-	-	約 200
紀宝町	約 90	約 10	約 40	-	-	-	約 100	
県計	約 15,000	約 2,000	約 800	約 100	約 100	約 10	約 16,000	

「-」:わずか（5未満）

地震動：陸側

津波：ケース⑥

時期：冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数

値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

重傷者数【L1】

概観

重傷者は県全体で約2,300人と推計され、そのうち建物倒壊等による重傷者が約1,800人で全体の7割以上を占めています。

- 【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果						合計
		建物倒壊等 (うち屋内収容物移動・転倒、 屋内落下物)	津波	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物		
北勢	桑名市	約 60	約 20	-	-	-	-	約 60
	いなべ市	-	-	-	-	-	-	-
	木曾岬町	約 10	-	-	-	-	-	約 10
	東員町	-	-	-	-	-	-	-
	四日市市	約 200	約 50	約 20	-	-	-	約 200
	菰野町	-	-	-	-	-	-	-
	朝日町	約 10	-	-	-	-	-	約 10
	川越町	約 10	-	約 10	-	-	-	約 10
	鈴鹿市	約 80	約 30	約 20	-	-	-	約 100
中勢	亀山市	約 10	約 10	-	-	-	-	約 10
	津市	約 200	約 50	約 30	約 10	-	-	約 200
	松阪市	約 200	約 30	約 10	-	-	-	約 200
	多気町	約 40	-	-	-	-	-	約 40
	明和町	約 30	約 10	約 10	-	-	-	約 50
伊賀	大台町	約 20	-	-	-	-	-	約 20
	伊賀市	約 10	約 10	-	-	-	-	約 10
伊勢志摩	名張市	-	-	-	-	-	-	-
	伊勢市	約 200	約 40	約 20	-	-	-	約 200
	鳥羽市	約 50	約 10	約 20	-	-	-	約 80
	志摩市	約 200	約 20	約 60	-	-	-	約 200
	玉城町	約 30	-	-	-	-	-	約 30
	南伊勢町	約 100	約 10	約 10	約 10	-	-	約 200
	大紀町	約 20	-	-	-	-	-	約 30
東紀州	度会町	約 10	-	-	-	-	-	約 10
	尾鷲市	約 30	-	約 60	-	-	-	約 90
	紀北町	約 100	約 10	約 100	-	-	-	約 200
	熊野市	約 50	-	約 10	-	-	-	約 60
	御浜町	約 40	-	-	-	-	-	約 50
紀宝町	約 60	約 10	約 30	-	-	-	約 100	
県計	約 1,800	約 300	約 400	約 40	-	-	約 2,300	

「-」：わずか（5未満）

時期：冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

重傷者数【L2】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果							前回想定結果						
		建物倒壊等 (うち屋内収容物移動・転倒、 屋内落下物)		津波	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計	建物倒壊等 (うち屋内収容物移動・転倒、 屋内落下物)		津波	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計
		約	約						約	約					
北勢	桑名市	約 500	約 60	約 10	-	-	-	約 500	約 600	約 60	約 10	-	-	-	約 600
	いなべ市	約 60	約 10	-	-	-	-	約 60	約 60	約 10	-	-	-	約 60	
	木曽岬町	約 70	約 10	-	-	-	-	約 70	約 70	約 10	-	-	-	約 70	
	東員町	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50	約 50	約 10	-	-	-	約 50	
	四日市市	約 2,100	約 300	約 30	約 20	約 20	-	約 2,100	約 1,900	約 200	約 40	-	約 50	約 2,000	
	菟野町	約 100	約 10	-	-	-	-	約 100	約 50	約 10	-	-	-	約 50	
	朝日町	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50	約 40	約 10	-	-	-	約 40	
	川越町	約 80	約 10	-	-	-	-	約 80	約 80	約 10	-	-	-	約 80	
	鈴鹿市	約 800	約 100	約 90	-	約 10	-	約 900	約 900	約 100	約 90	-	-	約 1,000	
亀山市	約 100	約 10	-	-	-	-	約 100	約 100	約 20	-	-	-	約 100		
中勢	津市	約 1,800	約 300	約 300	約 10	約 20	-	約 2,100	約 1,700	約 300	約 200	約 10	約 30	約 1,900	
	松阪市	約 2,000	約 300	約 100	-	約 20	-	約 2,100	約 2,200	約 300	約 50	-	約 40	約 2,300	
	多気町	約 400	約 40	-	-	-	-	約 400	約 200	約 20	-	-	-	約 200	
	明和町	約 400	約 50	約 10	-	-	-	約 500	約 400	約 50	約 10	-	-	約 500	
	大台町	約 200	約 10	-	-	-	-	約 200	約 100	約 10	-	-	-	約 100	
伊賀	伊賀市	約 100	約 20	-	約 10	-	-	約 100	約 200	約 20	-	-	-	約 200	
	名張市	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50	約 50	約 10	-	-	-	約 50	
伊勢志摩	伊勢市	約 2,600	約 400	約 40	-	約 30	-	約 2,700	約 3,200	約 400	約 40	-	約 50	約 3,300	
	鳥羽市	約 300	約 40	約 20	約 10	-	-	約 300	約 400	約 60	約 20	約 10	-	約 500	
	志摩市	約 900	約 90	約 60	-	約 10	-	約 900	約 1,500	約 200	約 60	約 10	-	約 1,600	
	玉城町	約 300	約 40	-	-	-	-	約 300	約 300	約 40	-	-	-	約 300	
	南伊勢町	約 500	約 40	約 10	約 30	-	-	約 500	約 500	約 50	約 10	約 10	-	約 600	
	大紀町	約 100	約 10	-	約 10	-	-	約 100	約 200	約 10	-	-	-	約 200	
	度会町	約 100	約 20	-	-	-	-	約 100	約 100	約 20	-	-	-	約 100	
東紀州	尾鷲市	約 400	約 40	約 50	約 20	-	-	約 500	約 600	約 60	約 50	-	-	約 700	
	紀北町	約 400	約 40	約 20	約 20	-	-	約 400	約 500	約 40	約 20	-	-	約 500	
	熊野市	約 400	約 30	約 20	約 10	-	-	約 400	約 400	約 30	約 40	-	-	約 500	
	御浜町	約 200	約 10	約 20	-	-	-	約 200	約 200	約 20	約 20	-	-	約 300	
	紀宝町	約 90	約 10	約 40	-	-	-	約 100	約 80	約 10	約 40	-	-	約 100	
県計	約 15,000	約 2,000	約 800	約 100	約 100	約 10	約 16,000	約 17,000	約 2,100	約 700	約 60	約 200	-	約 18,000	

「-」:わずか(5未満)地震動:陸側 津波:ケース⑥ 時期:冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率低の場合

○【L2】理論上最大クラス

○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

重傷者数【L1】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果							前回想定結果						
		建物倒壊等 (うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)		津波	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計	建物倒壊等 (うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)		津波	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計
		約	約						約	約					
北勢	桑名市	約 60	約 20	-	-	-	-	約 60	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50
	いなべ市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	木曾岬町	約 10	-	-	-	-	-	約 10	約 10	-	-	-	-	-	約 10
	東員町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	四日市市	約 200	約 50	約 20	-	-	-	約 200	約 100	約 30	約 20	-	-	-	約 100
	菰野町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	朝日町	約 10	-	-	-	-	-	約 10	-	-	-	-	-	-	-
	川越町	約 10	-	約 10	-	-	-	約 10	約 10	-	-	-	-	-	約 10
	鈴鹿市	約 80	約 30	約 20	-	-	-	約 100	約 40	約 20	約 10	-	-	-	約 60
亀山市	約 10	約 10	-	-	-	-	約 10	-	-	-	-	-	-	-	
中勢	津市	約 200	約 50	約 30	約 10	-	-	約 200	約 100	約 40	約 30	-	-	-	約 100
	松阪市	約 200	約 30	約 10	-	-	-	約 200	約 200	約 40	約 10	-	-	-	約 200
	多気町	約 40	-	-	-	-	-	約 40	約 10	-	-	-	-	-	約 10
	明和町	約 30	約 10	約 10	-	-	-	約 50	約 40	約 10	約 10	-	-	-	約 50
	大台町	約 20	-	-	-	-	-	約 20	約 20	-	-	-	-	-	約 20
伊賀	伊賀市	約 10	約 10	-	-	-	-	約 10	-	-	-	-	-	-	-
	名張市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伊勢志摩	伊勢市	約 200	約 40	約 20	-	-	-	約 200	約 500	約 60	約 40	-	-	-	約 600
	鳥羽市	約 50	約 10	約 20	-	-	-	約 80	約 80	約 10	約 20	-	-	-	約 100
	志摩市	約 200	約 20	約 60	-	-	-	約 200	約 400	約 40	約 70	-	-	-	約 500
	玉城町	約 30	-	-	-	-	-	約 30	約 30	-	-	-	-	-	約 30
	南伊勢町	約 100	約 10	約 10	約 10	-	-	約 200	約 200	約 10	約 30	約 10	-	-	約 200
	大紀町	約 20	-	-	-	-	-	約 30	約 30	-	-	-	-	-	約 30
	度会町	約 10	-	-	-	-	-	約 10	約 20	-	-	-	-	-	約 20
	尾鷲市	約 30	-	約 60	-	-	-	約 90	約 60	-	約 60	-	-	-	約 100
東紀州	紀北町	約 100	約 10	約 100	-	-	-	約 200	約 100	約 10	約 80	-	-	-	約 200
	熊野市	約 50	-	約 10	-	-	-	約 60	約 100	約 10	約 10	-	-	-	約 100
	御浜町	約 40	-	-	-	-	-	約 50	約 100	約 10	-	-	-	-	約 100
	紀宝町	約 60	約 10	約 30	-	-	-	約 100	約 60	約 10	約 10	-	-	-	約 80
	県計	約 1,800	約 300	約 400	約 40	-	-	約 2,300	約 2,300	約 300	約 400	約 40	-	-	約 2,800

「-」：わずか（5未満） 時期：冬・深夜
 ※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。
 ※早期避難率低の場合

○【L1】過去最大クラス
 ○三重県全体で最も被害が
 大きくなるケース

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

軽傷者数【L2】

概観

軽傷者は県全体で約38,000人と推計され、そのうち建物倒壊等による軽傷者が約36,000人で軽傷者数の大半を占めています。

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果						合計
		建物倒壊等 (うち屋内収容物移動・転倒、 屋内落下物)	津波	急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀・自動販売機の 転倒、屋外落下物		
北勢	桑名市	約 1,700	約 200	約 20	-	-	-	約 1,800
	いなべ市	約 500	約 30	-	-	-	-	約 500
	木曾岬町	約 200	約 30	-	-	-	-	約 200
	東員町	約 300	約 30	-	-	-	-	約 300
	四日市市	約 4,800	約 1,000	約 60	約 20	約 50	-	約 4,900
	菟野町	約 700	約 60	-	-	-	-	約 700
	朝日町	約 200	約 30	-	-	-	-	約 200
	川越町	約 200	約 40	-	-	-	-	約 200
	鈴鹿市	約 2,700	約 500	約 200	-	約 30	-	約 2,900
	亀山市	約 600	約 60	-	-	-	-	約 600
中勢	津市	約 5,600	約 1,000	約 600	約 10	約 50	-	約 6,200
	松阪市	約 3,900	約 1,100	約 300	-	約 40	-	約 4,200
	多気町	約 800	約 100	-	-	-	-	約 800
	明和町	約 800	約 200	約 10	-	約 10	-	約 900
	大台町	約 400	約 40	-	-	-	-	約 400
伊賀	伊賀市	約 800	約 70	-	約 10	-	-	約 800
	名張市	約 400	約 50	-	-	-	-	約 400
伊勢志摩	伊勢市	約 3,900	約 1,400	約 80	-	約 70	約 10	約 4,100
	鳥羽市	約 600	約 100	約 40	約 10	-	-	約 700
	志摩市	約 1,900	約 300	約 100	-	約 20	-	約 2,000
	玉城町	約 500	約 200	-	-	-	-	約 500
	南伊勢町	約 700	約 200	約 30	約 30	-	-	約 800
	大紀町	約 300	約 40	-	約 10	-	-	約 300
	度会町	約 200	約 60	-	-	-	-	約 200
東紀州	尾鷲市	約 900	約 100	約 100	約 20	約 10	-	約 1,100
	紀北町	約 700	約 200	約 50	約 20	-	-	約 800
	熊野市	約 800	約 100	約 40	約 10	-	-	約 900
	御浜町	約 400	約 40	約 30	-	-	-	約 400
	紀宝町	約 300	約 30	約 80	-	-	-	約 400
県計	約 36,000	約 7,400	約 1,600	約 100	約 300	約 20	約 38,000	

「-」:わずか（5未満）

地震動：陸側

津波：ケース⑥

時期：冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

軽傷者数【L1】

概観

軽傷者は県全体で約13,000人と推計され、そのうち建物倒壊等による軽傷者が約12,000人で軽傷者数の大半を占めています。

- 【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果						合計
		建物倒壊等 (うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)	津波	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物		
北勢	桑名市	約 500	約 80	約 10	-	-	-	約 500
	いなべ市	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50
	木曾岬町	約 40	-	-	-	-	-	約 40
	東員町	約 30	約 10	-	-	-	-	約 30
	四日市市	約 1,200	約 200	約 30	-	-	-	約 1,300
	菰野町	約 80	約 20	-	-	-	-	約 80
	朝日町	約 60	約 10	-	-	-	-	約 60
	川越町	約 70	約 10	約 10	-	-	-	約 80
	鈴鹿市	約 700	約 100	約 30	-	-	-	約 800
	亀山市	約 100	約 20	-	-	-	-	約 100
中勢	津市	約 1,700	約 200	約 60	約 10	-	-	約 1,700
	松阪市	約 1,400	約 100	約 30	-	-	-	約 1,400
	多気町	約 300	約 10	-	-	-	-	約 300
	明和町	約 400	約 30	約 20	-	-	-	約 400
	大台町	約 200	約 10	-	-	-	-	約 200
伊賀	伊賀市	約 100	約 30	-	-	-	-	約 100
	名張市	約 60	約 20	-	約 10	-	-	約 70
伊勢志摩	伊勢市	約 1,400	約 200	約 30	-	-	-	約 1,500
	鳥羽市	約 300	約 30	約 30	約 10	-	-	約 300
	志摩市	約 1,100	約 70	約 100	約 10	-	-	約 1,200
	玉城町	約 200	約 20	-	-	-	-	約 200
	南伊勢町	約 500	約 30	約 10	約 20	-	-	約 600
	大紀町	約 200	約 10	約 10	約 10	-	-	約 200
	度会町	約 100	約 10	-	-	-	-	約 100
東紀州	尾鷲市	約 300	約 10	約 100	約 10	-	-	約 400
	紀北町	約 500	約 30	約 200	約 20	-	-	約 700
	熊野市	約 400	約 20	約 20	約 10	-	-	約 400
	御浜町	約 200	約 10	約 10	-	-	-	約 300
	紀宝町	約 300	約 20	約 70	-	-	-	約 300
県計	約 12,000	約 1,400	約 800	約 100	-	-	約 13,000	

「-」：わずか（5未満）

時期：冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

軽傷者数【L2】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果							前回想定結果						
		建物倒壊等		津波	急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計	建物倒壊等		津波	急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計
		(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)							(うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)						
北勢	桑名市	約 1,700	約 200	約 20	-	-	-	約 1,800	約 2,100	約 200	約 10	-	-	-	約 2,100
	いなべ市	約 500	約 30	-	-	-	-	約 500	約 400	約 30	-	-	-	約 400	
	木曽岬町	約 200	約 30	-	-	-	-	約 200	約 200	約 30	-	-	-	約 200	
	東員町	約 300	約 30	-	-	-	-	約 300	約 300	約 30	-	-	-	約 300	
	四日市市	約 4,800	約 1,000	約 60	約 20	約 50	-	約 4,900	約 5,600	約 900	約 80	-	約 100	-	約 5,800
	菟野町	約 700	約 60	-	-	-	-	約 700	約 500	約 30	-	-	-	-	約 500
	朝日町	約 200	約 30	-	-	-	-	約 200	約 200	約 20	-	-	-	-	約 200
	川越町	約 200	約 40	-	-	-	-	約 200	約 200	約 50	-	-	-	-	約 200
	鈴鹿市	約 2,700	約 500	約 200	-	約 30	-	約 2,900	約 3,700	約 500	約 200	-	-	-	約 3,900
亀山市	約 600	約 60	-	-	-	-	約 600	約 800	約 70	-	-	-	-	約 800	
中勢	津市	約 5,600	約 1,000	約 600	約 10	約 50	-	約 6,200	約 5,600	約 1,000	約 300	約 10	約 80	-	約 6,100
	松阪市	約 3,900	約 1,100	約 300	-	約 40	-	約 4,200	約 4,800	約 1,100	約 100	-	約 100	-	約 5,000
	多気町	約 800	約 100	-	-	-	-	約 800	約 500	約 90	-	-	-	-	約 500
	明和町	約 800	約 200	約 10	-	約 10	-	約 900	約 900	約 200	約 20	-	約 10	-	約 900
	大台町	約 400	約 40	-	-	-	-	約 400	約 400	約 50	-	-	-	-	約 400
伊賀	伊賀市	約 800	約 70	-	約 10	-	-	約 800	約 1,300	約 80	-	-	-	-	約 1,300
	名張市	約 400	約 50	-	-	-	-	約 400	約 500	約 50	-	-	-	-	約 500
伊勢志摩	伊勢市	約 3,900	約 1,400	約 80	-	約 70	約 10	約 4,100	約 4,300	約 1,600	約 90	-	約 100	約 10	約 4,600
	鳥羽市	約 600	約 100	約 40	約 10	-	-	約 700	約 800	約 200	約 40	約 10	-	-	約 800
	志摩市	約 1,900	約 300	約 100	-	約 20	-	約 2,000	約 2,600	約 600	約 100	約 10	約 10	-	約 2,700
	玉城町	約 500	約 200	-	-	-	-	約 500	約 500	約 200	-	-	-	-	約 500
	南伊勢町	約 700	約 200	約 30	約 30	-	-	約 800	約 900	約 200	約 30	約 10	-	-	約 900
	大紀町	約 300	約 40	-	約 10	-	-	約 300	約 400	約 50	-	-	-	-	約 500
	度会町	約 200	約 60	-	-	-	-	約 200	約 300	約 80	-	-	-	-	約 300
東紀州	尾鷲市	約 900	約 100	約 100	約 20	約 10	-	約 1,100	約 1,100	約 200	約 100	-	約 10	-	約 1,200
	紀北町	約 700	約 200	約 50	約 20	-	-	約 800	約 900	約 200	約 40	-	-	-	約 900
	熊野市	約 800	約 100	約 40	約 10	-	-	約 900	約 1,000	約 100	約 70	-	-	-	約 1,100
	御浜町	約 400	約 40	約 30	-	-	-	約 400	約 400	約 80	約 40	-	-	-	約 500
	紀宝町	約 300	約 30	約 80	-	-	-	約 400	約 300	約 30	約 80	-	-	-	約 400
県計	約 36,000	約 7,400	約 1,600	約 100	約 300	約 20	約 38,000	約 42,000	約 7,900	約 1,300	約 60	約 500	約 30	約 44,000	

「一」:わずか(5未満) 地震動:陸側 津波:ケース⑥ 時期:冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率低の場合

○【L2】理論上最大クラス

○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

軽傷者数【L1】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果							前回想定結果						
		建物倒壊等 (うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		津波	急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計	建物倒壊等 (うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物)		津波	急傾斜地崩壊等	火災	ブロック塀・自動販売機の転倒、屋外落下物	合計
北勢	桑名市	約 500	約 80						約 10	-					
	いなべ市	約 50	約 10	-	-	-	-	約 50	約 30	約 10	-	-	-	-	約 30
	木曽岬町	約 40	-	-	-	-	-	約 40	約 50	-	-	-	-	-	約 50
	東員町	約 30	約 10	-	-	-	-	約 30	約 30	約 10	-	-	-	-	約 30
	四日市市	約 1,200	約 200	約 30	-	-	-	約 1,300	約 1,100	約 100	約 50	-	-	-	約 1,100
	菰野町	約 80	約 20	-	-	-	-	約 80	約 40	約 10	-	-	-	-	約 40
	朝日町	約 60	約 10	-	-	-	-	約 60	約 40	-	-	-	-	-	約 40
	川越町	約 70	約 10	約 10	-	-	-	約 80	約 80	約 10	-	-	-	-	約 90
中勢	鈴鹿市	約 700	約 100	約 30	-	-	-	約 800	約 700	約 90	約 30	-	-	-	約 700
	亀山市	約 100	約 20	-	-	-	-	約 100	約 90	約 20	-	-	-	-	約 90
	津市	約 1,700	約 200	約 60	約 10	-	-	約 1,700	約 1,400	約 200	約 60	-	-	-	約 1,500
	松阪市	約 1,400	約 100	約 30	-	-	-	約 1,400	約 1,800	約 100	約 20	-	-	-	約 1,800
	多気町	約 300	約 10	-	-	-	-	約 300	約 200	約 10	-	-	-	-	約 200
伊賀	明和町	約 400	約 30	約 20	-	-	-	約 400	約 400	約 20	約 20	-	-	-	約 400
	大台町	約 200	約 10	-	-	-	-	約 200	約 200	約 10	-	-	-	-	約 200
伊勢志摩	伊賀市	約 100	約 30	-	-	-	-	約 100	約 90	約 20	-	-	-	-	約 90
	名張市	約 60	約 20	-	約 10	-	-	約 70	約 40	約 20	-	-	-	-	約 40
	伊勢市	約 1,400	約 200	約 30	-	-	-	約 1,500	約 2,300	約 200	約 80	-	-	-	約 2,400
	鳥羽市	約 300	約 30	約 30	約 10	-	-	約 300	約 400	約 30	約 30	-	-	-	約 400
	志摩市	約 1,100	約 70	約 100	約 10	-	-	約 1,200	約 1,700	約 100	約 100	-	-	-	約 1,800
	玉城町	約 200	約 20	-	-	-	-	約 200	約 200	約 20	-	-	-	-	約 200
	南伊勢町	約 500	約 30	約 10	約 20	-	-	約 600	約 600	約 40	約 50	約 10	-	-	約 700
東紀州	大紀町	約 200	約 10	約 10	約 10	-	-	約 200	約 200	約 10	約 10	-	-	-	約 200
	度会町	約 100	約 10	-	-	-	-	約 100	約 100	約 10	-	-	-	-	約 100
	尾鷲市	約 300	約 10	約 100	約 10	-	-	約 400	約 500	約 20	約 100	-	-	-	約 600
	紀北町	約 500	約 30	約 200	約 20	-	-	約 700	約 600	約 40	約 200	-	-	-	約 800
	熊野市	約 400	約 20	約 20	約 10	-	-	約 400	約 600	約 30	約 20	-	-	-	約 600
御浜町	約 200	約 10	約 10	-	-	-	約 300	約 300	約 30	-	-	-	-	約 300	
紀宝町	約 300	約 20	約 70	-	-	-	約 300	約 300	約 30	約 30	-	-	-	約 300	
県計		約 12,000	約 1,400	約 800	約 100	-	-	約 13,000	約 15,000	約 1,400	約 800	約 40	-	-	約 15,000

「-」：わずか（5未満） 時期：冬・深夜
 ※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。
 ※早期避難率低の場合

○【L1】過去最大クラス
 ○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

建物倒壊等による
自力脱出困難者数【L2】

概観

建物倒壊等による自力脱出困難者は、県全体で最大約31,000人と推計されます。

地域区分	市町名	今回想定結果
北勢	桑名市	約 1,300
	いなべ市	約 100
	木曽岬町	約 100
	東員町	約 100
	四日市市	約 4,900
	菰野町	約 300
	朝日町	約 100
	川越町	約 200
	鈴鹿市	約 2,000
	亀山市	約 200
中勢	津市	約 3,900
	松阪市	約 4,400
	多気町	約 500
	明和町	約 800
	大台町	約 200
伊賀	伊賀市	約 200
	名張市	約 100
伊勢志摩	伊勢市	約 5,800
	鳥羽市	約 500
	志摩市	約 1,300
	玉城町	約 600
	南伊勢町	約 500
	大紀町	約 200
	度会町	約 200
東紀州	尾鷲市	約 600
	紀北町	約 600
	熊野市	約 500
	御浜町	約 200
	紀宝町	約 200
県計		約 31,000

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

「一」:わずか(5未満)

時期:冬・深夜

地震動:陸側

津波:ケース⑥

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

建物倒壊等による
自力脱出困難者数【L1】

概観

建物倒壊等による自力脱出困難者は、県全体で最大約3,500人と推計されます。

地域区分	市町名	今回想定結果
北勢	桑名市	約 100
	いなべ市	-
	木曾岬町	約 10
	東員町	-
	四日市市	約 500
	菰野町	約 10
	朝日町	約 20
	川越町	約 20
	鈴鹿市	約 200
	亀山市	約 10
中勢	津市	約 400
	松阪市	約 400
	多気町	約 40
	明和町	約 80
	大台町	約 20
伊賀	伊賀市	約 10
	名張市	約 10
伊勢志摩	伊勢市	約 500
	鳥羽市	約 90
	志摩市	約 300
	玉城町	約 60
	南伊勢町	約 200
	大紀町	約 30
	度会町	約 20
東紀州	尾鷲市	約 40
	紀北町	約 100
	熊野市	約 60
	御浜町	約 60
	紀宝町	約 100
県計		約 3,500

- 【L1】 過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

「-」：わずか（5未満）
 時期：冬・深夜
 ※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

建物倒壊等による
自力脱出困難者数【L2】
(前回との比較)

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果	前回想定結果
北勢	桑名市	約 1,300	約 1,500
	いなべ市	約 100	約 100
	木曽岬町	約 100	約 200
	東員町	約 100	約 100
	四日市市	約 4,900	約 5,000
	菰野町	約 300	約 100
	朝日町	約 100	約 100
	川越町	約 200	約 200
	鈴鹿市	約 2,000	約 2,400
	亀山市	約 200	約 300
中勢	津市	約 3,900	約 4,800
	松阪市	約 4,400	約 5,000
	多気町	約 500	約 400
	明和町	約 800	約 900
	大台町	約 200	約 200
伊賀	伊賀市	約 200	約 400
	名張市	約 100	約 200
伊勢志摩	伊勢市	約 5,800	約 7,700
	鳥羽市	約 500	約 800
	志摩市	約 1,300	約 2,600
	玉城町	約 600	約 600
	南伊勢町	約 500	約 800
	大紀町	約 200	約 300
	度会町	約 200	約 300
東紀州	尾鷲市	約 600	約 1,000
	紀北町	約 600	約 800
	熊野市	約 500	約 700
	御浜町	約 200	約 400
	紀宝町	約 200	約 100
県計		約 31,000	約 38,000

「-」:わずか(5未満)

時期:冬・深夜

地震動:陸側

津波:ケース⑥

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

建物倒壊等による
自力脱出困難者数【L1】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果	前回想定結果
北勢	桑名市	約 100	約 100
	いなべ市	-	-
	木曽岬町	約 10	約 10
	東員町	-	-
	四日市市	約 500	約 300
	菰野町	約 10	-
	朝日町	約 20	約 10
	川越町	約 20	約 20
	鈴鹿市	約 200	約 100
	亀山市	約 10	約 10
中勢	津市	約 400	約 300
	松阪市	約 400	約 500
	多気町	約 40	約 20
	明和町	約 80	約 80
	大台町	約 20	約 30
伊賀	伊賀市	約 10	約 10
	名張市	約 10	-
伊勢志摩	伊勢市	約 500	約 1,200
	鳥羽市	約 90	約 100
	志摩市	約 300	約 700
	玉城町	約 60	約 80
	南伊勢町	約 200	約 200
	大紀町	約 30	約 40
	度会町	約 20	約 40
東紀州	尾鷲市	約 40	約 90
	紀北町	約 100	約 200
	熊野市	約 60	約 100
	御浜町	約 60	約 200
	紀宝町	約 100	約 100
県計		約 3,500	約 4,700

- 【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

「-」：わずか（5未満）
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。
※早期避難率低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

津波被害による
要救助者数【L2】

津波被害による
要搜索者数【L2】

概観

津波による要救助者数は県全体で約13,000人、津波による要搜索者数は県全体で約43,000人と推計されます。

地域区分	市町名	津波による 要救助者数	津波による 要搜索者数
北勢	桑名市	約 1,400	約 3,000
	いなべ市	-	-
	木曾岬町	約 30	約 500
	東員町	-	-
	四日市市	約 500	約 600
	菰野町	-	-
	朝日町	約 10	約 10
	川越町	約 600	約 600
	鈴鹿市	約 300	約 800
	亀山市	-	-
中勢	津市	約 1,500	約 4,200
	松阪市	約 800	約 2,400
	多気町	-	-
	明和町	約 100	約 400
	大台町	-	-
	伊賀	伊賀市	-
	名張市	-	-
伊勢志摩	伊勢市	約 5,600	約 5,000
	鳥羽市	約 100	約 1,100
	志摩市	約 200	約 4,200
	玉城町	-	-
	南伊勢町	約 100	約 4,100
	大紀町	-	約 1,000
	度会町	-	-
	東紀州	尾鷲市	約 900
	紀北町	約 1,000	約 8,200
	熊野市	約 60	約 800
	御浜町	約 10	約 400
	紀宝町	約 40	約 1,000
県計		約 13,000	約 43,000

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

「-」:わずか(5未満)

地震動:陸側

津波:ケース⑥

時期:冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定量評価

津波被害による
要救助者数【L1】

津波被害による
要搜索者数【L1】

概観

津波による要救助者数は県全体で約7,900人、津波による要搜索者数は県全体で約29,000人と推計されます。

地域区分	市町名	津波による 要救助者数	津波による 要搜索者数
北勢	桑名市	約 800	約 400
	いなべ市	-	-
	木曾岬町	-	約 10
	東員町	-	-
	四日市市	約 200	約 200
	菰野町	-	-
	朝日町	-	-
	川越町	約 500	約 200
	鈴鹿市	約 60	約 200
	亀山市	-	-
中勢	津市	約 800	約 1,500
	松阪市	約 200	約 800
	多気町	-	-
	明和町	約 10	約 300
	大台町	-	-
伊賀	伊賀市	-	-
	名張市	-	-
伊勢志摩	伊勢市	約 3,100	約 2,300
	鳥羽市	約 200	約 1,000
	志摩市	約 200	約 2,600
	玉城町	-	-
	南伊勢町	約 200	約 4,000
	大紀町	-	約 1,200
	度会町	-	-
東紀州	尾鷲市	約 1,100	約 5,000
	紀北町	約 500	約 8,200
	熊野市	約 20	約 400
	御浜町	-	約 20
	紀宝町	-	約 300
県計		約 7,900	約 29,000

「-」：わずか（5未満）

時期：冬・深夜

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

※早期避難率低の場合

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

定性評価

人的被害

<建物倒壊等>

- ・耐震性を有しない古い建物に高齢者や要配慮者が居住している場合、建物倒壊等による人的被害が増加する可能性がある。
- ・半壊した建物内に留まっている人が、その後の地震による建物倒壊で下敷きになり、人的被害が増加する可能性がある。
- ・高層階において、長周期地震動による大きな揺れや、家具等の転倒・移動によって多数の負傷者が発生する可能性がある。高層オフィスビルやタワーマンション等が建物被害を受けた場合、施設内の人数が多いため、人的被害が増加する可能性がある。

(さらに過酷な状況)

- ・理論上最大クラスでは、さらに強い揺れにより全壊する建物が増加し、人的被害が増加する可能性がある。

<津波>

- ・津波到達が早い地域では、早期に避難を開始した場合でも津波に巻き込まれる可能性がある。
- ・東日本大震災でも見られたように、津波からの避難で自動車避難をする住民が増えると道路の渋滞が発生し、避難完了できないリスクが高まる。また、徒歩避難や救助活動等の妨げにもなる。
- ・津波避難タワー等に避難完了した場合でも、沿岸部で津波火災が発生し延焼が拡大すると、煙に巻かれたり、延焼火災に巻き込まれる等で人的被害が増加する可能性がある。

(さらに過酷な状況)

- ・理論上最大クラスでは、建物倒壊等により自力で脱出することが困難な状況が増加し、津波からの避難が困難なだけでなく、閉じ込められて津波から避難できない状況により、人的被害が増加する可能性がある。

定性評価

人的被害

<火災>

- ・集合住宅、高層ビル、地下施設等で火災が発生すると、多数の住民や利用者が煙に巻かれることによって人的被害が増加する可能性がある。

(さらに過酷な状況)

- ・理論上最大クラスでは、延焼拡大に至る状況がさらに多く発生し、複数の延焼火災が発生することにより、逃げまどいによる人的被害が増加する可能性がある。

<その他>

- ・観光客や他県からの来訪者が、駅や大規模集客施設で揺れや火災、また避難する場所が分からず津波に巻き込まれることで、人的被害が増加する可能性がある。
- ・列車の脱線、自動車事故、パニック等による群衆事故、階段や高所からの転落などにより、人的被害が増加する可能性がある。

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

【参考】津波からの避難意識向上と津波による死者数に関する試算

前提

- 津波による死者を減らすためには、津波からの迅速な避難が重要であることから、津波からの避難意識向上と津波による死者数について試算を行いました。
- 試算は、今回実施した被害想定における死者数（要因：津波）を用いました。（【L2】約41,000人、【L1】約28,000人）
- 今回の被害想定では、「津波からすぐに避難する割合」を20%としており、これを「①避難意識が低い場合」としています。
- 「津波からすぐに避難する割合」が70%に高まった場合を「②避難意識が高い場合」としています。
- 「津波からすぐに避難する割合」が100%に高まった場合を「③全員が直後避難する場合」としています。

試算結果

【L2】理論上最大クラスにおいては、
津波からすぐに避難する割合が、
20%→70%：約26,000人の死者数減少
20%→100%：約31,600人の死者数減少

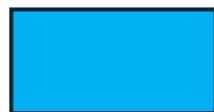
【L1】過去最大クラスにおいては、
津波からすぐに避難する割合が、
20%→70%：約18,000人の死者数減少
20%→100%：約23,700人の死者数減少



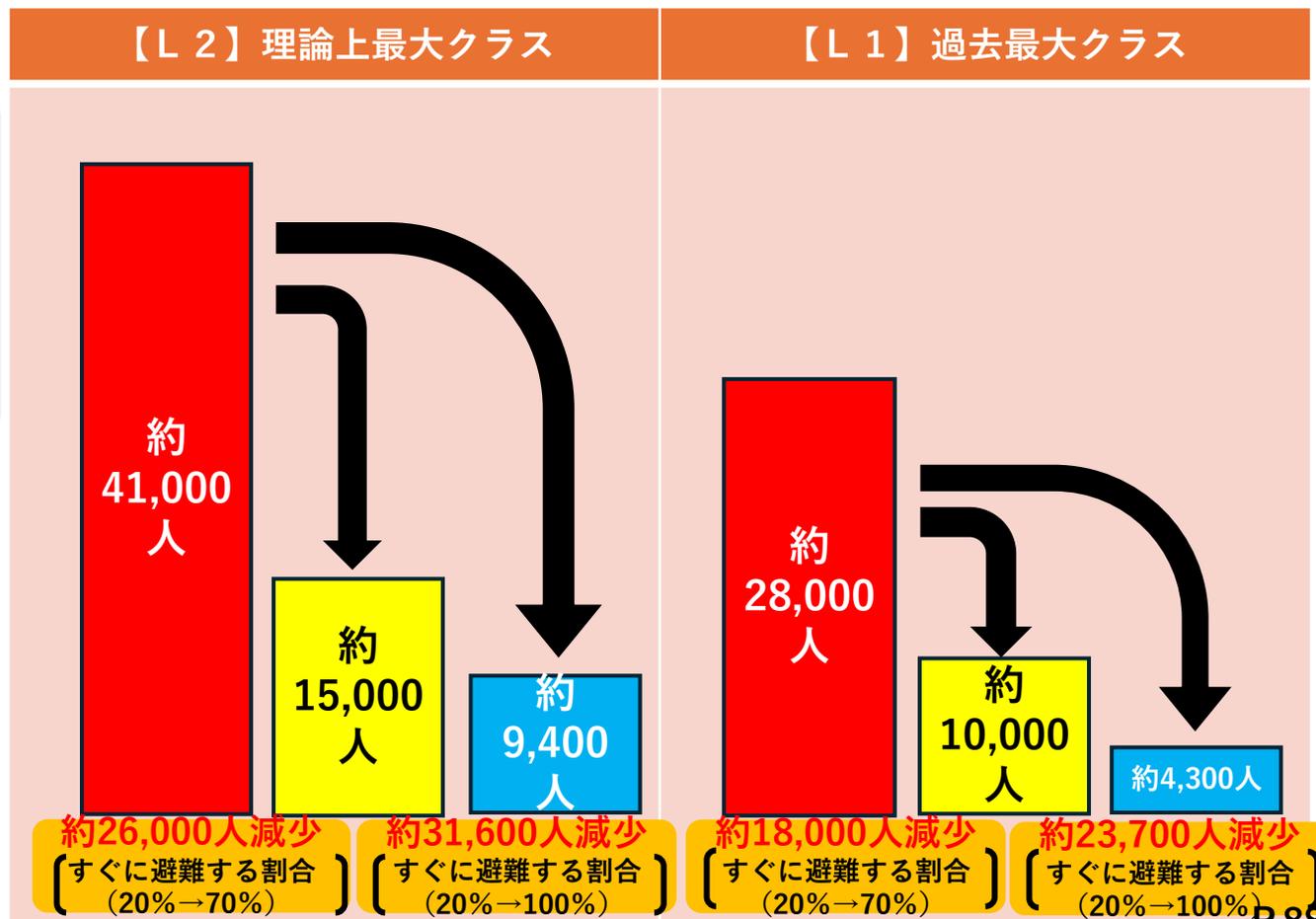
避難意識が低い場合
（「すぐに避難」20%）



避難意識が高い場合
（「すぐに避難」70%）



全員が直後避難する場合
（「すぐに避難」100%）



3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

【参考】津波からの避難意識向上と津波による死者数に関する試算（市町別）

【L2】理論上最大クラス

（単位：人）

市町	津波による死者数（三重県R7）		
	避難意識低 （すぐに避難20%）	避難意識高 （すぐに避難70%）	全員直後避難 （すぐに避難100%）
桑名市	約2,900	約800	約700
いなべ市	—	—	—
木曾岬町	約500	約50	約50
東員町	—	—	—
四日市市	約500	約100	約100
菰野町	—	—	—
朝日町	約10	約10	約10
川越町	約600	約100	約100
鈴鹿市	約500	約90	約90
亀山市	—	—	—
津市	約3,400	約400	約400
松阪市	約2,000	約400	約400
多気町	—	—	—
明和町	約400	約100	約90
大台町	—	—	—

市町	津波による死者数（三重県R7）		
	避難意識低 （すぐに避難20%）	避難意識高 （すぐに避難70%）	全員直後避難 （すぐに避難100%）
伊賀市	—	—	—
名張市	—	—	—
伊勢市	約4,900	約1,300	約1,100
鳥羽市	約1,000	約200	約70
志摩市	約4,000	約2,300	約1,500
玉城町	—	—	—
南伊勢町	約4,100	約1,600	約500
大紀町	約1,000	約400	約100
度会町	—	—	—
尾鷲市	約4,900	約2,400	約1,200
紀北町	約8,100	約3,900	約1,700
熊野市	約800	約400	約400
御浜町	約400	約30	約20
紀宝町	約900	約800	約700
合計	約41,000	約15,000	約9,400

地震動：陸側 津波：ケース⑥ 発災時期：冬・深夜 「—」：わずか（5未満）
 ※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合があります。

3. リスク評価 (2) リスク評価結果【人的被害】

【参考】津波からの避難意識向上と津波による死者数に関する試算（市町別）

【L1】過去最大クラス

（単位：人）

市町	津波による死者数（三重県R7）		
	避難意識低 （すぐに避難20%）	避難意識高 （すぐに避難70%）	全員直後避難 （すぐに避難100%）
桑名市	約400	約30	約30
いなべ市	—	—	—
木曽岬町	約10	—	—
東員町	—	—	—
四日市市	約100	約10	約10
菰野町	—	—	—
朝日町	—	—	—
川越町	約200	約20	約20
鈴鹿市	約100	約10	約10
亀山市	—	—	—
津市	約1,400	約30	約30
松阪市	約800	約20	約20
多気町	—	—	—
明和町	約300	約10	約10
大台町	—	—	—

市町	津波による死者数（三重県R7）		
	避難意識低 （すぐに避難20%）	避難意識高 （すぐに避難70%）	全員直後避難 （すぐに避難100%）
伊賀市	—	—	—
名張市	—	—	—
伊勢市	約2,300	約200	約100
鳥羽市	約900	約100	約40
志摩市	約2,400	約1,200	約500
玉城町	—	—	—
南伊勢町	約4,000	約1,600	約400
大紀町	約1,200	約500	約80
度会町	—	—	—
尾鷲市	約4,800	約2,400	約1,100
紀北町	約7,900	約3,800	約1,400
熊野市	約400	約300	約300
御浜町	約20	—	—
紀宝町	約200	約200	約200
合計	約28,000	約10,000	約4,300

発災時期：冬・深夜 「—」：わずか（5未満）

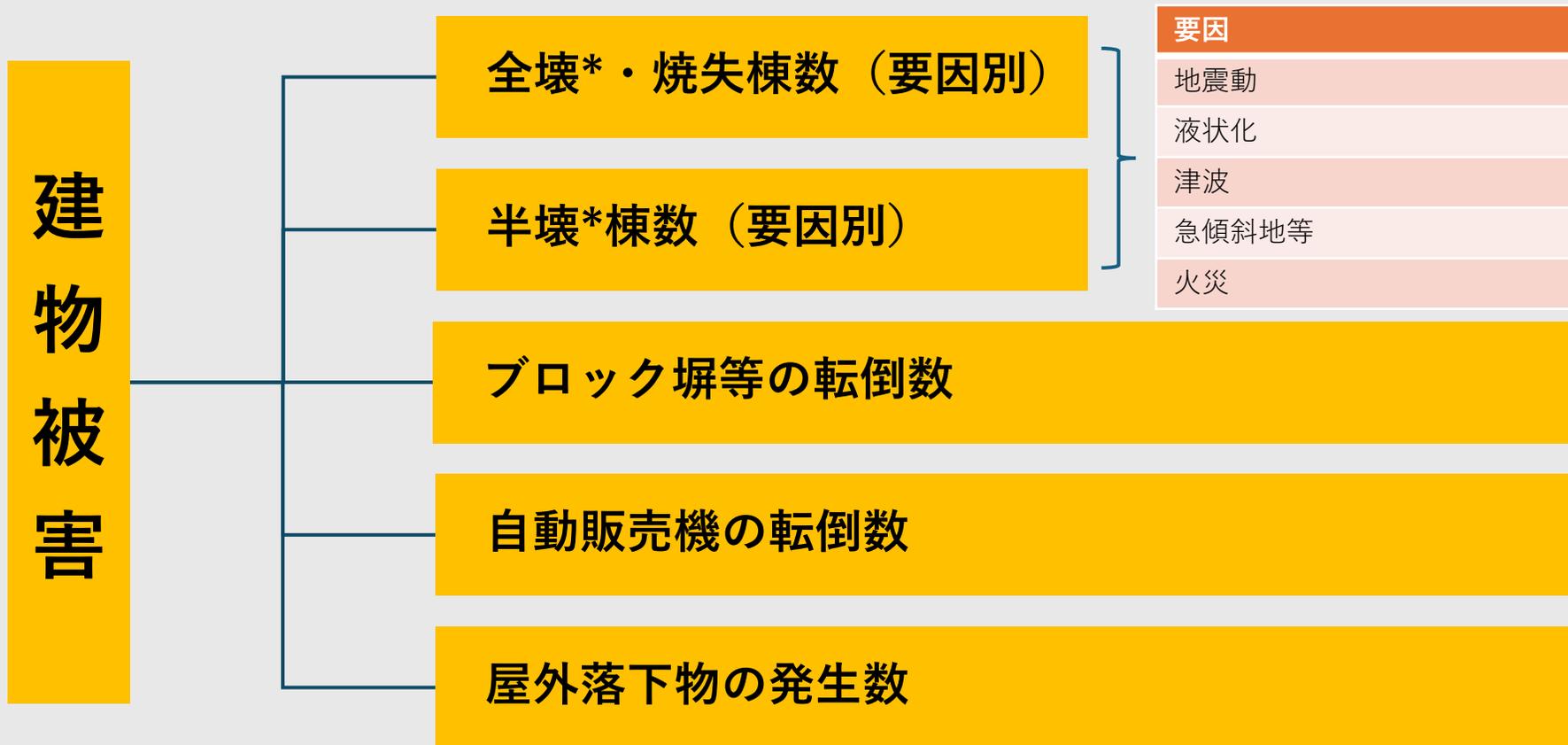
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合があります。

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

目的

地震による建物被害は人的被害につながる大きな要因の一つです。建物の使用が不可能になることにより、その後の生活再建の妨げにもなります。また、過去の大規模地震災害の際に発生したブロック塀や自動販売機等の転倒数も推計し、対策検討や住民への啓発に繋げることを目的としています。こうしたことから、建物等の地震対策を検討するため、要因別の被害規模を推計しています。

定量評価項目

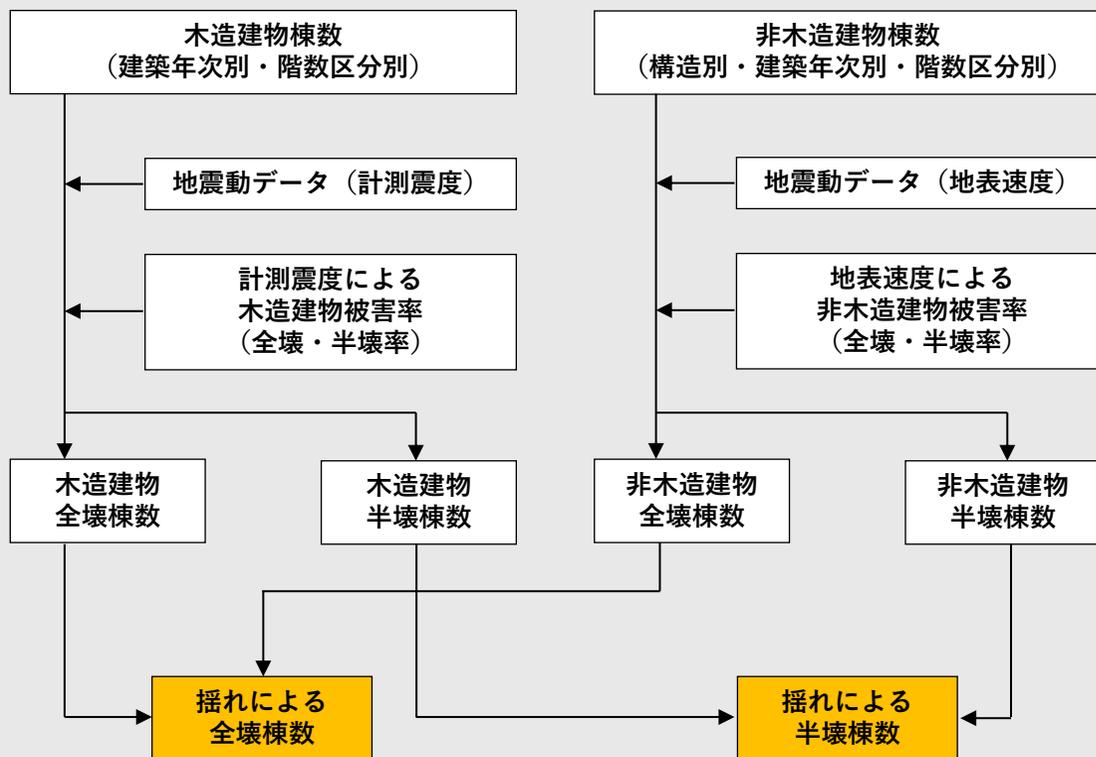


3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

推計手法

揺れによる全壊棟数・半壊棟数

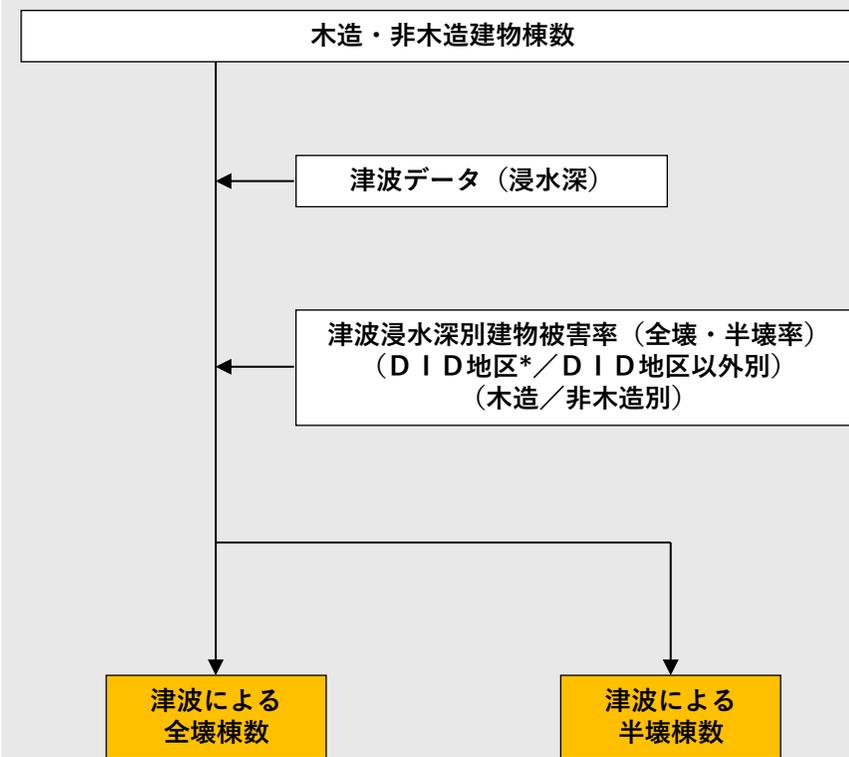
- ・建築物の構造と位置のデータに地震のデータを重ね合わせる。
- ・構造ごとに被害率を乗じて全壊・半壊の建物数を算出する。



※建物の構造形式の違いについては、算出にあたって考慮できていない。

津波による全壊棟数・半壊棟数

- ・建物の位置のデータに津波の浸水の深さを重ね合わせる。
- ・浸水の深さや地区の人口、構造ごとの被害率を乗じて全壊・半壊の建物数を算出する。



3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

全壊・焼失棟数【L2】

概観

県全体で約222,000棟の全壊・焼失と推計され、そのうち揺れによる被害が約152,000棟で全体の6割以上を占めています。

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果					合計
		全壊・焼失棟数					
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	
北勢	桑名市	約 4,800	約 900	約 5,500	約 40	約 500	約 12,000
	いなべ市	約 600	-	-	約 20	約 70	約 700
	木曽岬町	約 700	約 100	約 1,800	-	約 10	約 2,700
	東員町	約 600	-	-	-	約 90	約 600
	四日市市	約 20,000	約 900	約 600	約 200	約 3,700	約 25,000
	菰野町	約 1,400	-	-	-	約 100	約 1,500
	朝日町	約 500	約 30	約 20	-	約 100	約 700
	川越町	約 800	約 100	約 1,500	-	約 100	約 2,500
	鈴鹿市	約 7,800	約 100	約 500	約 10	約 2,800	約 11,000
亀山市	約 1,000	-	-	約 20	約 10	約 1,000	
中勢	津市	約 19,000	約 800	約 5,100	約 200	約 5,400	約 31,000
	松阪市	約 20,000	約 400	約 2,000	約 60	約 3,200	約 25,000
	多気町	約 4,200	-	-	約 30	約 200	約 4,400
	明和町	約 4,400	約 10	約 400	-	約 900	約 5,700
	大台町	約 1,500	-	-	-	約 10	約 1,500
伊賀	伊賀市	約 900	-	-	約 80	約 10	約 1,000
	名張市	約 400	-	-	約 40	-	約 500
伊勢志摩	伊勢市	約 26,000	約 300	約 2,900	約 70	約 4,300	約 34,000
	鳥羽市	約 3,200	-	約 1,600	約 100	約 300	約 5,200
	志摩市	約 8,800	約 10	約 4,900	約 70	約 1,100	約 15,000
	玉城町	約 2,700	-	-	-	約 300	約 3,000
	南伊勢町	約 5,000	約 20	約 2,900	約 500	約 100	約 8,400
	大紀町	約 1,200	約 10	約 800	約 100	-	約 2,100
	度会町	約 1,200	-	-	約 20	約 50	約 1,200
東紀州	尾鷲市	約 4,400	-	約 3,500	約 200	約 400	約 8,500
	紀北町	約 5,100	約 70	約 4,400	約 300	約 100	約 10,000
	熊野市	約 3,800	-	約 300	約 200	約 300	約 4,600
	御浜町	約 1,600	-	約 50	約 10	約 100	約 1,800
	紀宝町	約 1,000	-	約 200	約 10	約 50	約 1,200
県計		約 152,000	約 3,800	約 39,000	約 2,300	約 24,000	約 222,000

「-」:わずか（5未満）

地震動：陸側

津波：ケース⑦

時期：冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

全壊・焼失棟数【L1】

概観

県全体で約55,000棟の全壊・焼失と推計され、そのうち津波による被害が約32,000棟で全体の5割以上を占めています。

地域区分	市町名	今回想定結果					合計
		全壊・焼失棟数					
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	
北勢	桑名市	約 500	約 900	約 2,300	約 40	約 10	約 3,700
	いなべ市	約 20	-	-	-	-	約 20
	木曾岬町	約 50	約 100	約 90	-	-	約 300
	東員町	約 30	-	-	-	-	約 30
	四日市市	約 1,600	約 900	約 500	約 20	約 10	約 2,900
	菰野町	約 40	-	-	-	-	約 40
	朝日町	約 60	約 30	約 10	-	-	約 100
	川越町	約 90	約 100	約 1,300	-	-	約 1,500
	鈴鹿市	約 800	約 100	約 80	-	約 10	約 1,000
	亀山市	約 60	-	-	約 10	-	約 70
中勢	津市	約 1,800	約 800	約 1,700	約 90	約 20	約 4,400
	松阪市	約 1,800	約 300	約 1,300	約 60	約 10	約 3,600
	多気町	約 400	-	-	約 20	-	約 400
	明和町	約 400	約 10	約 1,300	-	-	約 1,700
	大台町	約 200	-	-	-	-	約 200
伊賀	伊賀市	約 40	-	-	約 10	-	約 50
	名張市	約 30	-	-	約 90	-	約 100
伊勢志摩	伊勢市	約 2,300	約 300	約 5,300	約 70	約 20	約 8,000
	鳥羽市	約 600	-	約 1,900	約 100	-	約 2,600
	志摩市	約 1,800	-	約 3,200	約 100	約 10	約 5,100
	玉城町	約 300	-	-	-	-	約 300
	南伊勢町	約 1,400	約 20	約 3,300	約 400	-	約 5,100
	大紀町	約 200	約 10	約 800	約 80	-	約 1,100
	度会町	約 100	-	-	約 10	-	約 100
東紀州	尾鷲市	約 300	-	約 4,100	約 200	-	約 4,600
	紀北町	約 1,300	約 70	約 4,400	約 300	-	約 6,000
	熊野市	約 500	-	約 400	約 200	-	約 1,000
	御浜町	約 500	-	約 10	約 10	-	約 500
	紀宝町	約 700	-	約 20	約 30	-	約 800
県計		約 18,000	約 3,700	約 32,000	約 1,700	約 100	約 55,000

「-」:わずか(5未満)

時期:冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

全壊・焼失棟数【L2】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果						前回想定結果					
		全壊・焼失棟数					合計	全壊・焼失棟数					合計
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	
北勢	桑名市	約 4,800	約 900	約 5,500	約 40	約 500	約 12,000	約 5,500	約 1,200	約 5,600	約 20	約 400	約 13,000
	いなべ市	約 600	-	-	約 20	約 70	約 700	約 500	-	-	約 10	約 10	約 600
	木曽岬町	約 700	約 100	約 1,800	-	約 10	約 2,700	約 700	約 50	約 1,700	-	-	約 2,400
	東員町	約 600	-	-	-	約 90	約 600	約 500	約 40	-	-	約 20	約 600
	四日市市	約 20,000	約 900	約 600	約 200	約 3,700	約 25,000	約 19,000	約 900	約 600	約 40	約 10,000	約 31,000
	菟野町	約 1,400	-	-	-	約 100	約 1,500	約 500	約 10	-	-	約 10	約 600
	朝日町	約 500	約 30	約 20	-	約 100	約 700	約 400	約 50	約 20	-	約 70	約 500
	川越町	約 800	約 100	約 1,500	-	約 100	約 2,500	約 800	約 200	約 1,100	-	約 80	約 2,300
	鈴鹿市	約 7,800	約 100	約 500	約 10	約 2,800	約 11,000	約 9,400	約 100	約 600	約 10	約 400	約 11,000
亀山市	約 1,000	-	-	約 20	約 10	約 1,000	約 1,400	約 10	-	約 20	約 20	約 1,400	
中勢	津市	約 19,000	約 800	約 5,100	約 200	約 5,400	約 31,000	約 18,000	約 700	約 5,100	約 100	約 8,500	約 32,000
	松阪市	約 20,000	約 400	約 2,000	約 60	約 3,200	約 25,000	約 22,000	約 900	約 2,100	約 40	約 7,200	約 32,000
	多気町	約 4,200	-	-	約 30	約 200	約 4,400	約 2,200	-	-	約 20	約 200	約 2,300
	明和町	約 4,400	約 10	約 400	-	約 900	約 5,700	約 4,300	約 100	約 300	-	約 500	約 5,300
	大台町	約 1,500	-	-	-	約 10	約 1,500	約 1,600	-	-	-	約 10	約 1,600
伊賀	伊賀市	約 900	-	-	約 80	約 10	約 1,000	約 1,900	約 20	-	約 40	約 20	約 1,900
	名張市	約 400	-	-	約 40	-	約 500	約 600	-	-	約 10	約 10	約 600
伊勢志摩	伊勢市	約 26,000	約 300	約 2,900	約 70	約 4,300	約 34,000	約 32,000	約 1,300	約 2,100	約 70	約 5,100	約 41,000
	鳥羽市	約 3,200	-	約 1,600	約 100	約 300	約 5,200	約 4,200	約 40	約 1,300	約 100	約 80	約 5,800
	志摩市	約 8,800	約 10	約 4,900	約 70	約 1,100	約 15,000	約 15,000	約 80	約 4,500	約 100	約 300	約 20,000
	玉城町	約 2,700	-	-	-	約 300	約 3,000	約 2,800	約 10	-	-	約 80	約 2,900
	南伊勢町	約 5,000	約 20	約 2,900	約 500	約 100	約 8,400	約 5,100	約 200	約 3,100	約 100	約 60	約 8,500
	大紀町	約 1,200	約 10	約 800	約 100	-	約 2,100	約 1,800	-	約 800	約 40	約 10	約 2,600
	度会町	約 1,200	-	-	約 20	約 50	約 1,200	約 1,500	-	-	約 10	約 30	約 1,500
	尾鷲市	約 4,400	-	約 3,500	約 200	約 400	約 8,500	約 6,100	-	約 2,900	約 80	約 300	約 9,500
東紀州	紀北町	約 5,100	約 70	約 4,400	約 300	約 100	約 10,000	約 4,400	約 200	約 4,300	約 70	約 30	約 9,000
	熊野市	約 3,800	-	約 300	約 200	約 300	約 4,600	約 4,400	約 30	約 300	約 90	約 100	約 5,000
	御浜町	約 1,600	-	約 50	約 10	約 100	約 1,800	約 2,700	約 30	約 60	約 10	約 20	約 2,900
	紀宝町	約 1,000	-	約 200	約 10	約 50	約 1,200	約 1,000	約 20	約 200	約 30	約 20	約 1,300
県計	約 152,000	約 3,800	約 39,000	約 2,300	約 24,000	約 222,000	約 170,000	約 6,200	約 37,000	約 1,100	約 34,000	約 248,000	

「-」:わずか(5未満)地震動:陸側 津波:ケース⑦ 時期:冬・夕方
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

○【L2】理論上最大クラス
○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

全壊・焼失棟数【L1】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果						前回想定結果					
		全壊・焼失棟数					合計	全壊・焼失棟数					合計
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	
北勢	桑名市	約 500	約 900	約 2,300	約 40	約 10	約 3,700	約 500	約 1,200	約 4,900	約 10	約 10	約 6,600
	いなべ市	約 20	-	-	-	-	約 20	約 10	-	-	-	-	約 20
	木曽岬町	約 50	約 100	約 90	-	-	約 300	約 50	約 50	約 2,000	-	-	約 2,100
	東員町	約 30	-	-	-	-	約 30	約 20	約 40	-	-	-	約 50
	四日市市	約 1,600	約 900	約 500	約 20	約 10	約 2,900	約 900	約 900	約 500	約 10	約 100	約 2,400
	菟野町	約 40	-	-	-	-	約 40	約 10	-	-	-	-	約 20
	朝日町	約 60	約 30	約 10	-	-	約 100	約 30	約 50	約 10	-	-	約 90
	川越町	約 90	約 100	約 1,300	-	-	約 1,500	約 80	約 200	約 900	-	-	約 1,200
	鈴鹿市	約 800	約 100	約 80	-	約 10	約 1,000	約 400	約 100	約 100	-	約 20	約 700
亀山市	約 60	-	-	約 10	-	約 70	約 40	約 10	-	-	-	約 50	
中勢	津市	約 1,800	約 800	約 1,700	約 90	約 20	約 4,400	約 1,100	約 600	約 2,100	約 40	約 30	約 3,900
	松阪市	約 1,800	約 300	約 1,300	約 60	約 10	約 3,600	約 2,100	約 800	約 1,600	約 20	約 30	約 4,600
	多気町	約 400	-	-	約 20	-	約 400	約 100	-	-	約 10	-	約 100
	明和町	約 400	約 10	約 1,300	-	-	約 1,700	約 400	約 100	約 1,100	-	約 10	約 1,700
	大台町	約 200	-	-	-	-	約 200	約 200	-	-	-	-	約 200
伊賀	伊賀市	約 40	-	-	約 10	-	約 50	約 50	約 10	-	-	-	約 60
	名張市	約 30	-	-	約 90	-	約 100	約 20	-	-	-	-	約 20
伊勢志摩	伊勢市	約 2,300	約 300	約 5,300	約 70	約 20	約 8,000	約 5,100	約 1,200	約 5,500	約 50	約 1,700	約 14,000
	鳥羽市	約 600	-	約 1,900	約 100	-	約 2,600	約 800	約 40	約 2,000	約 90	約 10	約 2,900
	志摩市	約 1,800	-	約 3,200	約 100	約 10	約 5,100	約 4,200	約 80	約 3,800	約 90	約 60	約 8,200
	玉城町	約 300	-	-	-	-	約 300	約 300	約 10	-	-	約 10	約 400
	南伊勢町	約 1,400	約 20	約 3,300	約 400	-	約 5,100	約 1,600	約 200	約 3,600	約 100	約 20	約 5,500
	大紀町	約 200	約 10	約 800	約 80	-	約 1,100	約 300	-	約 800	約 30	-	約 1,100
	度会町	約 100	-	-	約 10	-	約 100	約 200	-	-	約 10	-	約 200
東紀州	尾鷲市	約 300	-	約 4,100	約 200	-	約 4,600	約 600	-	約 4,300	約 50	-	約 5,000
	紀北町	約 1,300	約 70	約 4,400	約 300	-	約 6,000	約 1,200	約 200	約 4,300	約 50	-	約 5,700
	熊野市	約 500	-	約 400	約 200	-	約 1,000	約 1,000	約 30	約 400	約 70	約 20	約 1,500
	御浜町	約 500	-	約 10	約 10	-	約 500	約 1,200	約 30	約 20	約 10	約 10	約 1,300
	紀宝町	約 700	-	約 20	約 30	-	約 800	約 800	約 20	約 10	約 20	約 10	約 900
県計	約 18,000	約 3,700	約 32,000	約 1,700	約 100	約 55,000	約 23,000	約 5,900	約 38,000	約 700	約 2,100	約 70,000	

「-」:わずか(5未満) 時期:冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

- 【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

全壊・焼失棟数
(各市町の最大値)

それぞれ津波7ケース(①②⑥⑦⑧⑨⑩)の組合せのうち要因ごとの最大値を抽出した数値を記載しています。したがって、合計は本表の市町毎または想定項目の合計と一致するものではありません。

地域区分	市町名	全壊・焼失棟数						全壊・焼失棟数の市町計が最大となるケース		
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地等	火災	合計	地震ケース	津波ケース	季節・時間帯
北勢	桑名市	約 4,800	約 900	約 5,500	約 40	約 500	約 12,000	陸側	津波ケース⑦	冬・夕
	いなべ市	約 600	-	-	約 20	約 70	約 700	陸側	-	冬・夕
	木曽岬町	約 700	約 100	約 1,800	-	約 10	約 2,700	陸側	津波ケース⑦	冬・夕
	東員町	約 600	-	-	-	約 90	約 600	陸側	-	冬・夕
	四日市市	約 20,000	約 900	約 700	約 200	約 3,700	約 25,000	陸側	津波ケース①	冬・夕
	菰野町	約 1,400	-	-	-	約 100	約 1,500	陸側	-	冬・夕
	朝日町	約 500	約 30	約 20	-	約 100	約 700	陸側	津波ケース⑥	冬・夕
	川越町	約 800	約 100	約 1,600	-	約 100	約 2,600	陸側	津波ケース⑥	冬・夕
	鈴鹿市	約 7,800	約 100	約 500	約 10	約 2,800	約 11,000	陸側	津波ケース②	冬・夕
亀山市	約 1,000	-	-	約 20	約 10	約 1,000	陸側	-	冬・夕	
中勢	津市	約 19,000	約 800	約 5,700	約 200	約 5,400	約 31,000	陸側	津波ケース②	冬・夕
	松阪市	約 20,000	約 400	約 2,200	約 60	約 3,100	約 26,000	陸側	津波ケース⑨	冬・夕
	多気町	約 4,200	-	-	約 30	約 200	約 4,400	陸側	-	冬・夕
	明和町	約 4,400	約 10	約 1,100	-	約 800	約 6,300	陸側	津波ケース⑨	冬・夕
	大台町	約 1,500	-	-	-	約 10	約 1,500	陸側	-	冬・夕
伊賀	伊賀市	約 900	-	-	約 80	約 10	約 1,000	陸側	-	冬・夕
	名張市	約 400	-	-	約 40	-	約 500	陸側	-	冬・夕
伊勢志摩	伊勢市	約 26,000	約 300	約 3,800	約 70	約 4,100	約 34,000	陸側	津波ケース⑨	冬・夕
	鳥羽市	約 3,200	-	約 2,100	約 100	約 300	約 5,600	陸側	津波ケース①	冬・夕
	志摩市	約 8,800	約 10	約 4,900	約 70	約 1,100	約 15,000	陸側	津波ケース⑦	冬・夕
	玉城町	約 2,700	-	-	-	約 300	約 3,000	陸側	-	冬・夕
	南伊勢町	約 5,000	約 20	約 2,900	約 500	約 100	約 8,400	陸側	津波ケース⑦	冬・夕
	大紀町	約 1,200	約 10	約 800	約 100	-	約 2,100	陸側	津波ケース⑦	冬・夕
	度会町	約 1,200	-	-	約 20	約 50	約 1,200	陸側	-	冬・夕
東紀州	尾鷲市	約 4,400	-	約 3,500	約 200	約 400	約 8,500	陸側	津波ケース⑦	冬・夕
	紀北町	約 5,100	約 70	約 4,400	約 300	約 100	約 10,000	陸側	津波ケース⑦	冬・夕
	熊野市	約 3,800	-	約 500	約 200	約 300	約 4,800	陸側	津波ケース⑥	冬・夕
	御浜町	約 1,600	-	約 300	約 10	約 100	約 2,100	陸側	津波ケース⑥	冬・夕
	紀宝町	約 1,000	-	約 300	約 10	約 50	約 1,300	陸側	津波ケース⑥	冬・夕
県計	約 152,000	約 3,800	約 39,000	約 2,300	約 24,000	約 222,000	陸側	津波ケース⑦	冬・夕	

「-」:わずか(5未満) ※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

半壊棟数【L2】

概観

県全体で約188,000棟の半壊と推計され、そのうち揺れによる被害が約131,000棟で全体の約7割を占めています。

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果				
		半壊棟数				合計
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	
北勢	桑名市	約 7,100	約 2,100	約 6,700	約 100	約 16,000
	いなべ市	約 2,400	-	-	約 40	約 2,400
	木曽岬町	約 200	約 200	約 300	-	約 700
	東員町	約 1,400	-	-	-	約 1,400
	四日市市	約 22,000	約 3,300	約 6,600	約 600	約 33,000
	菰野町	約 3,400	約 10	-	約 10	約 3,400
	朝日町	約 800	約 100	約 200	-	約 1,100
	川越町	約 600	約 500	約 2,100	-	約 3,200
	鈴鹿市	約 12,000	約 500	約 3,700	約 20	約 16,000
亀山市	約 3,000	-	-	約 50	約 3,000	
中勢	津市	約 23,000	約 1,900	約 11,000	約 400	約 36,000
	松阪市	約 13,000	約 1,000	約 3,500	約 100	約 18,000
	多気町	約 2,300	-	-	約 70	約 2,400
	明和町	約 2,400	約 10	約 800	-	約 3,200
	大台町	約 1,600	-	-	-	約 1,600
伊賀	伊賀市	約 4,600	-	-	約 200	約 4,700
	名張市	約 2,200	-	-	約 80	約 2,300
伊勢志摩	伊勢市	約 8,400	約 300	約 3,300	約 200	約 12,000
	鳥羽市	約 1,900	-	約 700	約 300	約 2,900
	志摩市	約 5,300	約 10	約 900	約 200	約 6,400
	玉城町	約 1,400	-	-	-	約 1,400
	南伊勢町	約 1,100	約 10	約 200	約 1,100	約 2,300
	大紀町	約 1,100	-	約 30	約 200	約 1,300
	度会町	約 900	-	-	約 40	約 900
東紀州	尾鷲市	約 1,900	-	約 300	約 600	約 2,800
	紀北町	約 1,300	約 10	約 300	約 600	約 2,200
	熊野市	約 3,100	-	約 100	約 500	約 3,700
	御浜町	約 1,700	約 10	約 90	約 20	約 1,800
	紀宝町	約 1,500	-	約 300	約 30	約 1,900
県計		約 131,000	約 10,000	約 41,000	約 5,400	約 188,000

「-」:わずか(5未満)

地震動:陸側

津波:ケース⑦

時期:冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

半壊棟数【L1】

概観

県全体で約138,000棟の半壊と推計され、そのうち揺れによる被害が約62,000棟、津波による被害が約56,000棟で、合わせて全体の8割以上を占めています。

- 【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果				
		半壊棟数				合計
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	
北勢	桑名市	約 2,700	約 3,400	約 7,500	約 100	約 14,000
	いなべ市	約 300	-	-	-	約 300
	木曽岬町	約 200	約 800	約 700	-	約 1,700
	東員町	約 200	-	-	-	約 200
	四日市市	約 7,700	約 4,100	約 6,600	約 60	約 18,000
	菰野町	約 400	-	-	-	約 400
	朝日町	約 300	約 100	約 100	-	約 600
	川越町	約 300	約 600	約 2,900	-	約 3,800
	鈴鹿市	約 4,000	約 600	約 2,300	約 10	約 6,900
亀山市	約 600	-	-	約 10	約 600	
中勢	津市	約 9,200	約 3,200	約 13,000	約 200	約 25,000
	松阪市	約 7,400	約 1,600	約 4,700	約 100	約 14,000
	多気町	約 1,600	-	-	約 40	約 1,700
	明和町	約 1,600	約 20	約 1,400	-	約 3,000
	大台町	約 900	-	-	-	約 900
伊賀	伊賀市	約 600	-	-	約 10	約 600
	名張市	約 300	-	-	約 200	約 500
伊勢志摩	伊勢市	約 6,600	約 1,100	約 11,000	約 200	約 19,000
	鳥羽市	約 1,300	約 10	約 1,100	約 300	約 2,700
	志摩市	約 4,800	約 20	約 2,000	約 200	約 7,100
	玉城町	約 1,000	-	-	-	約 1,000
	南伊勢町	約 1,400	約 20	約 700	約 800	約 3,000
	大紀町	約 700	-	約 80	約 200	約 900
	度会町	約 500	-	-	約 30	約 500
東紀州	尾鷲市	約 1,000	-	約 800	約 400	約 2,300
	紀北町	約 1,600	約 40	約 1,300	約 600	約 3,600
	熊野市	約 2,100	-	約 90	約 400	約 2,500
	御浜町	約 1,400	約 10	約 20	約 20	約 1,400
	紀宝町	約 1,400	-	約 100	約 80	約 1,600
県計		約 62,000	約 16,000	約 56,000	約 4,100	約 138,000

「-」:わずか(5未満)

時期:冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

半壊棟数【L2】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果					前回想定結果				
		半壊棟数				合計	半壊棟数				合計
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	
北勢	桑名市	約 7,100	約 2,100	約 6,700	約 100	約 16,000	約 9,000	約 3,000	約 6,600	約 40	約 19,000
	いなべ市	約 2,400	-	-	約 40	約 2,400	約 2,400	約 20	-	約 20	約 2,400
	木曽岬町	約 200	約 200	約 300	-	約 700	約 200	約 80	約 400	-	約 700
	東員町	約 1,400	-	-	-	約 1,400	約 1,500	約 100	-	-	約 1,600
	四日市市	約 22,000	約 3,300	約 6,600	約 600	約 33,000	約 22,000	約 2,200	約 4,800	約 90	約 29,000
	菰野町	約 3,400	約 10	-	約 10	約 3,400	約 2,400	約 40	-	約 10	約 2,400
	朝日町	約 800	約 100	約 200	-	約 1,100	約 800	約 200	約 100	-	約 1,100
	川越町	約 600	約 500	約 2,100	-	約 3,200	約 700	約 600	約 1,500	-	約 2,700
	鈴鹿市	約 12,000	約 500	約 3,700	約 20	約 16,000	約 18,000	約 500	約 4,300	約 20	約 22,000
亀山市	約 3,000	-	-	約 50	約 3,000	約 4,100	約 30	-	約 50	約 4,200	
中勢	津市	約 23,000	約 1,900	約 11,000	約 400	約 36,000	約 22,000	約 1,100	約 8,700	約 300	約 32,000
	松阪市	約 13,000	約 1,000	約 3,500	約 100	約 18,000	約 15,000	約 1,300	約 3,100	約 90	約 19,000
	多気町	約 2,300	-	-	約 70	約 2,400	約 2,100	約 10	-	約 40	約 2,100
	明和町	約 2,400	約 10	約 800	-	約 3,200	約 2,600	約 200	約 500	-	約 3,300
	大台町	約 1,600	-	-	-	約 1,600	約 1,800	-	-	-	約 1,800
伊賀	伊賀市	約 4,600	-	-	約 200	約 4,700	約 6,600	約 80	-	約 100	約 6,800
	名張市	約 2,200	-	-	約 80	約 2,300	約 2,600	約 10	-	約 30	約 2,600
伊勢志摩	伊勢市	約 8,400	約 300	約 3,300	約 200	約 12,000	約 7,200	約 900	約 1,800	約 200	約 10,000
	鳥羽市	約 1,900	-	約 700	約 300	約 2,900	約 2,200	約 50	約 600	約 300	約 3,100
	志摩市	約 5,300	約 10	約 900	約 200	約 6,400	約 6,000	約 80	約 700	約 300	約 7,100
	玉城町	約 1,400	-	-	-	約 1,400	約 1,600	約 30	-	-	約 1,600
	南伊勢町	約 1,100	約 10	約 200	約 1,100	約 2,300	約 1,200	約 30	約 200	約 300	約 1,700
	大紀町	約 1,100	-	約 30	約 200	約 1,300	約 1,600	-	約 40	約 90	約 1,700
	度会町	約 900	-	-	約 40	約 900	約 1,000	約 10	-	約 30	約 1,000
東紀州	尾鷲市	約 1,900	-	約 300	約 600	約 2,800	約 2,000	-	約 200	約 200	約 2,400
	紀北町	約 1,300	約 10	約 300	約 600	約 2,200	約 1,200	約 90	約 200	約 200	約 1,700
	熊野市	約 3,100	-	約 100	約 500	約 3,700	約 3,700	約 40	約 100	約 200	約 4,100
	御浜町	約 1,700	約 10	約 90	約 20	約 1,800	約 1,700	約 40	約 80	約 20	約 1,900
	紀宝町	約 1,500	-	約 300	約 30	約 1,900	約 1,800	約 30	約 400	約 60	約 2,300
県計	約 131,000	約 10,000	約 41,000	約 5,400	約 188,000	約 144,000	約 11,000	約 34,000	約 2,500	約 191,000	

「-」:わずか(5未満) 地震動:陸側 津波:ケース⑦ 時期:冬・夕方
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

○【L2】理論上最大クラス
○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

半壊棟数【L1】
(前回との比較)

地域区分	市町名	今回想定結果					前回想定結果				
		半壊棟数				合計	半壊棟数				合計
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	
北勢	桑名市	約 2,700	約 3,400	約 7,500	約 100	約 14,000	約 2,600	約 3,600	約 8,900	約 20	約 15,000
	いなべ市	約 300	-	-	-	約 300	約 200	約 20	-	-	約 200
	木曾岬町	約 200	約 800	約 700	-	約 1,700	約 90	約 100	約 700	-	約 900
	東員町	約 200	-	-	-	約 200	約 100	約 100	-	-	約 300
	四日市市	約 7,700	約 4,100	約 6,600	約 60	約 18,000	約 6,100	約 3,300	約 6,600	約 10	約 16,000
	菟野町	約 400	-	-	-	約 400	約 200	約 30	-	-	約 200
	朝日町	約 300	約 100	約 100	-	約 600	約 200	約 200	約 100	-	約 500
	川越町	約 300	約 600	約 2,900	-	約 3,800	約 300	約 700	約 2,200	-	約 3,300
	鈴鹿市	約 4,000	約 600	約 2,300	約 10	約 6,900	約 3,800	約 500	約 3,000	約 10	約 7,400
亀山市	約 600	-	-	約 10	約 600	約 500	約 30	-	約 10	約 600	
中勢	津市	約 9,200	約 3,200	約 13,000	約 200	約 25,000	約 7,800	約 2,000	約 13,000	約 100	約 23,000
	松阪市	約 7,400	約 1,600	約 4,700	約 100	約 14,000	約 8,900	約 2,900	約 5,200	約 60	約 17,000
	多気町	約 1,600	-	-	約 40	約 1,700	約 900	約 20	-	約 30	約 900
	明和町	約 1,600	約 20	約 1,400	-	約 3,000	約 1,600	約 300	約 1,000	-	約 2,900
	大台町	約 900	-	-	-	約 900	約 1,000	-	-	-	約 1,000
伊賀	伊賀市	約 600	-	-	約 10	約 600	約 500	約 50	-	約 10	約 500
	名張市	約 300	-	-	約 200	約 500	約 200	約 10	-	-	約 200
伊勢志摩	伊勢市	約 6,600	約 1,100	約 11,000	約 200	約 19,000	約 9,400	約 3,200	約 9,500	約 100	約 22,000
	鳥羽市	約 1,300	約 10	約 1,100	約 300	約 2,700	約 1,600	約 80	約 1,000	約 200	約 2,900
	志摩市	約 4,800	約 20	約 2,000	約 200	約 7,100	約 6,400	約 200	約 1,900	約 200	約 8,700
	玉城町	約 1,000	-	-	-	約 1,000	約 1,100	約 40	-	-	約 1,100
	南伊勢町	約 1,400	約 20	約 700	約 800	約 3,000	約 1,500	約 100	約 600	約 300	約 2,400
	大紀町	約 700	-	約 80	約 200	約 900	約 1,100	-	約 80	約 70	約 1,200
	度会町	約 500	-	-	約 30	約 500	約 700	約 10	-	約 20	約 700
東紀州	尾鷲市	約 1,000	-	約 800	約 400	約 2,300	約 1,400	-	約 800	約 100	約 2,300
	紀北町	約 1,600	約 40	約 1,300	約 600	約 3,600	約 1,400	約 300	約 1,100	約 100	約 2,900
	熊野市	約 2,100	-	約 90	約 400	約 2,500	約 2,800	約 70	約 100	約 200	約 3,100
	御浜町	約 1,400	約 10	約 20	約 20	約 1,400	約 1,800	約 60	約 20	約 10	約 1,900
	紀宝町	約 1,400	-	約 100	約 80	約 1,600	約 1,700	約 30	約 30	約 50	約 1,800
県計		約 62,000	約 16,000	約 56,000	約 4,100	約 138,000	約 66,000	約 18,000	約 56,000	約 1,600	約 141,000

「-」:わずか(5未満) 時期:冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

○【L1】過去最大クラス

○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

ブロック塀等の転倒数【L2】

自動販売機の転倒数【L2】

屋外落下物の発生数【L2】

概観

県全体でブロック塀等の転倒数は約25,000件、自動販売機の転倒数は約700件、屋外落下物の発生数は約36,000件と推計されます。

地域区分	市町名	今回想定結果		
		ブロック塀等の転倒数	自動販売機の転倒数	屋外落下物の発生数
北勢	桑名市	約1,100	約50	約500
	いなべ市	約200	約20	約30
	木曾岬町	約100	-	約200
	東員町	約200	約10	約50
	四日市市	約3,500	約100	約3,200
	菰野町	約300	約10	約100
	朝日町	約100	-	約70
	川越町	約200	約10	約100
	鈴鹿市	約1,600	約70	約1,100
	亀山市	約400	約20	約80
中勢	津市	約3,800	約100	約3,300
	松阪市	約3,200	約60	約5,100
	多気町	約500	約10	約1,100
	明和町	約600	約10	約1,200
	大台町	約200	-	約300
伊賀	伊賀市	約400	約30	約40
	名張市	約200	約30	約10
伊勢志摩	伊勢市	約3,700	約50	約10,000
	鳥羽市	約400	約10	約800
	志摩市	約1,200	約20	約2,000
	玉城町	約400	約10	約900
	南伊勢町	約500	-	約1,400
	大紀町	約200	-	約200
	度会町	約200	-	約300
東紀州	尾鷲市	約500	約10	約1,000
	紀北町	約600	約10	約1,300
	熊野市	約500	約10	約700
	御浜町	約200	-	約300
	紀宝町	約200	-	約100
県計		約25,000	約700	約36,000

「-」:わずか(5未満)

地震動:陸側

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

3. リスク評価 (3) リスク評価結果【建物被害】

定量評価

ブロック塀等の転倒数【L1】

自動販売機の転倒数【L1】

屋外落下物の発生数【L1】

概観

県全体でブロック塀等の転倒数は約6,500件、自動販売機の転倒数は約400件、屋外落下物の発生数は約1,100件と推計されます。

地域区分	市町名	今回想定結果		
		ブロック塀等の転倒数	自動販売機の転倒数	屋外落下物の発生数
北勢	桑名市	約300	約40	約10
	いなべ市	-	-	-
	木曾岬町	約30	-	-
	東員町	約10	-	-
	四日市市	約800	約60	約20
	菰野町	約10	-	-
	朝日町	約30	-	-
	川越町	約50	約10	-
	鈴鹿市	約400	約50	約10
	亀山市	約20	-	-
中勢	津市	約1,000	約60	約40
	松阪市	約800	約50	約100
	多気町	約100	-	約20
	明和町	約200	約10	約30
	大台町	約70	-	約10
伊賀	伊賀市	-	-	-
	名張市	-	-	-
伊勢志摩	伊勢市	約900	約50	約200
	鳥羽市	約100	約10	約50
	志摩市	約500	約20	約200
	玉城町	約100	約10	約20
	南伊勢町	約200	-	約200
	大紀町	約60	-	約10
	度会町	約60	-	約10
東紀州	尾鷲市	約100	約10	約10
	紀北町	約200	約10	約100
	熊野市	約200	約10	約20
	御浜町	約100	-	約40
	紀宝町	約200	-	約80
県計		約6,500	約400	約1,100

「-」：わずか（5未満）

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

定性評価

建物被害

<揺れ>

- ・全壊に至らなかった建物でも、その後の地震によって建物被害が増加する可能性がある。
- ・揺れが長く継続する場合は、建物被害が増加する可能性がある。

(さらに過酷な状況)

- ・理論上最大クラスでは、建物被害が急拡大する震度6強以上の地域が増えるため、新耐震基準(1981年6月施行)以降に建築された建物でも全壊等の被害に至る建物が発生する可能性がある。

<液状化>

- ・能登半島地震で見られるように、地盤が弱い場所では、耐震性を有する建物でも、地震時に杭が損傷することで建物が使用できなくなる可能性がある。
- ・能登半島地震でも見られた液状化の発生に伴う側方流動*が発生した場合、耐震性を有する建物であっても、建物が大きく傾斜することで、建物が使用できなくなる可能性がある。

<津波>

- ・東日本大震災での津波で見られたように、漂流物の衝突等によって被害が拡大する可能性がある。

(さらに過酷な状況)

- ・理論上最大クラスでは、さらに強い揺れと津波による浸水拡大により、全壊等の被害が増加する可能性がある。

定性評価

建物被害

<火災>

- ・津波警報等が発表され、津波の浸水が想定される地域では、住民は避難を優先するため、出火時に初期消火が出来ず延焼が拡大する可能性がある。
- ・津波警報等が発表され、津波の浸水が想定される地域では、消防機関による消火活動が困難となり、延焼が拡大する可能性がある。
- ・風が強い地域および季節では、2025年に大分県大分市佐賀関で発生した大規模火災のように、飛び火によってさらに延焼が拡大する可能性がある。
- ・東日本大震災で見られたように、津波により流されたプロパンガスボンベや自動車に、他の漂流物が衝突するなどして発生する津波火災により、市街地の延焼火災につながる可能性がある。また、飛び火により森林火災が発生した場合、さらに延焼が拡大する可能性がある。

(さらに過酷な状況)

- ・理論上最大クラスでは、出火件数が大幅に増加するため、住民による初期消火や消防による消火に至らず、延焼による焼失被害が大きく増加する可能性がある。

<急傾斜地崩壊等>

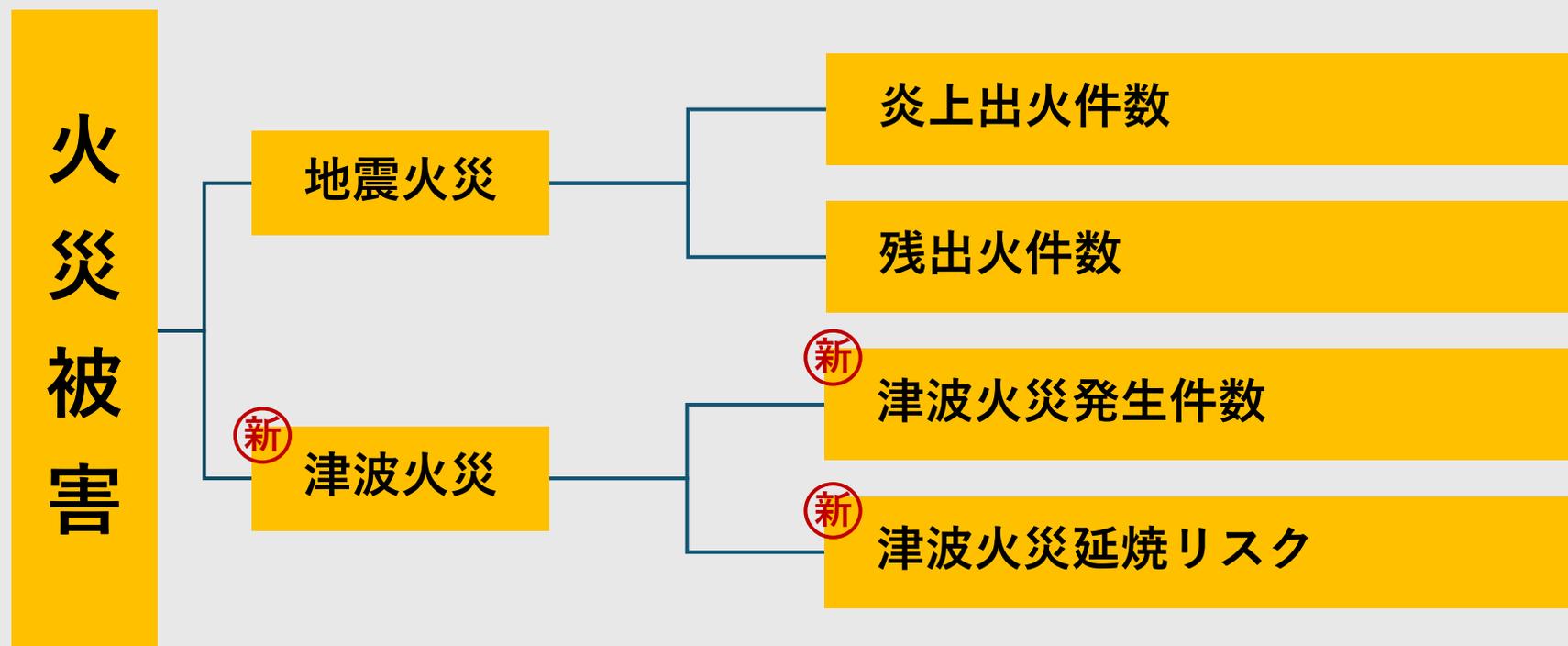
- ・熊本地震や能登半島地震の被災地で見られたように、地震発生後に大雨が降った場合には地盤が緩み、崖崩れや宅地の崩壊等が発生して建物被害が拡大する可能性がある。
- ・東日本大震災で仙台市の宅地造成地が発生したように、盛土が大きく崩壊し、多数の住宅が傾く等の被害が発生する可能性がある。

3. リスク評価 (4) リスク評価結果【火災被害】

目的

過去に発生した地震では、地震により発生した火災により建物の延焼や人的被害が発生しています。また、東日本大震災では、津波によって車両やプロパンガスボンベ等から出火する津波火災も発生しました。そこで、火災への対策を検討するため、地震による火災発生件数に加えて、新たに津波火災の発生件数等を推計しています。

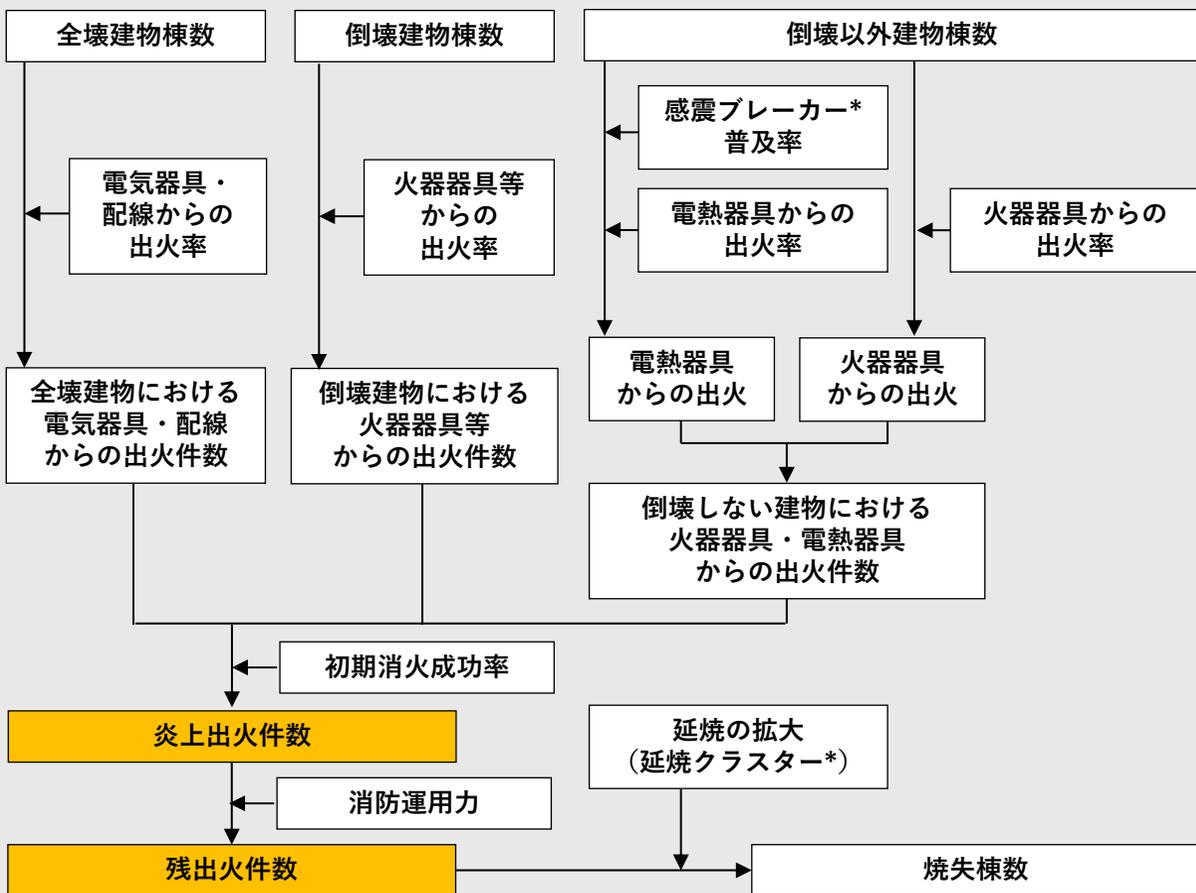
定量評価項目



推計手法

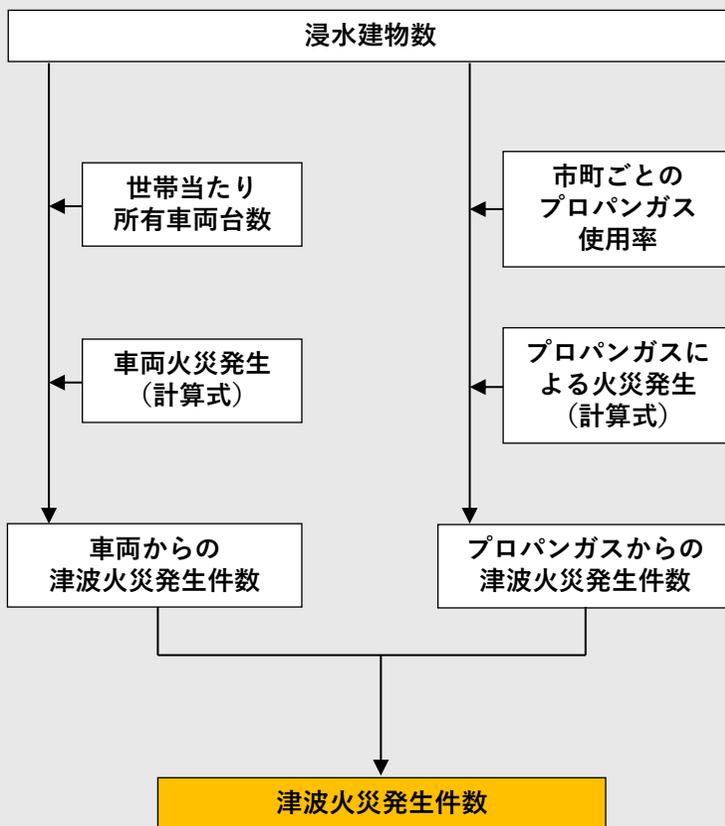
炎上出火件数及び残火災件数

- ・ 建物の状況ごとに出火率を掛け合わせて出火件数を算出し、住民の初期消火成功率を掛け合わせて、消火できなかった件数が炎上出火件数となる。
- ・ さらに、炎上出火件数に消防の運用力を掛け合わせて、消火できなかった件数が残出火件数となる。



津波火災発生件数

- ・ 浸水した建物数に対して、所有する車両の台数とプロパンガスの使用率を利用し、それぞれの発生件数を推計する。



3. リスク評価 (4) リスク評価結果【火災被害】

定量評価

炎上出火件数 【L2】【L1】

○【L2】理論上最大クラス
【L1】過去最大クラス

○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

概観

県全体の建物の炎上出火件数は理論上最大クラスで約300件、過去最大クラスで約50件と推計されます。

「一」:わずか(5未満)

時期:冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

【L2】

地震動:陸側

地域区分	市町名	今回想定結果	
		過去最大クラス	理論上最大クラス
北勢	桑名市	-	約 10
	いなべ市	-	-
	木曽岬町	-	-
	東員町	-	-
	四日市市	-	約 40
	菰野町	-	-
	朝日町	-	-
	川越町	-	-
	鈴鹿市	-	約 20
	亀山市	-	-
中勢	津市	約 10	約 50
	松阪市	約 10	約 50
	多気町	-	約 10
	明和町	-	約 10
	大台町	-	-
伊賀	伊賀市	-	-
	名張市	-	-
伊勢志摩	伊勢市	約 10	約 70
	鳥羽市	-	約 10
	志摩市	-	約 20
	玉城町	-	約 10
	南伊勢町	-	約 10
	大紀町	-	-
	度会町	-	-
東紀州	尾鷲市	-	約 10
	紀北町	-	約 10
	熊野市	-	約 10
	御浜町	-	-
	紀宝町	-	-
県計		約 50	約 300

3. リスク評価 (4) リスク評価結果【火災被害】

定量評価

炎上出火件数
【L2】【L1】
(前回との比較)

○【L2】理論上最大クラス
【L1】過去最大クラス

○三重県全体で最も被害が
大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果		前回想定結果	
		過去最大クラス	理論上最大クラス	過去最大クラス	理論上最大クラス
北勢	桑名市	-	約 10	-	約 10
	いなべ市	-	-	-	-
	木曽岬町	-	-	-	-
	東員町	-	-	-	-
	四日市市	-	約 40	-	約 50
	菰野町	-	-	-	-
	朝日町	-	-	-	-
	川越町	-	-	-	-
	鈴鹿市	-	約 20	-	約 20
亀山市	-	-	-	-	
中勢	津市	約 10	約 50	約 10	約 50
	松阪市	約 10	約 50	約 10	約 60
	多気町	-	約 10	-	-
	明和町	-	約 10	-	約 10
	大台町	-	-	-	-
伊賀	伊賀市	-	-	-	-
	名張市	-	-	-	-
伊勢志摩	伊勢市	約 10	約 70	約 10	約 90
	鳥羽市	-	約 10	-	約 10
	志摩市	-	約 20	約 10	約 30
	玉城町	-	約 10	-	約 10
	南伊勢町	-	約 10	-	約 10
	大紀町	-	-	-	-
	度会町	-	-	-	-
東紀州	尾鷲市	-	約 10	-	約 10
	紀北町	-	約 10	-	約 10
	熊野市	-	約 10	-	約 10
	御浜町	-	-	-	-
	紀宝町	-	-	-	-
県計		約 50	約 300	約 60	約 400

「-」:わずか(5未満)

時期:冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

【L2】

地震動:陸側

3. リスク評価 (4) リスク評価結果【火災被害】

定量評価

残出火件数 【L2】【L1】

○【L2】理論上最大クラス
【L1】過去最大クラス

○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

「-」:わずか(5未満)

時期:冬・夕方

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

【L2】

地震動:陸側

概観

県全体の建物の残出火件数は、理論上最大クラスで約300件、過去最大クラスでわずかな件数と推計されます。

地域区分	市町名	今回想定結果	
		過去最大クラス	理論上最大クラス
北勢	桑名市	-	約 10
	いなべ市	-	-
	木曾岬町	-	-
	東員町	-	-
	四日市市	-	約 30
	菰野町	-	-
	朝日町	-	-
	川越町	-	-
	鈴鹿市	-	約 20
	亀山市	-	-
中勢	津市	-	約 40
	松阪市	-	約 40
	多気町	-	約 10
	明和町	-	約 10
	大台町	-	-
伊賀	伊賀市	-	-
	名張市	-	-
伊勢志摩	伊勢市	-	約 60
	鳥羽市	-	-
	志摩市	-	約 10
	玉城町	-	約 10
	南伊勢町	-	約 10
	大紀町	-	-
	度会町	-	-
東紀州	尾鷲市	-	約 10
	紀北町	-	約 10
	熊野市	-	約 10
	御浜町	-	-
	紀宝町	-	-
県計		-	約 300

3. リスク評価 (4) リスク評価結果【火災被害】

定量評価

残出火件数
【L2】【L1】
(前回との比較)

- 【L2】理論上最大クラス
【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

地域区分	市町名	今回想定結果		前回想定結果	
		過去最大クラス	理論上最大クラス	過去最大クラス	理論最大クラス
北勢	桑名市	-	約 10	-	約 10
	いなべ市	-	-	-	-
	木曽岬町	-	-	-	-
	東員町	-	-	-	-
	四日市市	-	約 30	-	約 50
	菰野町	-	-	-	-
	朝日町	-	-	-	-
	川越町	-	-	-	-
	鈴鹿市	-	約 20	-	約 20
	亀山市	-	-	-	-
中勢	津市	-	約 40	-	約 40
	松阪市	-	約 40	-	約 50
	多気町	-	約 10	-	-
	明和町	-	約 10	-	約 10
	大台町	-	-	-	-
伊賀	伊賀市	-	-	-	-
	名張市	-	-	-	-
伊勢志摩	伊勢市	-	約 60	約 10	約 90
	鳥羽市	-	-	-	約 10
	志摩市	-	約 10	-	約 20
	玉城町	-	約 10	-	約 10
	南伊勢町	-	約 10	-	約 10
	大紀町	-	-	-	-
	度会町	-	-	-	-
東紀州	尾鷲市	-	約 10	-	約 10
	紀北町	-	約 10	-	約 10
	熊野市	-	約 10	-	約 10
	御浜町	-	-	-	-
	紀宝町	-	-	-	-
県計		-	約 300	約 10	約 300

「-」:わずか (5未満)
時期:冬・夕方
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

【L2】
地震動:陸側

3. リスク評価 (4) リスク評価結果【火災被害】

定量評価

津波火災発生件数 【L2】【L1】

- 【L2】理論上最大クラス
【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

「-」:わずか(5未満)

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

【L2】

地震動：陸側

概観

県全体の津波火災発生件数は、理論上最大クラスで約70件、過去最大クラスで約60件と推計されます。

市町名	過去最大クラス	理論上最大クラス (津波ケース⑦)
津市	約10件	約10件
四日市市	約10件	約10件
伊勢市	約10件	約10件
松阪市	-	-
桑名市	約10件	約10件
鈴鹿市	-	-
名張市	-	-
尾鷲市	-	-
亀山市	-	-
鳥羽市	-	-
熊野市	-	-
いなべ市	-	-
志摩市	-	-
伊賀市	-	-
木曾岬町	-	-
東員町	-	-
菰野町	-	-
朝日町	-	-
川越町	-	-
多気町	-	-
明和町	-	-
大台町	-	-
玉城町	-	-
度会町	-	-
大紀町	-	-
南伊勢町	-	-
紀北町	-	-
御浜町	-	-
紀宝町	-	-
合計	約60件	約70件

3. リスク評価 (4) リスク評価結果【火災被害】

定量評価

津波火災延焼リスク 【L2】【L1】

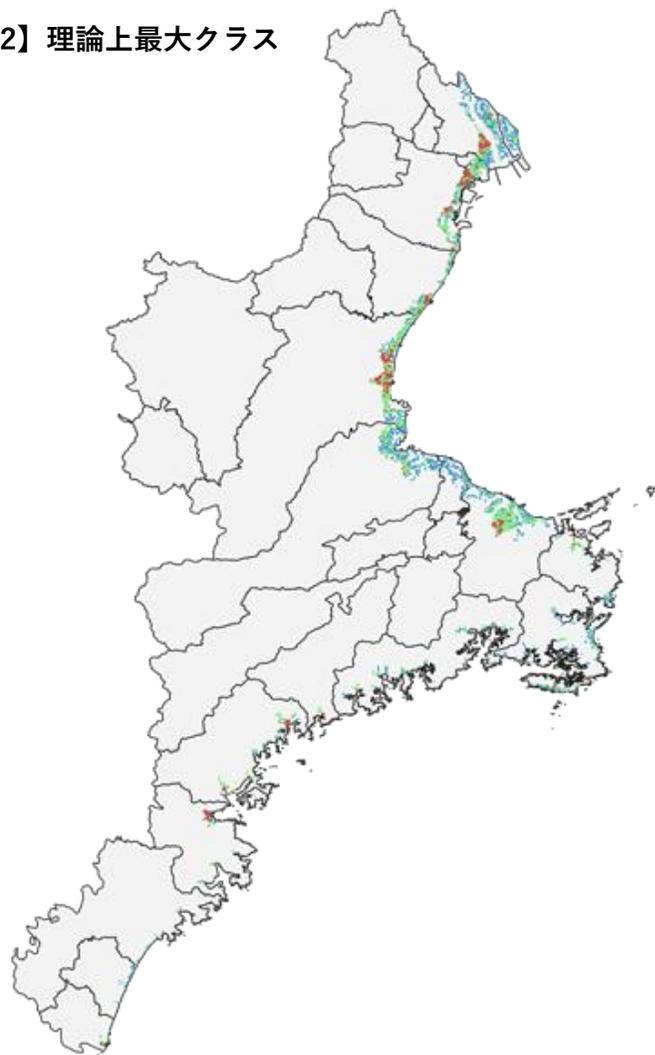
概観

津波火災延焼リスクの分布について、理論上最大クラスと過去最大クラスで全体の傾向に大きな違いは見られないものの、理論上最大クラスで危険度大の箇所がやや増加する結果となっています。

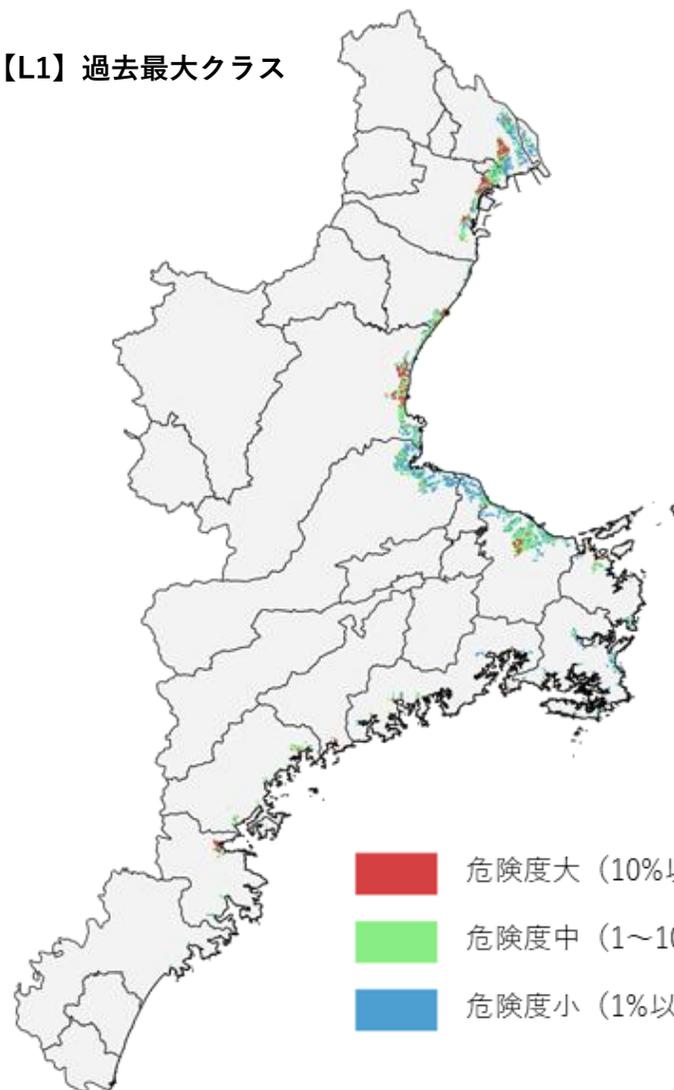
- 【L2】理論上最大クラス
【L1】過去最大クラス

- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

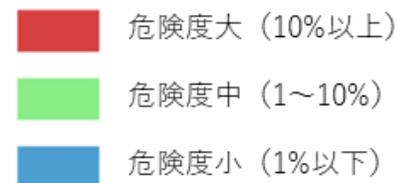
【L2】理論上最大クラス



【L1】過去最大クラス



【L2】
地震動：陸側
津波：ケース⑦



定性評価

火災被害

- ・津波警報等が発表され、津波の浸水が想定される地域では、住民は避難を優先するため、出火時に初期消火が出来ず延焼が拡大する可能性がある。
- ・津波警報等が発表され、津波の浸水が想定される地域では、消防機関による消火活動が困難となり、延焼が拡大する可能性がある。
- ・風が強い地域および季節では、2025年に大分県大分市佐賀関で発生した大規模火災のように、飛び火によってさらに延焼が拡大する可能性がある。
- ・東日本大震災で見られたように、津波により流されたプロパンガスボンベや自動車に、他の漂流物が衝突するなどして発生する津波火災により、市街地の延焼火災につながる可能性がある。また、飛び火により森林火災が発生した場合、さらに延焼が拡大する可能性がある。
- ・集合住宅、高層ビル、地下施設等で火災が発生すると、多数の住民や利用者が煙に巻かれることによって人的被害が増加する可能性がある。

(さらに過酷な状況)

- ・過去最大クラスに比べて、出火件数が大幅に増加するため、住民による初期消火や消防による消火に至らず、延焼による焼失被害が増加する可能性がある。
- ・過去最大クラスに比べると延焼拡大に至る状況が多く発生し、複数の延焼火災が発生することにより、逃げまどいによる人的被害が増加する可能性がある。

4. 半割れケース (1) 今想定する半割れケースについて

① 半割れケースについて

半割れケースとは

半割れケースとは、**南海トラフの想定震源域内の一部で大規模地震が発生（先発地震）し、残りの想定震源域内で大規模地震（後発地震）が発生**したケースです。

半割れケースでは、先発地震が東側で発生し、その後西側で後発地震が発生するパターンと、西側が先に発生し、その後東側で発生する2つのパターンがあります。

三重県では、南海トラフを震源として**実際に発生した地震の直近2事例**（1944年昭和東南海地震とその約2年後の1946年に発生した昭和南海地震、1854年安政東海地震とその約32時間後に発生した安政南海地震）があり、いずれも M_w 8.0以上の規模で時間差をもって連続して発生したことをふまえ、**今回新たに想定**しました。

半割れケースを想定する目的

半割れケースを新たに想定する目的は、以下の2つです。

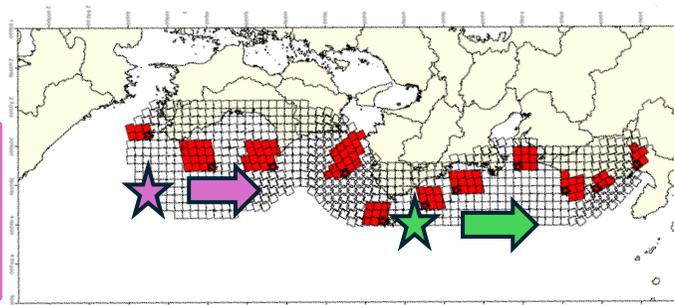
- ・ **南海トラフ地震臨時情報や、後発地震発生までの時間を最大限活用**して、**行政と県民が適切な対策・対応**をとることによって、新たな**被害が軽減できる可能性**を示す。
- ・ 先発地震発生後の活発な地震活動により、大規模な地震が時間差をおいて繰り返し発生することで、**被害の増加**や**社会の混乱**につながる可能性を示す。

<半割れケースのイメージ>

例：過去最大クラスの半割れケース

【西半割れケース】

今回の三重県の被害想定では、南海トラフの想定震源域の西端を震源として地震が発生するケースを想定



【東半割れケース】

今回の三重県の被害想定では、潮岬沖を震源として地震が発生するケースを想定

※☆印は今想定における震源の設定場所
※矢印は震源から岩盤が破壊されていく方向

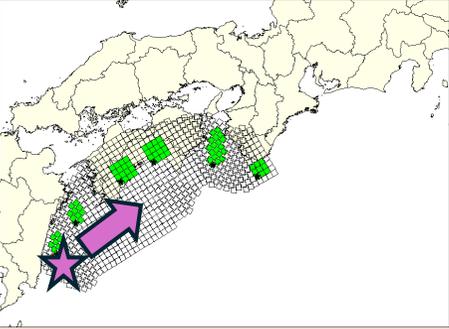
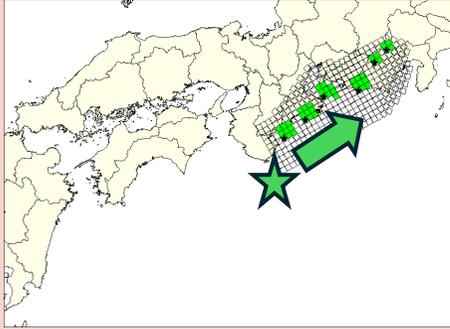
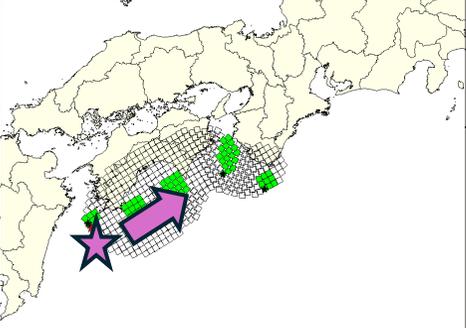
4. 半割れケース (1) 今想定する半割れケースについて

② 想定される発生パターン

想定地震	震源規模	発生パターン
理論上最大クラス (L 2)	東半割れ: M_w 8. 6	東半割れ ⇒ 西半割れ
	西半割れ: M_w 8. 9	西半割れ ⇒ 東半割れ
過去最大クラス (L 1)	東半割れ: M_w 8. 5	東半割れ ⇒ 西半割れ
	西半割れ: M_w 8. 7	西半割れ ⇒ 東半割れ

→ 後発地震発生に備えることで、最も被害を減らすことができるケース

③ 今想定する半割れの地震断層モデル

想定地震	西半割れ	東半割れ
理論上最大クラス (L 2)		
過去最大クラス (L 1)		

※☆印は今想定における震源の設定場所
※矢印は震源から岩盤が割れていく方向

4. 半割れケース (2) 半割れケースの評価結果【ハザード】

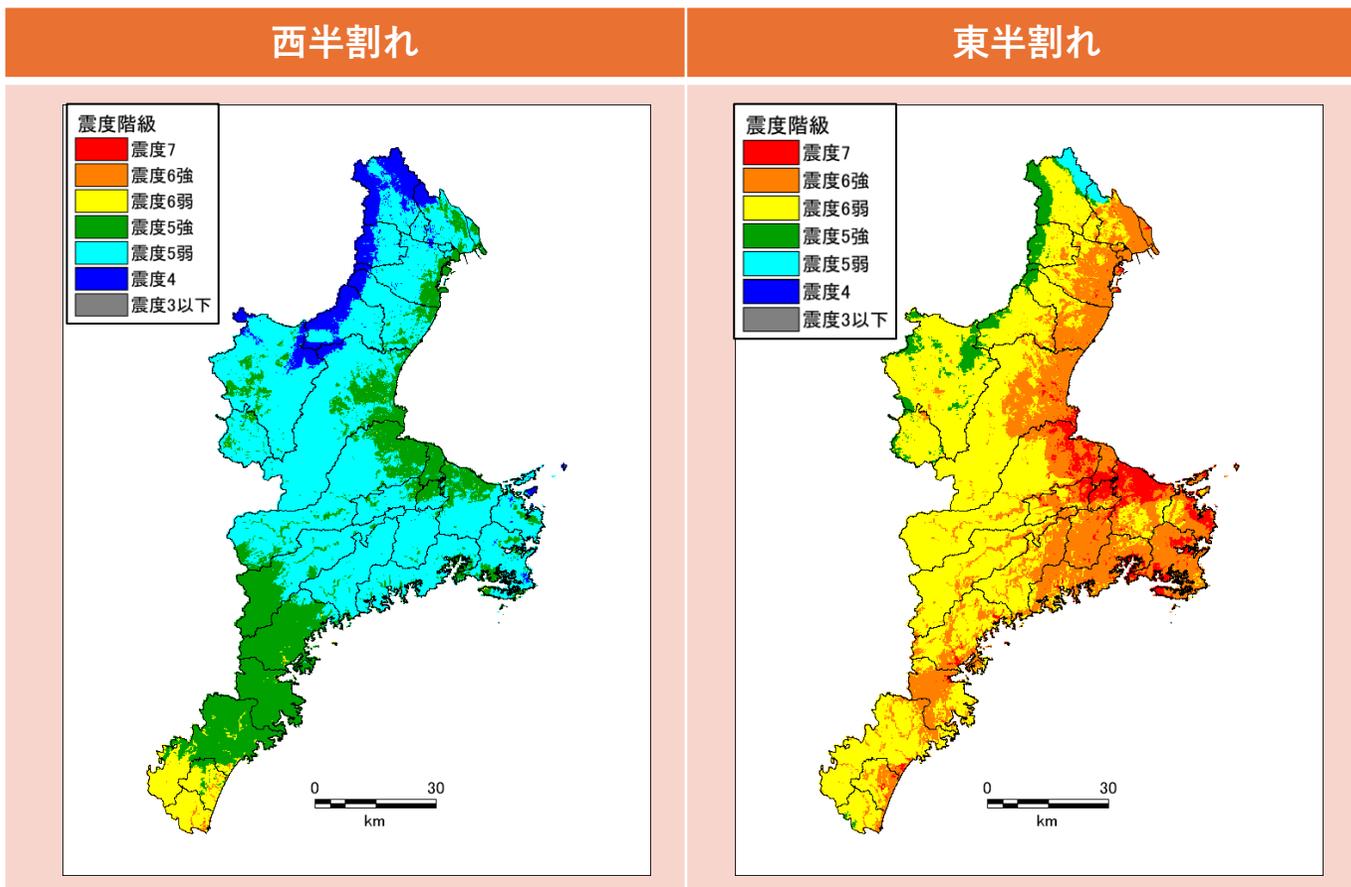
① 地震動

概観

西半割れでは、県内のほぼ全域で震度5弱から震度5強の揺れが予測され、東紀州の一部地域で震度6弱から震度6強の揺れが予測されます。

東半割れでは、伊勢湾沿岸部から志摩半島を中心に震度6強以上の揺れが予測されます。

【L2】理論上最大クラス



<留意事項>

この震度分布は、その発生順番に関係なく、西半割れ及び東半割れが個別に発生した場合の予測を示したものです。

4. 半割れケース (2) 半割れケースの評価結果【ハザード】

<市町別震度別面積割合>

【L2】理論上最大クラス

【西半割れ】

【東半割れ】

	理論上最大クラス (L2)														総面積 (km ²)
	3		4		5弱		5強		6弱		6強		7		
	面積 (km ²)	割合 (%)													
津市	0.0	0.0%	17.4	2.4%	558.5	78.5%	134.8	19.0%	0.5	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	711.2
四日市市	0.0	0.0%	10.1	4.9%	149.8	72.5%	46.6	22.6%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	206.5
伊勢市	0.0	0.0%	0.1	0.0%	130.3	62.5%	77.4	37.2%	0.6	0.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	208.4
松阪市	0.0	0.0%	0.1	0.0%	448.8	72.0%	174.2	27.9%	0.5	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	623.6
桑名市	0.0	0.0%	25.7	18.8%	81.5	59.6%	29.4	21.5%	0.1	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	136.7
鈴鹿市	0.0	0.0%	20.1	10.3%	142.7	73.4%	31.7	16.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	194.5
名張市	0.0	0.0%	0.2	0.2%	114.5	88.2%	14.9	11.4%	0.2	0.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	129.8
尾鷲市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.7	0.4%	191.2	99.2%	0.8	0.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	192.7
亀山市	0.0	0.0%	81.8	42.8%	108.1	56.6%	1.1	0.6%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	191.0
鳥羽市	0.0	0.0%	8.0	7.5%	87.7	81.7%	11.6	10.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	107.3
熊野市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	262.0	70.2%	109.0	29.2%	2.3	0.6%	0.1	0.0%	373.4
いなべ市	0.0	0.0%	137.5	62.6%	82.1	37.3%	0.2	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	219.8
志摩市	0.0	0.0%	3.4	1.9%	140.7	78.6%	34.0	19.0%	0.9	0.5%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	178.9
伊賀市	0.0	0.0%	61.7	11.0%	444.6	79.6%	51.9	9.3%	0.1	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	558.2
木曾岬町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.2	52.2%	7.5	47.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.7
東員町	0.0	0.0%	0.6	2.4%	22.1	97.4%	0.0	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	22.7
菰野町	0.0	0.0%	41.7	39.0%	65.2	60.9%	0.1	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	107.0
朝日町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	5.7	95.1%	0.3	4.9%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	6.0
川越町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	3.7	42.3%	5.0	57.7%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.7
多気町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	85.3	82.7%	17.7	17.1%	0.1	0.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	103.1
明和町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	1.8	4.3%	39.3	95.7%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	41.1
大台町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	206.3	56.9%	156.5	43.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	362.9
玉城町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	17.4	42.6%	23.3	57.1%	0.1	0.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	40.9
度会町	0.0	0.0%	0.1	0.1%	131.6	97.5%	3.3	2.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	135.0
大紀町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	223.8	95.9%	9.5	4.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	233.3
南伊勢町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	216.6	89.6%	25.2	10.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	241.9
紀北町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	33.1	12.9%	220.0	85.7%	3.4	1.3%	0.1	0.0%	0.0	0.0%	256.6
御浜町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	18.8	21.3%	65.5	74.3%	3.9	4.4%	0.0	0.0%	88.1
紀宝町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.3	0.4%	72.3	90.8%	6.9	8.7%	0.1	0.2%	79.6
計	0.0	0.0%	408.3	7.1%	3510.7	60.8%	1588.0	27.5%	254.0	4.4%	13.2	0.2%	0.2	0.0%	5774.5

	理論上最大クラス (L2)										総面積 (km ²)
	5弱		5強		6弱		6強		7		
	面積 (km ²)	割合 (%)									
津市	0.0	0.0%	1.4	0.2%	455.4	64.0%	241.3	33.9%	13.1	1.8%	711.2
四日市市	0.0	0.0%	5.0	2.4%	68.2	33.0%	130.5	63.2%	2.9	1.4%	206.5
伊勢市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	50.4	24.2%	73.6	35.3%	84.5	40.5%	208.4
松阪市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	427.9	68.6%	141.2	22.6%	54.5	8.7%	623.6
桑名市	14.3	10.5%	3.9	2.9%	41.7	30.5%	76.4	55.9%	0.4	0.3%	136.7
鈴鹿市	0.0	0.0%	13.5	6.9%	75.6	38.9%	104.7	53.9%	0.7	0.3%	194.5
名張市	0.0	0.0%	19.1	14.7%	107.2	82.6%	3.5	2.7%	0.0	0.0%	129.8
尾鷲市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	79.2	41.1%	111.5	57.9%	2.0	1.0%	192.7
亀山市	0.0	0.0%	30.9	16.2%	141.3	74.0%	18.8	9.8%	0.0	0.0%	191.0
鳥羽市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	20.4	19.0%	59.0	55.0%	27.9	26.0%	107.3
熊野市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	308.3	82.6%	62.2	16.7%	2.9	0.8%	373.4
いなべ市	36.9	16.8%	63.5	28.9%	117.7	53.6%	1.6	0.7%	0.0	0.0%	219.8
志摩市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	5.5	3.1%	139.7	78.1%	33.7	18.8%	178.9
伊賀市	0.0	0.0%	101.2	18.1%	450.3	80.7%	6.7	1.2%	0.0	0.0%	558.2
木曾岬町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.1	95.7%	0.7	4.3%	15.7
東員町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	18.9	83.2%	3.8	16.8%	0.0	0.0%	22.7
菰野町	0.0	0.0%	31.0	29.0%	67.9	63.4%	8.1	7.6%	0.0	0.0%	107.0
朝日町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	1.7	29.0%	4.3	71.0%	0.0	0.0%	6.0
川越町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.1	0.9%	8.6	99.1%	0.0	0.0%	8.7
多気町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	41.2	40.0%	44.1	42.8%	17.7	17.2%	103.1
明和町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	26.8	65.3%	14.2	34.7%	41.1
大台町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	316.4	87.2%	46.2	12.7%	0.3	0.1%	362.9
玉城町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	3.8	9.2%	13.5	33.1%	23.6	57.7%	40.9
度会町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	9.1	6.8%	120.5	89.3%	5.3	3.9%	135.0
大紀町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	138.7	59.4%	94.2	40.4%	0.4	0.2%	233.3
南伊勢町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	45.0	18.6%	178.5	73.8%	18.4	7.6%	241.9
紀北町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	170.1	66.3%	77.9	30.4%	8.6	3.3%	256.6
御浜町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	52.7	59.8%	33.1	37.5%	2.3	2.6%	88.1
紀宝町	0.0	0.0%	3.3	4.2%	66.1	83.1%	10.0	12.6%	0.1	0.1%	79.6
計	51.2	0.0	272.9	4.7%	3280.8	56.8%	1855.5	32.1%	314.0	5.4%	5774.5

4. 半割れケース (2) 半割れケースの評価結果【ハザード】

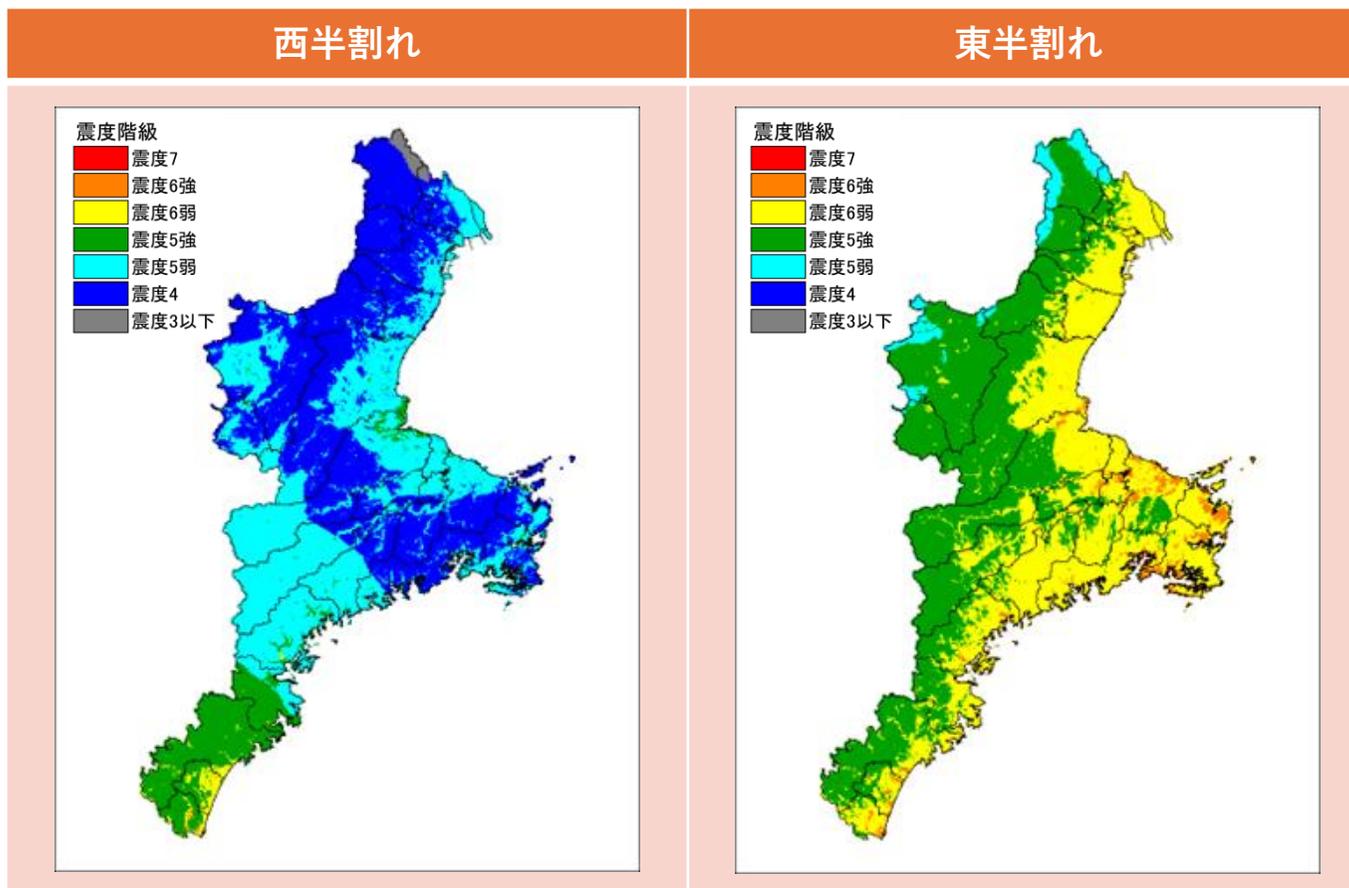
① 地震動

概観

西半割れでは、**県内のほぼ全域で震度4から震度5弱**の揺れが予測され、**東紀州の一部地域で震度6弱**の揺れが予測されます。

東半割れでは、伊勢湾沿岸部から志摩半島を中心に**県内の約半分の地域で震度6弱以上**の揺れが予測されます。

【L1】過去最大クラス



<留意事項>

この震度分布は、その発生順番に関係なく、西半割れ及び東半割れが個別に発生した場合の予測を示したものです。

4. 半割れケース (2) 半割れケースの評価結果【ハザード】

<市町別震度別面積割合>

【L1】過去最大クラス

【西半割れ】

	【L1】過去最大クラス														総面積 (km ²)
	3		4		5弱		5強		6弱		6強		7		
	面積 (km ²)	割合 (%)													
桑名市	9.5	6.9%	62.7	45.9%	64.2	47.0%	0.2	0.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	136.7
いなべ市	32.3	14.7%	186.9	85.0%	0.7	0.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	219.8
木曽岬町	0.0	0.0%	0.0	0.2%	15.7	99.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.7
東真町	0.0	0.0%	22.1	97.4%	0.6	2.6%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	22.7
四日市市	0.0	0.0%	142.1	68.8%	64.3	31.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	206.5
菟野町	0.0	0.0%	106.1	99.2%	0.9	0.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	107.0
朝日町	0.0	0.0%	4.4	74.1%	1.6	25.9%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	6.0
川越町	0.0	0.0%	1.9	21.6%	6.8	78.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.7
鈴鹿市	0.0	0.0%	126.8	65.2%	67.6	34.7%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	194.5
亀山市	0.0	0.0%	177.8	93.1%	13.3	6.9%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	191.0
津市	0.0	0.0%	361.6	50.8%	341.6	48.0%	8.0	1.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	711.2
松阪市	0.0	0.0%	209.5	33.6%	388.1	62.2%	26.0	4.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	623.6
多気町	0.0	0.0%	46.7	45.3%	56.1	54.4%	0.3	0.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	103.1
明和町	0.0	0.0%	0.1	0.3%	39.6	96.4%	1.3	3.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	41.1
大台町	0.0	0.0%	49.1	13.5%	312.7	86.2%	1.0	0.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	362.9
伊賀市	0.0	0.0%	365.1	65.4%	191.6	34.3%	1.5	0.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	558.2
名張市	0.0	0.0%	74.3	57.2%	53.6	41.3%	1.9	1.5%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	129.8
伊勢市	0.0	0.0%	102.4	49.1%	103.3	49.6%	2.7	1.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	208.4
鳥羽市	0.0	0.0%	71.6	66.7%	35.1	32.7%	0.7	0.6%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	107.3
志摩市	0.0	0.0%	88.5	49.5%	87.2	48.7%	3.2	1.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	178.9
玉城町	0.0	0.0%	9.6	23.5%	30.4	74.2%	0.9	2.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	40.9
南伊勢町	0.0	0.0%	167.4	69.2%	71.8	29.7%	2.7	1.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	241.9
大紀町	0.0	0.0%	74.5	31.9%	156.1	66.9%	2.7	1.1%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	233.3
度会町	0.0	0.0%	113.0	83.7%	21.9	16.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	135.0
尾鷲市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	70.3	36.5%	121.7	63.1%	0.8	0.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	192.7
紀北町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	232.3	90.6%	23.1	9.0%	1.2	0.4%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	256.6
熊野市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	351.5	94.2%	21.5	5.8%	0.3	0.1%	0.0	0.0%	373.4
御浜町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	52.9	60.0%	34.8	39.5%	0.4	0.4%	0.0	0.0%	88.1
紀宝町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	62.8	78.9%	13.2	16.6%	3.6	4.5%	0.0	0.0%	79.6
計	41.8	0.7%	2564.3	44.4%	2427.4	42.0%	665.1	11.5%	71.6	1.2%	4.3	0.1%	0.0	0.0%	5774.5

【東半割れ】

	【L1】過去最大クラス										総面積 (km ²)
	5弱		5強		6弱		6強		7		
	面積 (km ²)	割合 (%)									
桑名市	10.6	7.8%	34.3	25.1%	91.4	66.9%	0.4	0.3%	0.0	0.0%	136.7
いなべ市	87.5	39.8%	131.9	60.0%	0.5	0.2%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	219.8
木曽岬町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.7	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	15.7
東真町	0.0	0.0%	20.1	88.5%	2.6	11.5%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	22.7
四日市市	0.0	0.0%	90.5	43.8%	115.6	56.0%	0.4	0.2%	0.0	0.0%	206.5
菟野町	22.6	21.1%	83.7	78.2%	0.8	0.7%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	107.0
朝日町	0.0	0.0%	0.0	0.1%	6.0	99.9%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	6.0
川越町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.7	100.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	8.7
鈴鹿市	0.0	0.0%	71.8	36.9%	122.5	63.0%	0.1	0.0%	0.0	0.0%	194.5
亀山市	7.2	3.8%	163.2	85.4%	20.6	10.8%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	191.0
津市	0.0	0.0%	452.8	63.7%	253.1	35.6%	5.3	0.7%	0.0	0.0%	711.2
松阪市	0.0	0.0%	404.8	64.9%	212.4	34.1%	6.4	1.0%	0.0	0.0%	623.6
多気町	0.0	0.0%	44.0	42.7%	54.7	53.1%	4.4	4.3%	0.0	0.0%	103.1
明和町	0.0	0.0%	0.0	0.0%	38.3	93.2%	2.8	6.8%	0.0	0.0%	41.1
大台町	0.0	0.0%	269.6	74.3%	93.1	25.7%	0.2	0.1%	0.0	0.0%	362.9
伊賀市	75.5	13.5%	475.5	85.2%	7.2	1.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	558.2
名張市	6.6	5.1%	121.4	93.6%	1.7	1.3%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	129.8
伊勢市	0.0	0.0%	63.7	30.6%	116.5	55.9%	28.1	13.5%	0.0	0.0%	208.4
鳥羽市	0.0	0.0%	0.0	0.0%	83.9	78.2%	23.4	21.8%	0.0	0.0%	107.3
志摩市	0.0	0.0%	10.1	5.7%	141.3	79.0%	27.4	15.3%	0.1	0.1%	178.9
玉城町	0.0	0.0%	4.7	11.5%	29.0	70.8%	7.2	17.7%	0.0	0.0%	40.9
度会町	0.0	0.0%	37.5	27.8%	95.5	70.8%	1.9	1.4%	0.0	0.0%	135.0
大紀町	0.0	0.0%	52.3	22.4%	180.4	77.3%	0.6	0.2%	0.0	0.0%	233.3
南伊勢町	0.0	0.0%	17.7	7.3%	203.6	84.2%	19.8	8.2%	0.7	0.3%	241.9
尾鷲市	0.0	0.0%	106.5	55.2%	85.3	44.3%	0.9	0.5%	0.0	0.0%	192.7
紀北町	0.0	0.0%	123.5	48.1%	124.6	48.6%	8.3	3.2%	0.2	0.1%	256.6
熊野市	0.0	0.0%	282.7	75.7%	86.9	23.3%	3.7	1.0%	0.1	0.0%	373.4
御浜町	0.0	0.0%	40.9	46.4%	39.8	45.2%	7.4	8.4%	0.0	0.1%	88.1
紀宝町	0.0	0.0%	22.1	27.7%	51.3	64.4%	6.2	7.8%	0.0	0.0%	79.6
計	210.0	3.6%	3125.3	54.1%	2283.1	39.5%	155.0	2.7%	1.2	0.0%	5774.5

4. 半割れケース (2) 半割れケースの評価結果【ハザード】

② 津波浸水深

概観

西半割れでは、浸水範囲は少ないものの、一部の地域では津波浸水が予測されます。

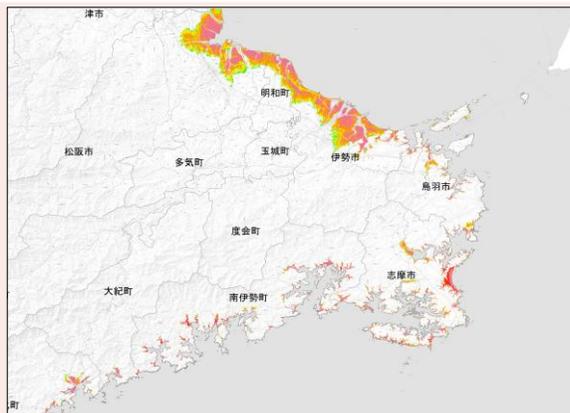
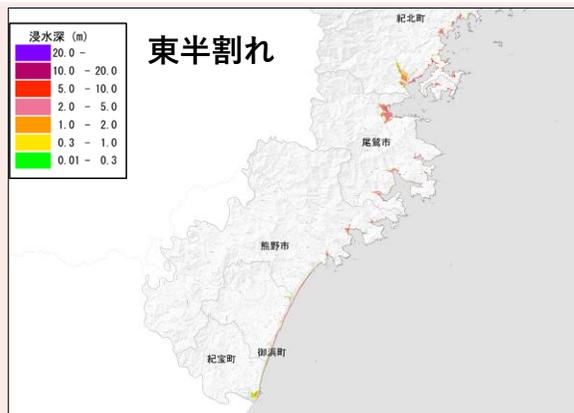
東半割れでは、北部の海拔ゼロメートル地帯から伊勢湾沿岸にかけての広い範囲で浸水が予測されます。

【L2】理論上最大クラス

東紀州

中部～志摩半島

北部～中部



<留意事項>

この津波浸水深は、その発生順番に関係なく、西半割れ及び東半割れが個別に発生した場合の予測を示したものです。

4. 半割れケース (2) 半割れケースの評価結果【ハザード】

② 津波浸水想定

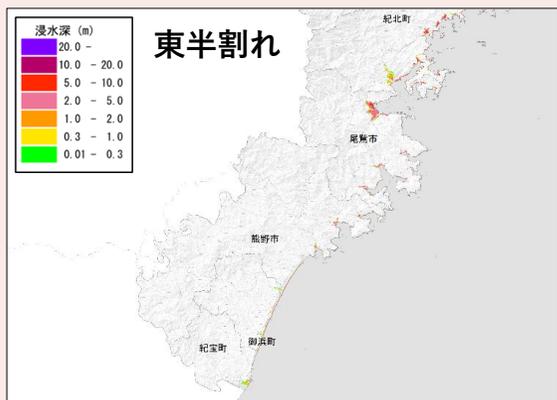
概観

西半割れでは、浸水範囲は少ないものの、一部の地域では津波浸水が予測されます。

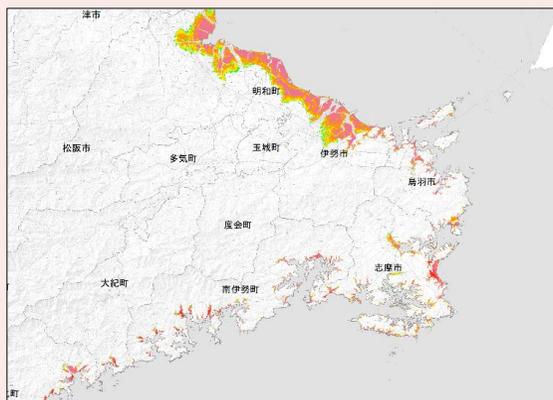
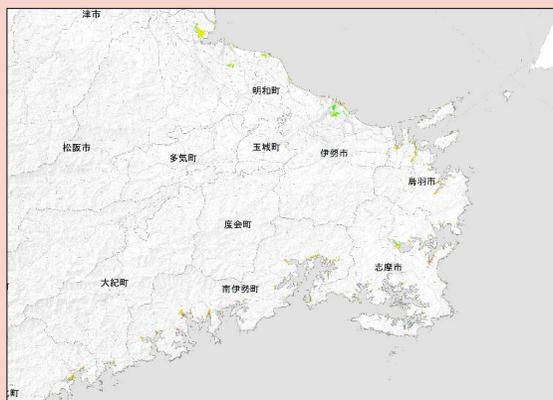
東半割れでは、【L1】過去最大クラスと同様、北部の海拔ゼロメートル地帯から伊勢湾沿岸にかけての広い範囲で浸水が予測されます。

【L1】過去最大クラス

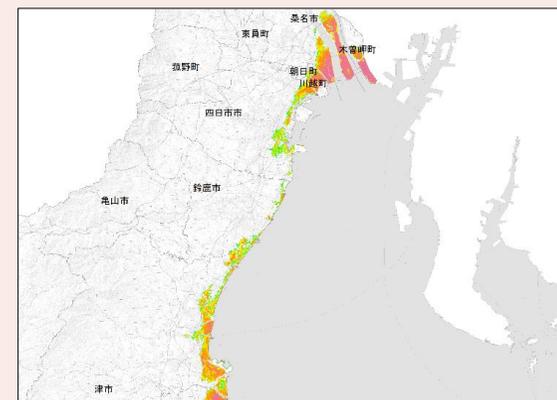
東紀州



中部～志摩半島



北部～中部



<留意事項>

この津波浸水想定は、その発生順番に関係なく、西半割れ及び東半割れが個別に発生した場合の予測を示したものです。

4. 半割れケース (3) 半割れケースの想定結果【リスク】

定量評価

死者数 【L2】半割れケース

概観

死者数は西半割れが単独で発生した場合では約600人、東半割れが単独で発生した場合では約49,000人と推計されます。

東半割れでは、津波による死者が約41,000人と推計され、死者の8割以上を占めています。

地域区分	市町名	西半割れ(単独)							東半割れ(単独)								
		建物倒壊等 (うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)	津波 (うち自力 脱出困難)	うち津波 からの逃げ 遅れ)	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計	建物倒壊等 (うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)	津波 (うち自力 脱出困難)	うち津波 からの逃げ 遅れ)	急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計		
北勢	桑名市	-	-	-	-	-	-	-	約 200	約 20	約 2,800	約 100	約 2,700	-	-	-	約 3,100
	いなべ市	-	-	-	-	-	-	-	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20
	木曾岬町	-	-	-	-	-	-	-	約 30	-	約 600	約 40	約 500	-	-	-	約 600
	東員町	-	-	-	-	-	-	-	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20
	四日市市	-	-	-	-	-	-	-	約 1,000	約 70	約 700	約 100	約 500	約 30	約 40	-	約 1,700
	菟野町	-	-	-	-	-	-	-	約 60	-	-	-	-	-	-	-	約 60
	朝日町	-	-	-	-	-	-	-	約 20	-	約 10	約 10	約 10	-	-	-	約 40
	川越町	-	-	-	-	-	-	-	約 30	-	約 600	約 90	約 500	-	-	-	約 700
	鈴鹿市	-	-	-	-	-	-	-	約 400	約 30	約 1,000	約 90	約 900	-	約 40	-	約 1,400
亀山市	-	-	-	-	-	-	-	約 40	-	-	-	-	-	-	-	約 40	
中勢	津市	-	-	-	-	-	-	-	約 1,100	約 60	約 3,800	約 500	約 3,400	約 20	約 50	-	約 5,000
	松阪市	-	-	-	-	-	-	-	約 1,100	約 80	約 2,500	約 300	約 2,200	約 10	約 40	-	約 3,700
	多気町	-	-	-	-	-	-	-	約 200	約 10	-	-	-	-	-	-	約 200
	明和町	-	-	-	-	-	-	-	約 300	約 10	約 400	約 70	約 300	-	約 10	-	約 600
	大台町	-	-	-	-	-	-	-	約 80	-	-	-	-	-	-	-	約 80
伊賀	伊賀市	-	-	-	-	-	-	-	約 40	-	-	-	-	-	-	-	約 50
	名張市	-	-	-	-	-	-	-	約 20	-	-	-	-	-	-	-	約 20
伊勢志摩	伊勢市	-	-	-	-	-	-	-	約 1,300	約 100	約 5,500	約 900	約 4,600	約 10	約 80	-	約 6,900
	鳥羽市	-	約 30	約 30	-	-	-	約 30	約 200	約 10	約 500	約 50	約 500	約 10	-	-	約 700
	志摩市	-	約 30	約 30	-	-	-	約 30	約 500	約 20	約 3,000	約 100	約 2,900	約 10	約 20	-	約 3,600
	玉城町	-	-	-	-	-	-	-	約 100	約 10	-	-	-	-	約 10	-	約 200
	南伊勢町	-	約 300	約 300	約 10	-	-	約 300	約 300	約 10	約 4,300	約 80	約 4,300	約 50	-	-	約 4,700
	大紀町	-	約 10	約 10	-	-	-	約 10	約 70	-	約 1,300	約 10	約 1,300	約 10	-	-	約 1,400
	度会町	-	-	-	-	-	-	-	約 70	-	-	-	-	-	-	-	約 70
東紀州	尾鷲市	-	約 100	約 100	-	-	-	約 100	約 300	約 10	約 4,300	約 70	約 4,200	約 20	約 10	-	約 4,600
	紀北町	-	約 30	約 30	約 10	-	-	約 30	約 300	約 10	約 7,400	約 100	約 7,300	約 30	-	-	約 7,700
	熊野市	約 10	約 30	約 30	-	-	-	約 30	約 200	約 10	約 700	約 10	約 700	約 20	-	-	約 1,000
	御浜町	約 10	-	-	-	-	-	約 10	約 100	-	約 30	-	約 30	-	-	-	約 100
	紀宝町	約 40	-	-	-	-	-	約 40	約 60	-	約 1,000	約 10	約 1,000	-	-	-	約 1,100
県計	約 60	-	約 500	-	約 500	約 20	-	約 600	約 8,200	約 500	約 41,000	約 2,700	約 38,000	約 200	約 300	-	約 49,000

「-」:わずか(5未満)

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

時期:冬・深夜

○【L2】理論上最大クラス

○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

4. 半割れケース (3) 半割れケースの想定結果【リスク】

定量評価

死者数 【L1】半割れケース

概観

西半割れが単独で発生した場合には約900人、東半割れが単独で発生した場合には約28,000人の死者と推計されます。

東半割れについて、津波による死者が約27,000人と推計され、死者の9割以上を占めています。

地域区分	市町名	西半割れ(単独)								東半割れ(単独)								
		建物倒壊等		津波		急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計	建物倒壊等		津波		急傾斜地 崩壊等	火災	ブロック塀・自 動販売機の 転倒、屋外落 下物	合計	
		(うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)	-	(うち自力 脱出困難)	(うち津波 からの逃げ 遅れ)					(うち屋内収容 物移動・転倒、 屋内落下物)	-	(うち自力 脱出困難)	(うち津波 からの逃げ 遅れ)					
北勢	桑名市	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	-	約300	約10	約300	-	-	-	約400
	いなべ市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	木曽岬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	約10
	東員町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	四日市市	-	-	-	-	-	-	-	-	約70	約10	約70	-	約70	-	-	-	約100
	菰野町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	朝日町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	川越町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約200	約10	約100	-	-	-	約200
	鈴鹿市	-	-	-	-	-	-	-	-	約30	-	約100	-	約100	-	-	-	約200
亀山市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中勢	津市	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約10	約1,100	約20	約1,100	約10	-	-	約1,200
	松阪市	-	-	-	-	-	-	-	-	約80	約10	約700	約10	約700	約10	-	-	約800
	多気町	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	-	-	-	-	-	-	-	約20
	明和町	-	-	-	-	-	-	-	-	約20	-	約200	約10	約100	-	-	-	約200
	大台町	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	約10
伊賀	伊賀市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	名張市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	-	-	約10
伊勢志摩	伊勢市	-	-	-	-	-	-	-	-	約100	約10	約2,200	約80	約2,100	約10	-	-	約2,300
	鳥羽市	-	-	約70	-	約70	-	-	-	約30	-	約900	約10	約900	約10	-	-	約900
	志摩市	-	-	約20	-	約20	-	-	-	約20	約100	約2,400	約20	約2,400	約10	-	-	約2,500
	玉城町	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	約10
	南伊勢町	-	-	約300	-	約300	-	-	-	約300	約90	約5,200	約20	約5,100	約40	-	-	約5,300
	大紀町	-	-	約20	-	約20	-	-	-	約20	約10	約1,300	-	約1,300	約10	-	-	約1,300
	度会町	-	-	-	-	-	-	-	-	約10	-	-	-	-	-	-	-	約10
	尾鷲市	-	-	約200	-	約200	-	-	-	約200	約20	約4,300	-	約4,300	約20	-	-	約4,400
東紀州	紀北町	-	-	約70	-	約70	-	-	-	約70	約70	約7,100	約20	約7,100	約30	-	-	約7,200
	熊野市	約10	-	約50	-	約50	-	-	-	約60	約30	約400	-	約400	約20	-	-	約400
	御浜町	約10	-	-	-	-	-	-	-	約10	約30	-	-	-	-	-	-	約30
	紀宝町	約20	-	-	-	-	-	-	-	約20	約40	約100	-	約100	-	-	-	約200
	県計	約30	-	約800	-	約800	-	-	-	約900	約900	約60	約27,000	約200	約26,000	約200	約10	約28,000

「-」:わずか(5未満)

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

時期:冬・深夜

○【L1】過去最大クラス

○三重県全体で最も被害が
大きくなるケース

4. 半割れケース (3) 半割れケースの想定結果【リスク】

定量評価

死者数【L2】 (時間差連動)

概観

先発地震で西半割れが発生し、1週間以内に後発地震で東半割れが発生した場合、津波からの避難意識を高め、さらに事前避難を行った場合、東半割れによる死者数は大幅な減少となる推計結果となりました。

避難意識が高まっている状態では約33,400人、加えて事前避難を行った場合においては、約39,000人の死者数の減少と推計されます。

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

先発地震の発生により、気象庁から南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表されると、市町から、**事前避難対象地域**※の住民の方に対して、最初の地震から1週間を基本とした事前避難を呼びかけます。

※後発地震発生時に津波からの避難が間に合わない地域として市町があらかじめ指定する地域です。

今回は、【30分以内に30cmの津波浸水が生じる地域のすべての住民が、先発地震の発生後に津波浸水が生じない地域に避難する場合】として推計を行っています。

- 津波からの避難意識が高まっている状態
 - …津波からすぐに避難する割合※が、20%から70%に向上
- ※すぐに避難する割合
 - …発災5分後（深夜に発災した場合は10分後）に避難を開始する人の割合

「-」:わずか（5未満）

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

津波：西半割れ ケース④

東半割れ ケース①

時期：冬・深夜

地域区分	市町名	先発地震で西半割れが発生した場合	(参考)東半割れが単独で発生した場合	先発地震で西半割れが発生し、後発地震で東半割れが発生した場合の後発地震による津波による死者数	
				津波からの避難意識が高まっているが、事前避難対象地域の住民避難が無い場合	津波からの避難意識が高まっており、事前避難対象地域の住民避難がある場合 ※後発地震の津波浸水深が30cm以上30分以内に到達する地域の住民が先発地震発生後に浸水域外へ事前避難した場合
北勢	桑名市	-	約 2,800	約 700	約 200
	いなべ市	-	-	-	-
	木曽岬町	-	約 600	約 60	約 40
	東員町	-	-	-	-
	四日市市	-	約 700	約 80	約 70
	菰野町	-	-	-	-
	朝日町	-	約 10	-	-
	川越町	-	約 600	約 90	約 80
中勢	鈴鹿市	-	約 1,000	約 50	約 50
	亀山市	-	-	-	-
	津市	-	約 3,800	約 300	約 300
	松阪市	-	約 2,500	約 300	約 200
伊賀	多気町	-	-	-	-
	明和町	-	約 400	約 70	約 70
	大台町	-	-	-	-
伊勢志摩	伊賀市	-	-	-	-
	名張市	-	-	-	-
	伊勢市	-	約 5,500	約 1,000	約 900
	鳥羽市	約 30	約 500	約 70	-
	志摩市	約 30	約 3,000	約 700	-
	玉城町	-	-	-	-
	南伊勢町	約 300	約 4,300	約 1,000	-
東紀州	大紀町	約 10	約 1,300	約 300	-
	度会町	-	-	-	-
	尾鷲市	約 100	約 4,300	約 600	-
	紀北町	約 30	約 7,400	約 2,100	-
	熊野市	約 30	約 700	約 200	-
県計	御浜町	-	約 30	-	-
	紀宝町	-	約 1,000	約 30	-
県計			約 500	約 41,000	約 7,600
					約 2,000

4. 半割れケース (3) 半割れケースの想定結果【リスク】

定量評価

死者数【L1】
(時間差連動)

- 【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

先発地震の発生により、気象庁から南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発表されると、市町から、**事前避難対象地域**※の住民の方に対して、最初の地震から1週間を基本とした事前避難を呼びかけます。

※後発地震発生時に津波からの避難が間に合わない地域として市町があらかじめ指定する地域です。
今回は、【30分以内に30cmの津波浸水が生じる地域のすべての住民が、先発地震の発生後に津波浸水が生じない地域に避難する場合】として推計を行っています。

●津波からの避難意識が高まっている状態
…津波からすぐに避難する割合※が、20%から70%に向上
※すぐに避難する割合
…発災5分後(深夜に発災した場合は10分後)に避難を開始する人の割合

概観

先発地震で西半割れが発生し、1週間以内に後発地震で東半割れが発生した場合、津波からの避難意識を高め、さらに事前避難を行った場合、東半割れによる死者数は大幅な減少となる推計結果となりました。

避難意識が高まっている状態では約19,800人、加えて事前避難を行った場合においては、約26,700人の死者数の減少と推計されます。

地域区分	市町名	先発地震で西半割れが発生した場合	(参考)東半割れが単独で発生した場合	先発地震で西半割れが発生し、後発地震で東半割れが発生した場合の後発地震による津波による死者数	
				津波からの避難意識が高まっているが、事前避難対象地域の住民避難が無い場合	津波からの避難意識が高まっており、事前避難対象地域の住民避難がある場合 ※後発地震の津波浸水深が30cm以上30分以内に到達する地域の住民が先発地震発生後に浸水域外へ事前避難した場合
北勢	桑名市	-	約 300	約 30	約 10
	いなべ市	-	-	-	-
	木曽岬町	-	約 10	-	-
	東員町	-	-	-	-
	四日市市	-	約 70	約 10	-
	菰野町	-	-	-	-
	朝日町	-	-	-	-
	川越町	-	約 200	約 20	約 10
	鈴鹿市	-	約 100	約 10	-
中勢	亀山市	-	-	-	-
	津市	-	約 1,100	約 30	約 20
	松阪市	-	約 700	約 20	約 10
	多気町	-	約 9	-	-
	明和町	-	約 200	約 10	約 10
伊賀	大台町	-	-	-	-
	伊賀市 名張市	-	-	-	-
伊勢志摩	伊勢市	-	約 2,200	約 200	約 200
	鳥羽市	約 70	約 900	約 100	-
	志摩市	約 20	約 2,400	約 1,100	-
	玉城町	-	-	-	-
	南伊勢町	約 300	約 5,200	約 1,100	-
	大紀町	約 20	約 1,300	約 400	-
	度会町	-	-	-	-
東紀州	尾鷲市	約 200	約 4,300	約 1,500	-
	紀北町	約 70	約 7,100	約 2,400	-
	熊野市	約 50	約 400	約 100	-
	御浜町	-	-	-	-
	紀宝町	-	約 100	約 100	-
県計			約 800	約 27,000	約 7,200
					約 300

「-」:わずか(5未満)
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。
時期:冬・深夜

4. 半割れケース (3) 半割れケースの想定結果【リスク】

定量評価

全壊・焼失棟数
【L2】半割れケース

概観

西半割れが単独で発生した場合は約4,500棟、東半割れが単独で発生した場合は約220,000棟の全壊・焼失と推計されます。

東半割れでは揺れによる全壊・焼失が約152,000棟と全体の7割近くを占めています。

地域区分	市町名	西半割れ(単独)						東半割れ(単独)					
		全壊・焼失棟数					合計	全壊・焼失棟数					合計
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	
北勢	桑名市	約 10	約 600	-	-	-	約 600	約 4,800	約 900	約 5,300	約 40	約 500	約 12,000
	いなべ市	-	-	-	-	-	-	約 600	-	-	約 20	約 70	約 700
	木曽岬町	-	約 100	-	-	-	約 100	約 700	約 100	約 1,800	-	約 10	約 2,700
	東員町	-	-	-	-	-	-	約 500	-	-	-	約 90	約 600
	四日市市	約 40	約 500	約 10	-	-	約 600	約 20,000	約 900	約 700	約 200	約 3,700	約 25,000
	菰野町	-	-	-	-	-	-	約 1,400	-	-	-	約 100	約 1,500
	朝日町	-	約 10	-	-	-	約 10	約 500	約 30	約 20	-	約 100	約 700
	川越町	-	約 60	-	-	-	約 60	約 800	約 100	約 1,600	-	約 100	約 2,600
	鈴鹿市	約 20	約 60	-	-	-	約 80	約 7,800	約 100	約 300	約 10	約 2,800	約 11,000
	亀山市	-	-	-	-	-	-	約 1,000	-	-	約 20	約 10	約 1,000
中勢	津市	約 30	約 700	-	-	-	約 700	約 19,000	約 800	約 5,600	約 200	約 5,400	約 31,000
	松阪市	約 30	約 300	-	-	-	約 300	約 20,000	約 400	約 2,100	約 60	約 3,200	約 25,000
	多気町	-	-	-	-	-	-	約 4,200	-	-	約 30	約 200	約 4,400
	明和町	-	-	-	-	-	約 10	約 4,300	約 10	約 1,000	-	約 800	約 6,200
	大台町	-	-	-	-	-	-	約 1,400	-	-	-	約 10	約 1,400
伊賀	伊賀市	約 10	-	-	-	-	約 10	約 800	-	-	約 80	約 10	約 900
	名張市	約 20	-	-	-	-	約 20	約 400	-	-	約 40	-	約 400
伊勢志摩	伊勢市	約 10	約 300	-	約 10	-	約 300	約 26,000	約 300	約 3,100	約 70	約 4,300	約 34,000
	鳥羽市	-	-	約 60	-	-	約 60	約 3,100	-	約 2,100	約 100	約 300	約 5,600
	志摩市	-	-	約 100	-	-	約 100	約 8,800	約 10	約 4,400	約 70	約 1,300	約 15,000
	玉城町	-	-	-	-	-	-	約 2,700	-	-	-	約 300	約 3,000
	南伊勢町	-	約 10	約 80	約 70	-	約 200	約 5,000	約 20	約 2,500	約 500	約 100	約 8,100
	大紀町	-	-	約 10	-	-	約 20	約 1,200	約 10	約 600	約 100	-	約 1,900
	度会町	-	-	-	-	-	-	約 1,200	-	-	約 20	約 50	約 1,200
東紀州	尾鷲市	-	-	約 100	約 10	-	約 200	約 4,300	-	約 2,400	約 200	約 700	約 7,600
	紀北町	約 10	約 70	約 30	約 50	-	約 200	約 5,100	約 70	約 3,700	約 300	約 200	約 9,300
	熊野市	約 100	-	約 40	約 10	-	約 200	約 3,800	-	約 300	約 200	約 300	約 4,600
	御浜町	約 200	-	-	-	-	約 200	約 1,600	-	約 20	約 10	約 100	約 1,800
	紀宝町	約 600	-	-	-	-	約 600	約 1,000	-	約 200	約 10	約 50	約 1,200
県計		約 1,200	約 2,700	約 500	約 200	約 20	約 4,500	約 152,000	約 3,800	約 38,000	約 2,300	約 25,000	約 220,000

「-」:わずか(5未満)

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

時期:冬・夕方

○【L2】理論上最大クラス

○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

4. 半割れケース (3) 半割れケースの想定結果【リスク】

定量評価

全壊・焼失棟数
【L1】半割れケース

概観

西半割れが単独で発生した場合は約2,500棟、東半割れが単独で発生した場合は約50,000棟の全壊・焼失と推計されます。

東半割れでは揺れによる全壊・焼失が約17,000棟、津波による全壊・焼失が約28,000棟で、合わせて全体の9割を占めています。

地域区分	市町名	西半割れ(単独)					合計	東半割れ(単独)					合計
		全壊・焼失棟数						全壊・焼失棟数					
		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災		揺れ	液状化	津波	急傾斜地	火災	
北勢	桑名市	-	約 200	-	-	-	約 200	約 500	約 900	約 2,000	約 20	約 10	約 3,400
	いなべ市	-	-	-	-	-	-	約 20	-	-	-	-	約 20
	木曽岬町	-	約 40	-	-	-	約 40	約 50	約 100	約 50	-	-	約 200
	東員町	-	-	-	-	-	-	約 30	-	-	-	-	約 30
	四日市市	-	約 40	約 10	-	-	約 50	約 1,600	約 900	約 300	約 20	約 10	約 2,800
	菰野町	-	-	-	-	-	-	約 40	-	-	-	-	約 40
	朝日町	-	-	-	-	-	-	約 50	約 30	約 10	-	-	約 90
	川越町	-	-	-	-	-	-	約 90	約 100	約 1,100	-	-	約 1,300
	鈴鹿市	-	約 10	-	-	-	約 10	約 800	約 100	約 70	-	約 10	約 1,000
亀山市	-	-	-	-	-	-	約 60	-	-	約 10	-	約 70	
中勢	津市	約 10	約 300	-	-	-	約 300	約 1,600	約 800	約 1,300	約 80	約 20	約 3,900
	松阪市	約 10	約 100	-	-	-	約 200	約 1,700	約 300	約 1,100	約 40	約 10	約 3,200
	多気町	-	-	-	-	-	-	約 300	-	-	約 10	-	約 400
	明和町	-	-	-	-	-	-	約 400	約 10	約 900	-	-	約 1,400
	大台町	-	-	-	-	-	-	約 100	-	-	約 10	-	約 200
伊賀	伊賀市	-	-	-	-	-	-	約 40	-	-	約 10	-	約 50
	名張市	-	-	-	-	-	-	約 30	-	-	-	-	約 30
伊勢志摩	伊勢市	-	約 100	-	-	-	約 100	約 2,200	約 300	約 4,400	約 60	約 20	約 7,000
	鳥羽市	-	-	約 80	-	-	約 80	約 600	-	約 2,000	約 100	-	約 2,700
	志摩市	-	-	約 70	-	-	約 70	約 1,800	-	約 3,000	約 60	約 10	約 4,800
	玉城町	-	-	-	-	-	-	約 200	-	-	-	-	約 200
	南伊勢町	-	約 10	約 300	-	-	約 300	約 1,400	約 20	約 3,200	約 300	-	約 4,900
	大紀町	-	-	約 10	-	-	約 10	約 200	約 10	約 800	約 80	-	約 1,000
	度会町	-	-	-	-	-	-	約 100	-	-	約 10	-	約 100
東紀州	尾鷲市	-	-	約 300	-	-	約 300	約 300	-	約 3,400	約 200	-	約 3,800
	紀北町	-	約 60	約 100	-	-	約 200	約 1,200	約 70	約 3,900	約 200	-	約 5,400
	熊野市	約 90	-	約 60	約 30	-	約 200	約 500	-	約 300	約 200	-	約 900
	御浜町	約 100	-	-	-	-	約 100	約 400	-	-	約 10	-	約 400
	紀宝町	約 300	-	-	約 10	-	約 300	約 600	-	約 10	約 30	-	約 600
県計		約 500	約 900	約 1,000	約 50	約 10	約 2,500	約 17,000	約 3,700	約 28,000	約 1,400	約 100	約 50,000

「-」:わずか(5未満)

※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

時期:冬・夕方

○【L1】過去最大クラス

○三重県全体で最も被害が大きくなるケース

4. 半割れケース

(3) 半割れケースの想定結果【リスク】

定量評価

揺れによる全壊棟数【L2】
(時間差連動)

- 【L2】理論上最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

概観

先発地震で建物が損傷を受けることにより、後発地震の揺れによる全壊棟数が増加する推計結果となりました。

東半割れが単独で発生した場合は約152,000棟、西半割れが単独で発生した場合は約1,200棟で、合計は約153,200棟と推計されますが、先発地震で西半割れが発生し、後発地震で東半割れが発生した場合、先発地震での損傷の影響により、約154,000棟の全壊棟数となり、全壊棟数が増加する推計結果となりました。

地域区分	市町名	東半割れ(単独)	西半割れ(単独)	先発:東半割れ、後発:西半割れ	先発:西半割れ、後発:東半割れ
北勢	桑名市	約 4,800	約 10	約 5,100	約 4,800
	いなべ市	約 600	-	約 800	約 600
	木曽岬町	約 700	-	約 800	約 700
	東員町	約 500	-	約 700	約 500
	四日市市	約 20,000	約 40	約 20,000	約 20,000
	菰野町	約 1,400	-	約 1,400	約 1,400
	朝日町	約 500	-	約 600	約 500
	川越町	約 800	-	約 900	約 800
	鈴鹿市	約 7,800	約 20	約 8,600	約 7,800
	亀山市	約 1,000	-	約 1,000	約 1,000
中勢	津市	約 19,000	約 30	約 20,000	約 19,000
	松阪市	約 20,000	約 30	約 20,000	約 20,000
	多気町	約 4,200	-	約 4,300	約 4,200
	明和町	約 4,300	-	約 4,400	約 4,400
	大台町	約 1,400	-	約 1,500	約 1,400
伊賀	伊賀市	約 800	約 10	約 800	約 800
	名張市	約 400	約 20	約 400	約 400
伊勢志摩	伊勢市	約 26,000	約 10	約 27,000	約 26,000
	鳥羽市	約 3,100	-	約 3,300	約 3,100
	志摩市	約 8,800	-	約 8,800	約 8,800
	玉城町	約 2,700	-	約 2,800	約 2,700
	南伊勢町	約 5,000	-	約 5,000	約 5,000
	大紀町	約 1,200	-	約 1,200	約 1,200
	度会町	約 1,200	-	約 1,200	約 1,200
東紀州	尾鷲市	約 4,300	-	約 4,200	約 4,300
	紀北町	約 5,100	約 10	約 5,100	約 5,100
	熊野市	約 3,800	約 100	約 3,800	約 4,200
	御浜町	約 1,600	約 200	約 1,700	約 2,100
	紀宝町	約 1,000	約 600	約 1,600	約 1,700
県計	約 152,000	約 1,200	約 157,000	約 154,000	

「-」:わずか(5未満)
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

4. 半割れケース (3) 半割れケースの想定結果【リスク】

定量評価

揺れによる全壊棟数【L1】
(時間差連動)

- 【L1】過去最大クラス
- 三重県全体で最も被害が大きくなるケース

概観

先発地震で建物が損傷を受けることにより、後発地震の揺れによる全壊棟数が増加する推計結果となりました。

東半割れが単独で発生した場合は約17,000棟、西半割れが単独で発生した場合は約500棟で、合計は約17,500棟と推計されますが、先発地震で西半割れが発生し、後発地震で東半割れが発生した場合、先発地震での損傷の影響により、約19,000棟の全壊棟数となり、全壊棟数が増加する推計結果となりました。

地域区分	市町名	東半割れ(単独)	西半割れ(単独)	先発:東半割れ、後発:西半割れ	先発:西半割れ、後発:東半割れ
北勢	桑名市	約 500	-	約 600	約 500
	いなべ市	約 20	-	約 20	約 20
	木曽岬町	約 50	-	約 50	約 50
	東員町	約 30	-	約 30	約 30
	四日市市	約 1,600	-	約 1,600	約 1,600
	菰野町	約 40	-	約 40	約 40
	朝日町	約 50	-	約 70	約 50
	川越町	約 90	-	約 100	約 90
	鈴鹿市	約 800	-	約 1,000	約 800
亀山市	約 60	-	約 70	約 60	
中勢	津市	約 1,600	約 10	約 1,900	約 1,700
	松阪市	約 1,700	約 10	約 1,800	約 1,700
	多気町	約 300	-	約 300	約 300
	明和町	約 400	-	約 400	約 400
	大台町	約 100	-	約 200	約 100
伊賀	伊賀市	約 40	-	約 40	約 40
	名張市	約 30	-	約 30	約 30
伊勢志摩	伊勢市	約 2,200	-	約 2,200	約 2,200
	鳥羽市	約 600	-	約 600	約 600
	志摩市	約 1,800	-	約 1,800	約 1,800
	玉城町	約 200	-	約 200	約 200
	南伊勢町	約 1,400	-	約 1,400	約 1,400
	大紀町	約 200	-	約 200	約 200
	度会町	約 100	-	約 100	約 100
東紀州	尾鷲市	約 300	-	約 300	約 300
	紀北町	約 1,200	-	約 1,200	約 1,300
	熊野市	約 500	約 90	約 900	約 900
	御浜町	約 400	約 100	約 800	約 800
	紀宝町	約 600	約 300	約 1,100	約 1,200
県計	約 17,000	約 500	約 19,000	約 19,000	

「-」:わずか(5未満)
※端数処理のため、合計が各数値の和に一致しない場合がある。

(巻末) 用語集

用語	説明
【P1】 南海トラフ	静岡県の駿河湾から九州東方沖までの海底で、約700 kmにわたって続く水深4,000m級の深い溝(トラフ)の名称。マグニチュード8クラスの巨大地震が概ね100年から150年ごとに発生している。
【P1】 プレート	地球の地上部にあたる「地殻」と、その下層にある「上部マントル」の地殻に近いところにある、硬い板状の岩盤。地球の表面は十数枚のプレートに覆われており、岩盤がずれる、破壊される際に地震が発生すると考えられている。
【P2】 リアス海岸	地殻変動による陸地の沈降や気候の変動による海面の上昇などによって、海岸に近い深い谷に海水が入り込み、ノコギリの歯のように複雑に入り組んだ海岸。
【P2】 海拔ゼロメートル地帯	海岸付近で地表の標高が満潮時の平均海水面よりも低い土地のこと。
【P2】 震源域	地震は地価の岩盤の破壊現象であり、一般にはある面(断層面)に沿って、その面の両側の岩盤が急激にずれ動く現象である。最初に「ずれ」が始まった点を震源と言い、「ずれ」が生じた範囲全体のことを震源域と言う。
【P3】 M_w (モーメントマグニチュード)	地震の規模を示す指標のひとつ。地震波形全体を詳細に分析して算出されており、巨大な地震の規模を求めるのに適しているとされている。
【P4】 航空レーザー測量	航空機から地上にレーザー光を照射し、地上から反射したレーザー光により標高を取得する測量方法。広範囲の標高を精度良く素早く計測することができる。

用語	説明
【P7】 地震断層モデル	特定の断層の活動により地震が発生した場合に、どの程度の地震動が生じるのかを数値計算で求めるために設定するモデル。
【P7】 津波断層モデル	特定の断層の活動により津波が発生した場合に、どの程度の津波が生じるのかを数値計算で求めるために設定するモデル。
【P7】 ボーリングデータ	ボーリング調査とは、地盤をくり抜いて穴を空け、地盤の硬さや地層状況を判断するために行われる調査法である。今回の被害想定においては、主に道路・河川・港湾事業等の地質・土質調査成果であるボーリング柱状図をデータ化したものを用いている。
【P7】 地形区分データ	地形を形態、成り立ち、性質などによって区分し、デジタル化されたデータで、地震動の災害リスクを評価する際に用いる。
【P7】 DEMデータ	DEMとは数値標高モデル (Digital Elevation Model) の略で、DEMデータは標高をデジタル化したデータを指す。
【P8】 南海トラフの巨大地震モデル検討会	中央防災会議に設置されている、南海トラフ地震対策として想定すべき最大クラスの対象地震の設定方針を検討する会合。
【P8】 強震動生成域	特に強い地震動を発生させる領域であり、SMGA (strong motion generation areas) と呼ばれる。
【P8】 大すべり域	地震の際に、断層が大きくすべる範囲をさし、地震や津波の発生状況に大きく影響する。

用語	説明
【P9】宝永地震	1707年10月28日に、遠州灘沖合から四国沖にかけての領域を震源域として発生した「南海トラフでのプレート境界の地震」。静岡県沿岸部で震度6強～7、愛知県・三重県沿岸部では震度5強～6強の揺れであったとみられる。三重県では現・南伊勢市（南伊勢町東宮）で8mの津波被害があったとされている。
【P9】安政東海地震	1854年11月4日に安政東海地震、翌5日に安政南海地震が起き、伊豆から四国までの広範な地帯に死者数千名、倒壊家屋3万軒以上という被害をもたらした。いわゆる「東半割れの地震」のあと、「西半割れの地震」が後発地震として発生したもの。三重県内では尾鷲市や志摩市、鳥羽市で津波の被害が著しかったとみられている。
【P9】安政南海地震	
【P9】昭和東南海地震	1944年12月7日13時35分、熊野灘を震源とするマグニチュード7.9の地震。この地震により、三重県津市や静岡県御前崎市で震度6を観測したほか、亀山市や尾鷲市で震度5を観測、また、地震発生後の5～15分後には、三重県南部の沿岸では8～10メートルの津波に見舞われ、大きな被害が発生。
【P9】昭和南海地震	1946年12月21日午前4時19分、和歌山県南方沖を震源とするマグニチュードは8.0の地震。徳島市、高知市などで震度5が観測され、最大6メートル程度の津波に見舞われ、高知県の沿岸部を中心に甚大な津波被害が発生。
【P9】すべり量	地震の際に断層がすべる長さ。

用語	説明
【P11】 ベクトルタイル地形区分 データ	国土地理院が公開している土地条件図、脆弱地形調査、治水地形分類図、沿岸海域土地条件図及び地形分類データを、1つのレイヤとして整理されたデータ
【P12】 海底地形データ	津波浸水予測を行うため、海底地形（水深）を格子（メッシュ）で表現したデータ
【P12】 河川河床標高	河川の河床（底面）の標高のことであり、縦横断測量や航空レーザー測量（ALB）により測定される。
【P12】 耐震性照査	構造物が地震時に要求される強度や機能を維持できるかについて、解析や計算で確認すること。応答値（地震による変形・応力）と限界値（耐えられる限界）を比較し、構造の安全性を判定する。
【P13】 距離減衰式	震源からの距離や地震規模等と揺れの強さ（計測震度、最大速度等）との関係式。地震観測記録を統計的に処理して作成されている手法。
【P13】 統計的グリーン関数法	大地震の地震波を小地震の地震波の足し合わせで表現する波形合成法のうち、小地震の地震波を人工的に作成する手法。対して、経験的グリーン関数法は小地震の地震波に地震観測記録を用いる手法。
【P18】 液状化指数（PL値）	ある地点の液状化の可能性を総合的に判断するための指標。PL 値が小さいと液状化発生の可能性が小さく、高いと液状化の危険性が高くなる。
【P22】 沿岸	海岸線に沿って隣接する海・湖・河川等の水域部。
【P22】 沖合	海岸線から数百メートル～数キロほど離れた海域を指す。

用語	説明
【P24】 初期水位	地震発生時の海域の水位を示す。津波浸水想定においては、地震発生前の初期水位は朔望平均満潮位を指し、地震発生後の初期水位は地殻変動によって生じる海域の水位変動量を指す。
【P24】 粗度係数	津波の遡上に対する抵抗力を表す数値で、土地利用区分に応じて与えられる摩擦係数。
【P25】 越流破堤	津波が堤防を乗り越えた際に、水の流れによって堤防が浸食を受けて破壊することを指す。
【P25】 陸閘	防潮堤が道路や通路を横断するところで、通常時は車両などの通行を確保するため開放されているが、津波や高潮により外水（海）側の水位が高くなった場合、閉鎖して海水が市街地に入るのを防ぐ施設。
【P25】 朔望平均満潮位	新月（朔）と満月（望）に観測される最高潮位より算出される潮位であり、潮位が高い条件の潮位を示す。津波シミュレーションの潮位条件として使用される。
【P27】 汀線	海水面と陸地の境界線。沿岸津波高を予測する地点としている。
【P27】 平均海面	長い年月にわたって連続的に海面を観測し、その平均をとった際に示す一定の高さ。
【P31】 南海トラフ地震臨時情報	南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、大規模地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報。歴史上、南海トラフ沿いの大規模地震は東側、西側でほぼ同時か時間差で発生しているため、同様の事象に注意を促すために発表される。

用語	説明
【P33】 自然排水	陸地に浸水した水をポンプ等の機械を使用せず、地形や勾配、土壌の浸透性を利用して排出する方法。
【P65】 倒壊	建物が倒れる、または潰れている状況に至っている場合を指す。なお内閣府が策定している「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」では明確に定義されておらず、「一見して倒壊している場合は全壊とみなす」というように、全壊に含まれる位置づけとなっている。
【P66】 屋内滞留率	ある時間帯において、建物内にいる人の割合を示したもの。建物内で地震によって死傷する人数を推計する際などにおいて、補正係数として用いる。
【P67】 早期避難率	地震発生後に津波からの避難を開始するまでの時間について、5分以内（※深夜の場合は10分以内）に避難を開始する人の割合をさす。
【P91】 全壊	建物を再建しなければ利用できない状態であり、「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」においては損害率50%以上と位置づけられている。
【P91】 半壊	「全壊」に至らないケースで、損害率10%以上のものをさす。
【P92】 DID地区	「人口集中地区」のこと。国勢調査結果を踏まえて設定される。人口密度が4,000人/km ² 以上の基本単位区（※国勢調査の際に区分される調査単位）が隣接している範囲の中で、さらに人口5,000人以上を有する基本単位区が設定される。

用語	説明
【P104】 側方流動	液状化に伴い、地盤全体が水平にずれる現象をさす。過去の地震災害において、建物に大きな被害をもたらしたほか、ライフライン・インフラに大きな被害をもたらす原因となっている。
【P107】 感震ブレーカー	地震を感知する信号が設定値（震度6等）以上となった場合に、電気を自動的に遮断する機能を備えた遮断器。一般的なブレーカー（漏電がある場合のみ自動遮断）では防げない通電火災の防止効果がある。
【P107】 延焼クラスター	建物が密集している等、延焼する危険が高いと思われるエリアを「延焼クラスター」として設定するもので、この範囲のどこかで火災が発生した場合は延焼クラスターに含まれる範囲全体が焼失するまで延焼を阻止できない（消火できない）という前提のもと、被害想定を行っている。